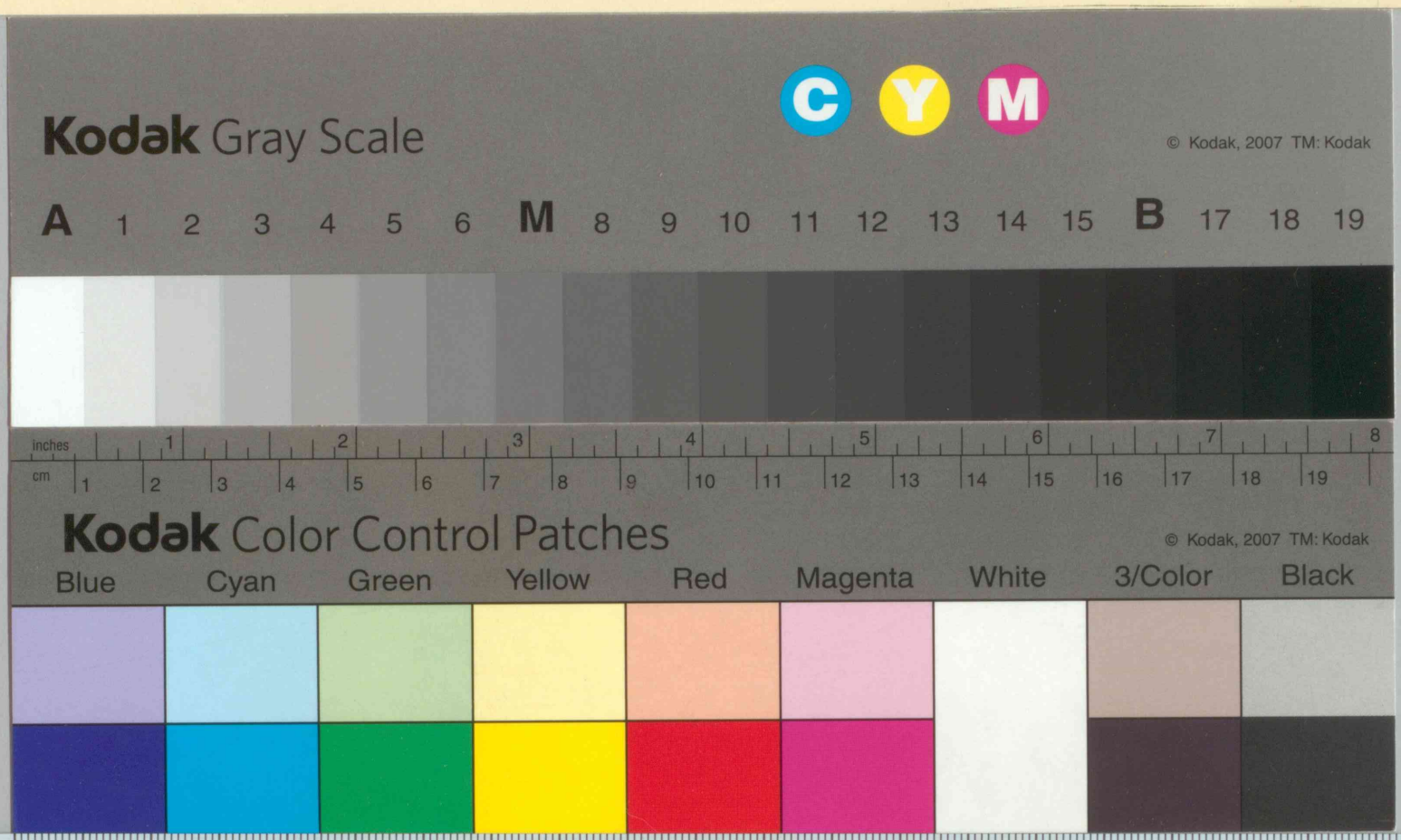
41291
教科書文庫
4
920
42-1936
26000
89565



広島大学図書
2000089565

4b
930
HB11

教科書文庫
4
920
42-1936
2000089565

教育学科
資料室

昭和十一年三月三日
文部省檢定濟
師範學校・高等女學校裁縫科用　實業學校家事及裁縫科用

現代
裁縫教科書

〔卷二〕

東京女子專門學校講師
吉村千鶴著

広島大学
蔵
89565
図書

東京開成館

広島大学図書
2000089565

改版の要旨

本書は初版以來多大の信望を辱ふしましたことは無上の光榮として深く感謝いたします。

然るに本書をして一層實際に適切な教科書たらしめ以て斯界の期待を虛しうしないものとなしたく遂に今回の修正を企てた譯であります。卽ちそれは衣服調製の趨勢に應じ各卷に洋服篇の分量を增加し各學年に於て時代の新傾向を加味した實用上の技能を修得させるに遺憾なきやう教材を選擇した。從來の如き裁ち方の縮寫圖によつては實際の大さを直ちに想像することは至難であるからその割合を一定にした。卽ち裁ち方圖に於て布幅はすべて實物の二十分の一にし布丈は百分の一にし特に廣幅物は五十分の一にしたなどその一例である。(但し小袖重ね・比翼は特殊なものであるから例外とした) なほ各種の縫ひ方圖を隨所に挿入して理解を容易にし更に全篇に亙つて挿圖に新考案をめぐらし教授の効果を大にし興味を深からしめるやうにした。

實に今回の改版は著者が最善の努力に成つたものでありますがそれについて懇篤な助言並に種々の援助を惠まれました方々に對し謹んで謝意を表します。

昭和十年初秋　　著者しるす

前版例言

大正十一年本書の前身である新制裁縫教科書發行以來既に十有餘年を經たが，裁縫教授の進運とメートル法の施行とに伴ひ，大正十四年新に現代裁縫教科書の書名に改めてその初版が發行されるや，非常の好評を博して全國多數の學校に採用せられたのはまことに著者の光榮とするところである。著者は今もなほ舊の如く衣服調製のことに思を凝らし，常にその改善に專念してゐるが，聊か考へるところがあり，こゝに年來苦心して得た資料を集めて改修に着手したのであるが，幸に實際教授者諸氏から懇篤な忠言を辱うして，この度漸くその稿を完うするに至つたので，深い自信を以て本版を公にすることが出來たのは衷心喜悅に堪へない次第である。

今改修の要項を擧げれば凡そ次のやうである。

一，各卷について，努めて教材の取捨を行ひ說明の仕方を統一して一層教授に適切ならしめたこと。

二，新に實物を調製して畫家に寫生させたものを寫眞版として挿入し，おのづから生徒に興趣を促させるやうにしたこと。

三，全篇に亙つて教材の順序を變更し，最近に於ける裁縫教授の新傾向に鑑みて必要な事項を加へ，實際的知識を向上させるやうに圖つたこと。

著者はこの改修が裁縫教授上に於ける現代の要求に最もよく適應するものであると信ずる。しかしながら固よりこれを以て滿足するものではなく，今後も絕えず研究を積んで，そして改訂の事を怠らず本書をしていつでも斯界最善の書たらしめようことを期するものである。

なほ本書の改修につき，實際教授者諸氏から寄せられた懇篤な助言については，著者の衷心から感激して措かないところである。玆に謹んで感謝の意を表する。

昭和六年八月　　著者しるす

卷二　目次

〔和服篇〕

第一章　本裁女袷……1—15
　裾廻し各種の裁ち方　15
第二章　本裁男袷……16—23
第三章　長襦袢……24—43
　(一)　本裁女袷長襦袢　24
　(二)　本裁男袷長襦袢　38
　(三)　本裁女單長襦袢　40
　本裁女長襦袢の裁ち方各種　43
第四章　本裁女綿入……44—55
第五章　一つ身綿入……56—68
　各種長着普通仕立て上げ寸法表　69
第六章　女袴……70—86

〔洋服篇〕

第一章　ミシン……87—98
第二章　簡單な女兒服……99—105
第三章　キモノスリーブ……106—123
　その一　肩に縫目のないもの　106
　その二　肩に縫目のあるもの　111

その三　脇に切込のあるもの　115
その四　上下接ぎ合せたもの　117
その五　衿を縫ひ縮めたもの　119
第四章　割烹服……124—128
附　錄　應用自作研究材料……1—12
1 涎掛
2 子供用エプロン
3 大人用エプロン

現　代

裁縫教科書

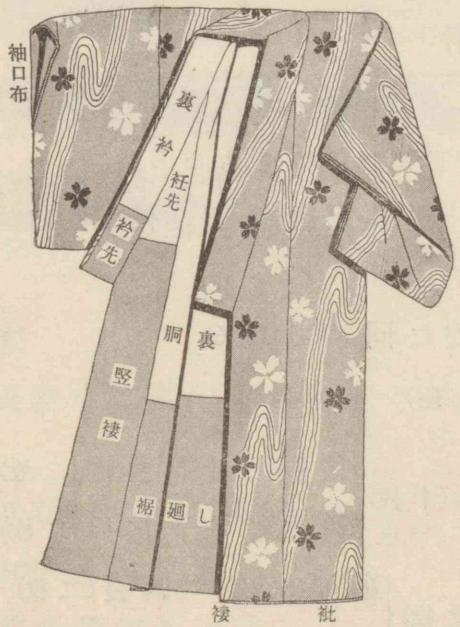
〔卷　二〕

和服篇

第一章　本裁女袷

地質は表·裏共に大體四つ身と同じものである。

一　各部の名稱



本裁女袷の各部名稱

二 仕立て上げ寸法

本裁女單衣に同じ。

但し袖口袵0.2cm 裾袵0.4cmから0.5cmまで

三 裁ち方

❶**表** 各部の裁ち方は單衣に同じである。

❷**裏** 通し裏もあるが,普通は裾廻しを附ける。

1.通し裏 身丈·衽丈で表より袵の二倍長く裁つ。他は單衣と同じである。

2.裾廻し附

(一)**裾廻し** 前·後の裾及び竪褄·衿先·袖口(袖口布は別布を用ひることもある。)

(二)**奥裏** 裏袖·胴裏·衽先·裏衿

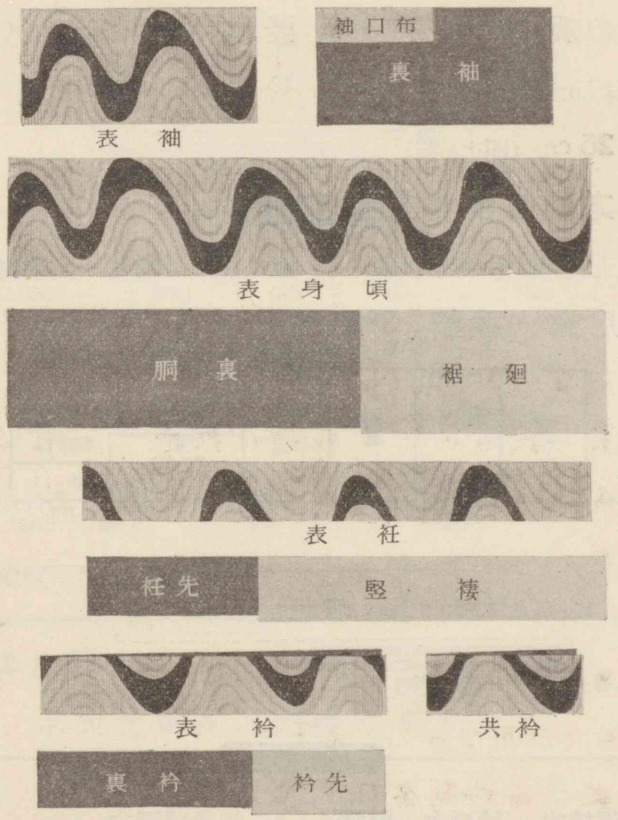
❸**布數**

1.表 單衣に同じである。

2.裏(裾廻し附)

(一)**裾廻し**(十枚) 後裾(二枚) 前裾(二枚) 竪褄(二枚) 衿先(二枚) 袖口(二枚)

(二)**奥裏**(七枚) 裏袖(二枚) 胴裏(二枚) 衽先(二枚) 裏衿(一枚)



本裁女袷の布數

❹**用布の總丈**

1.通し裏 表總丈に袵の十倍を加へたもの。

2.裾廻し附

(一)**裾廻し** 285cmから380まで

(二)**奥裏** 800cm内外

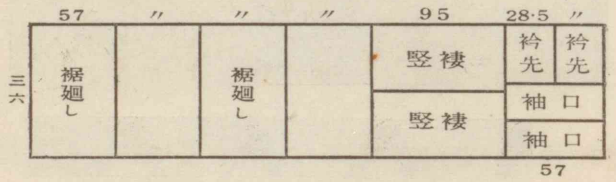
3.裾廻し各部の裁切り寸法

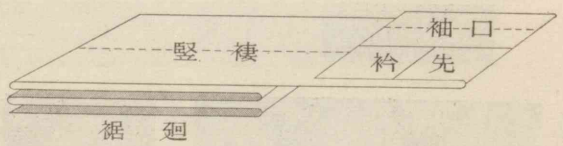
前·後の裾 50 cm 内外　竪褄 95 cm 内外（半幅で
衿下より約 20 cm 長く）　衿先 20 cm（半幅）
袖口 25 cm（四つ割）－並幅ノ4つ割 9cm

❺裁ち方圖と積り方計算

1.裾廻し

用布　並幅 380 cm



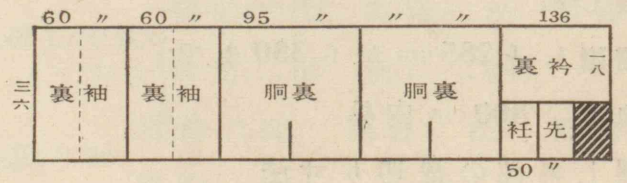


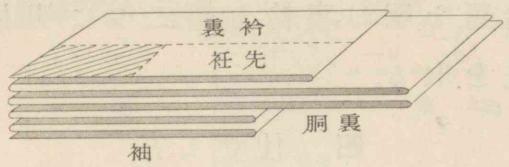
積り方

{裾廻總丈－(袖口丈＋竪褄)}÷4＝前後裾廻丈
380　57　95　57

2.裏奥

用布　並幅 756 cm





積り方

表總丈－裾廻し總丈＋袱×8＋接代×4＝奥裏總丈
1100　380　0.5　8　756

（衽先に餘分ある故袱×8とする）

{奥裏總丈－(袖丈×4＋裏衿丈)}÷4＝胴裏丈
756　60　136　95

表衿丈－衿先×2＋接代×2＝凡そ裏衿丈
180　28.5　6.5　136

接代＝4cm～10cm

❻裁切り順序

1.表　本裁女單衣と同様にする。

2.裏

(一)奥裏布及び裾廻し布の總丈を計る。

(二)裾廻し布からまづ袖口布を取り,幅を二つに切り,更に一枚は幅二つに切つて袖口布とし,一枚は丈を二つに切つて衿先とする。次に竪褄一枚を取り幅を二つに切る。殘りを四等分して前後の裾にする。

(三)奥裏布裏を袖·胴裏·裏衿の順に裁切る。胴裏

に衿肩を明け,裏衿を幅二つに切り一枚から衽先を取る。

四　仕立て方

仕立て方順序

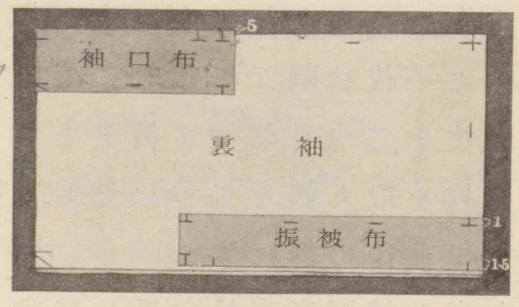
①袖　②身頃標附　③表身頃脊縫・脇縫
④裏身頃脊縫・脇縫　⑤衽標附　⑥表裏衽附
⑦裾合せ　⑧脊脇綴・身八つ口縫　⑨袖附
⑩衽の縦綴・衿下縫　⑪衿標附　⑫衿附・衿衩・共衿掛　⑬裾綴　⑭仕上げ・畳み方

❶袖

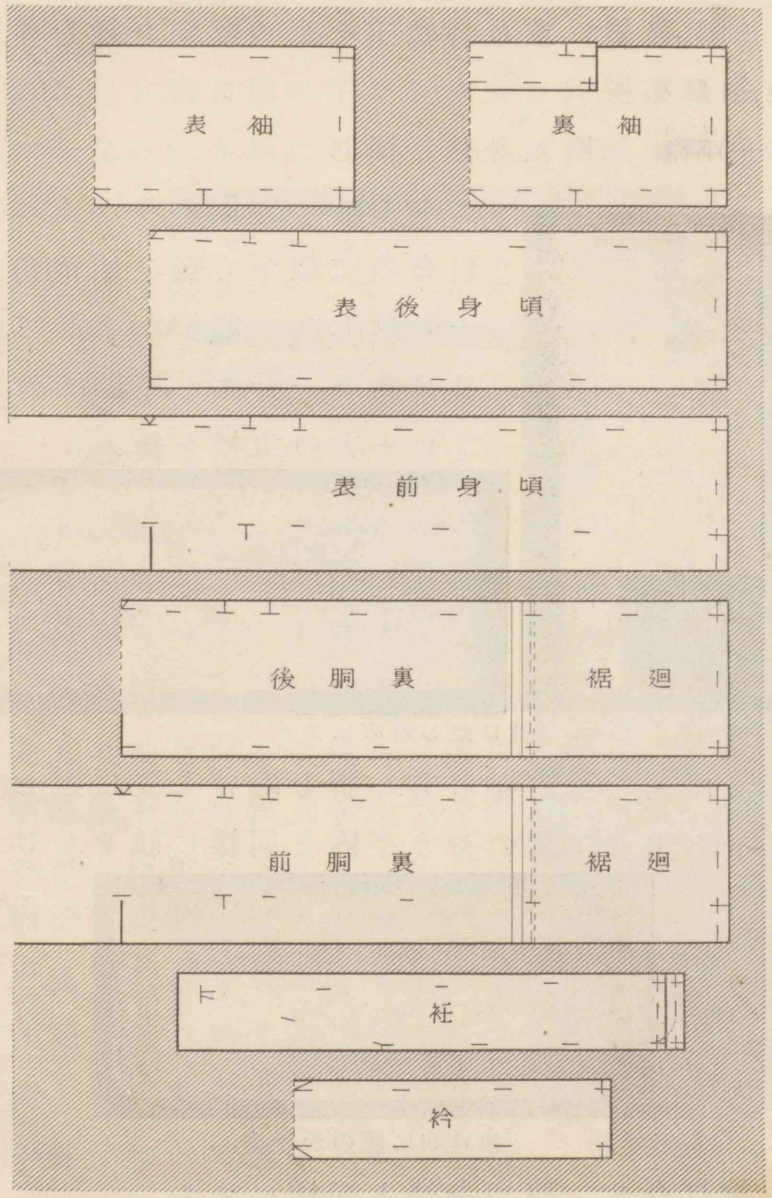
1.標附け方

(一)表袖　本裁女單衣と同様にする。

(二)裏袖　四つ身袷に準じて附ける。但し裏袖に振被(ふりかぶせ)をする時は,下圖のやうに振布を中表(なかおもて)に合せて,袖幅標から振の縫代を 1.5 cm 程出



振被せの標附け方



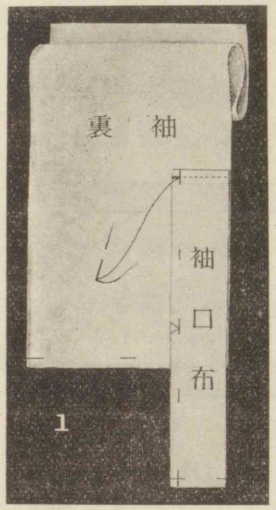
本裁女袷の標附け方綜合圖

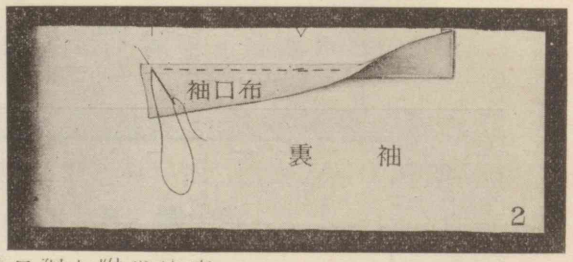
し,裏袖に重ねて幅·丈をいつぱいに標をする。

2.袖口布掛

(一)平附　四つ身袷に同じ。

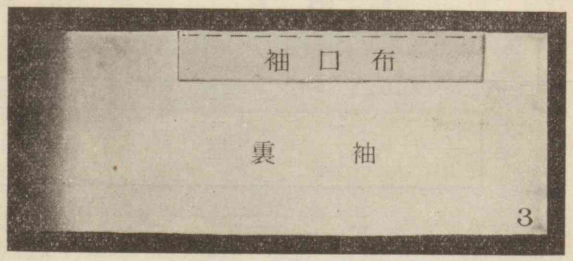
(二)廻し附　左圖のやうまづ袖口布の丈標から縫ひ始め,角で一針返し次に幅標を合せて縫ひ,又角で一針返し,下圖(2)のやうに一方の丈標を縫ふ。





袖口廻し附の仕方

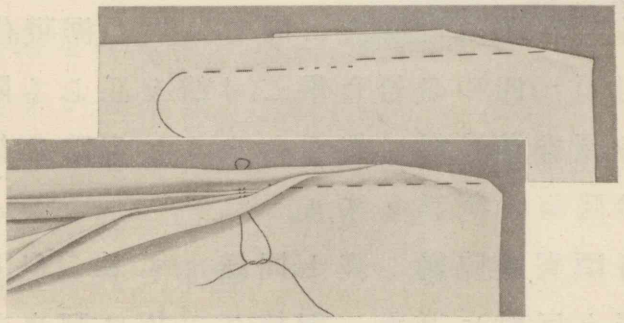
兩角を袖口布の方に折を附けて表に返し,角を整へ下圖のやう平附と同樣に躾をかける。



袖口布に躾のかけ方

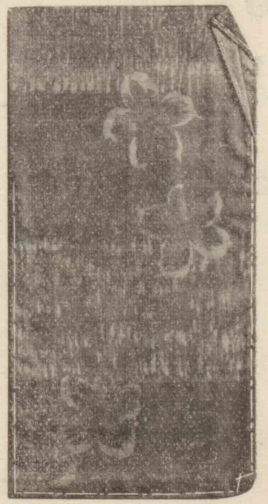
3.袖口合せ　四つ身袷と同樣にする。

4.袖口下·袖下縫　四つ身袷のやうに袖口に四つ留をなし,袖口留の下を表·裏共に外袖の縫込のつれないやう斜に折つておき留の絲で袖口布



左袖の縫ひ方

の端まで半返しで四つ縫をする。それより下は袂から袖下へと縫ひ廻し終りは幅標の約 10 cm 手前から表裏の袖を別々に縫ふ。次に平烙鏝をかけ袂丸を作つて襞を平らに整へる。



躾のかけ方

5.振縫　表裏の袖下を中表に合せ,裏袖の幅を表より少しく引き,袖下縫目の左右 1.5 cm 位の間で表の弛みを加減し,裏はやや張目にして縫ひ合せ,平烙鏝をかけ,表に返して躾をかける。次に袖口より

袖下及び振のところまで前頁圖のやうに躾をかける。

❷身頃標附

1.表身頃　本裁女單衣に同じ。但し裾縫代1cm。

2.裏身頃　四つ身袷に準じ,寸法を正しく附ける。

❸表身頃脊縫·脇縫　單衣のやうに脊·脇を縫ひ折を附け脇縫に割躾をする。

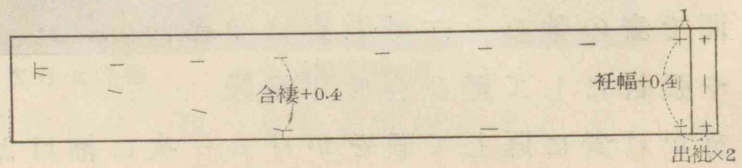
❹裏身頃脊縫·脇縫　表と同樣にする。但し脊の折は表と反對に返す。胴接ぎの折は胴裏の方に返す。

❺衽標附

1.竪褄と衽先布との接代を標て直ちに接ぎ合せ,身頃と同じ方に折を返す。

2.裏衽の上に表衽を袵の二倍だけ引いて重ね,下圖のやうに標を附ける。

❶表裾縫代	❷裏裾縫代	❸衽丈
❹衿下	❺衿下縫代	❻衽幅
❼合褄幅	❽衽附	❾衿附



3.表衽を開いて裏衽に褄形の標を附ける。

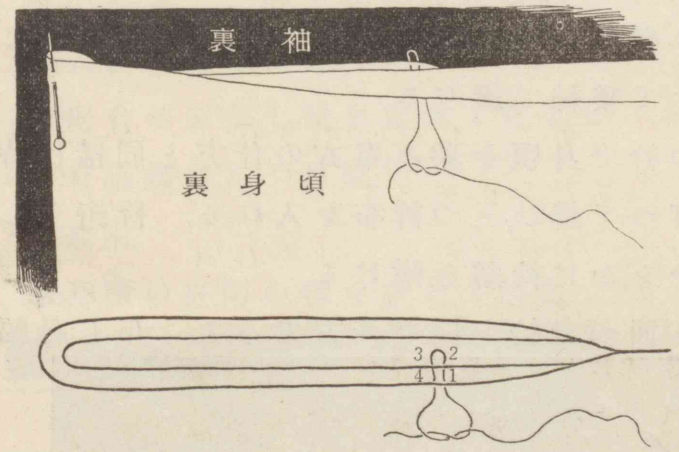
褄形標附

❻衽附　單衣と同じく表裏の衽附をなし,裾の各縫目に躾をかけておく。

❼裾合せ　丈幅の釣合を調べて裾合せ·褄上げをなし,折を返して躾をかける。

❽脊脇綴·身八つ口縫　四つ身袷に同じ。

❾袖附　表は單衣と同じ。裏は下圖の通り。



1 身頃
2 袖
3 袖
4 身頃
の順に抄ひ又元のところに針を出して結ぶ。

裏袖附の留め方

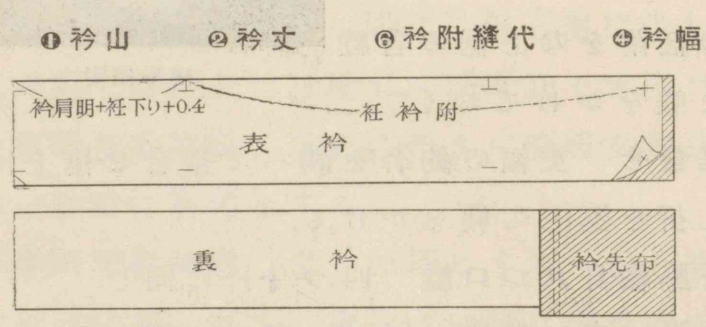
❿衽縦綴·衿下縫　四つ身袷と同樣にすればよい。

⓫衿標附

1.衿先布と裏衿とに丈標をなし,直ちに接ぎ合せ

て裏衿の方に折を返し,隠し躾をする。

2.裏衿を下,表衿を上に重ねて正しくおき,單衣のやうに衿の標附をする。

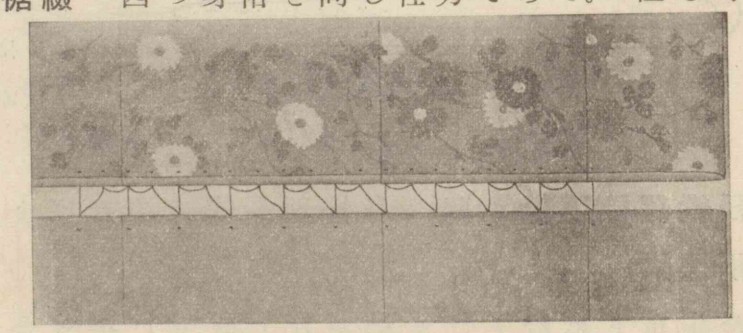


⑫衿附及び衿紵·共衿掛

1.表·裏の脊縫·衿肩明·衿先及び衽布の衿附標をよく合せて躾絲で綴ぢる。

2.表·裏の衿で身頃を狭み,單衣の仕方と同様に待針を打つて縫ひ,三つ衿布を入れる。衿紵をして共衿をかけ衿絲を附ける。

⑬裾綴　四つ身袷と同じ仕方である。但し身幅



裾綴針目の出し方

が廣いから,次のやうに針數を多くする。

後	表	9針	前	表	7針
	裏	4針		裏	3針

⑭仕上げ·疊み方　各部の丈·幅の寸法をよく改めてのち,四つ身袷と同様に仕上げをして,本裁女單衣と同じに疊んでおく。

衽附四つ縫の仕方

袷の衽附を表·裏別々にせず一緒に四つ縫にすることがある。その方法順序は次のやうである。

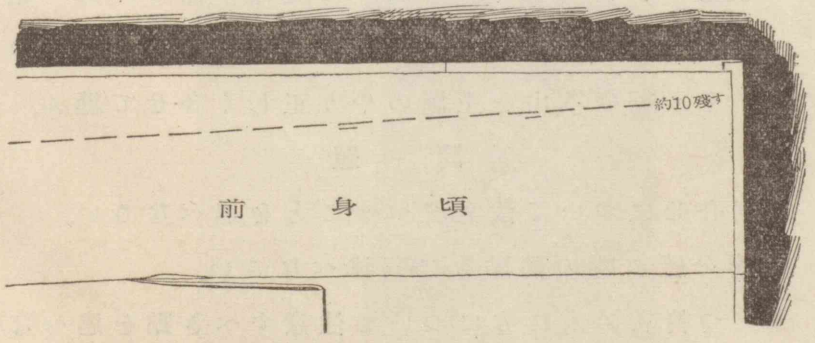
(イ)表裏の脊縫·脇縫。

(ロ)裾合せをなし,袵を定めて躾をかける。

(ハ)脊脇綴·身八つ口縫。

(ニ)袖附。

(ホ)身頃の衽附の標を合せて躾絲で綴ぢる。但

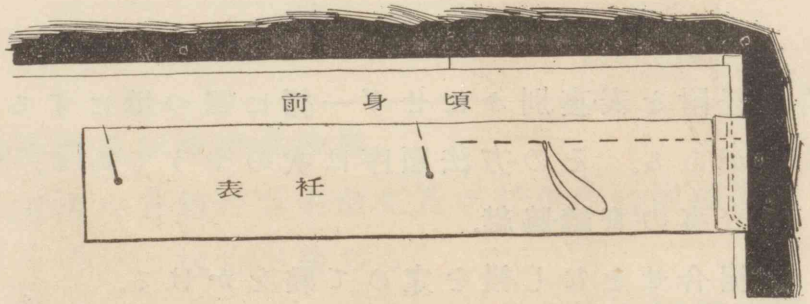


前身頃の綴ぢ合せ方

し前頁圖のやう裾口 10 cm 程は殘しておく。

(ヘ)左右の褄をあげ折を返して隱し躾をする。

(ト)下圖のやう表・裏の衽で身頃を挾み,釣合を取つて待針を打ち,裾口の方約 10 cm の間は表・裏を別々に縫ひ,それより上は四枚一束に四つ縫にして衽附をする。



衽附四つ縫の仕方

(チ)衿下を縫ふ。次は前の方法と同じである。

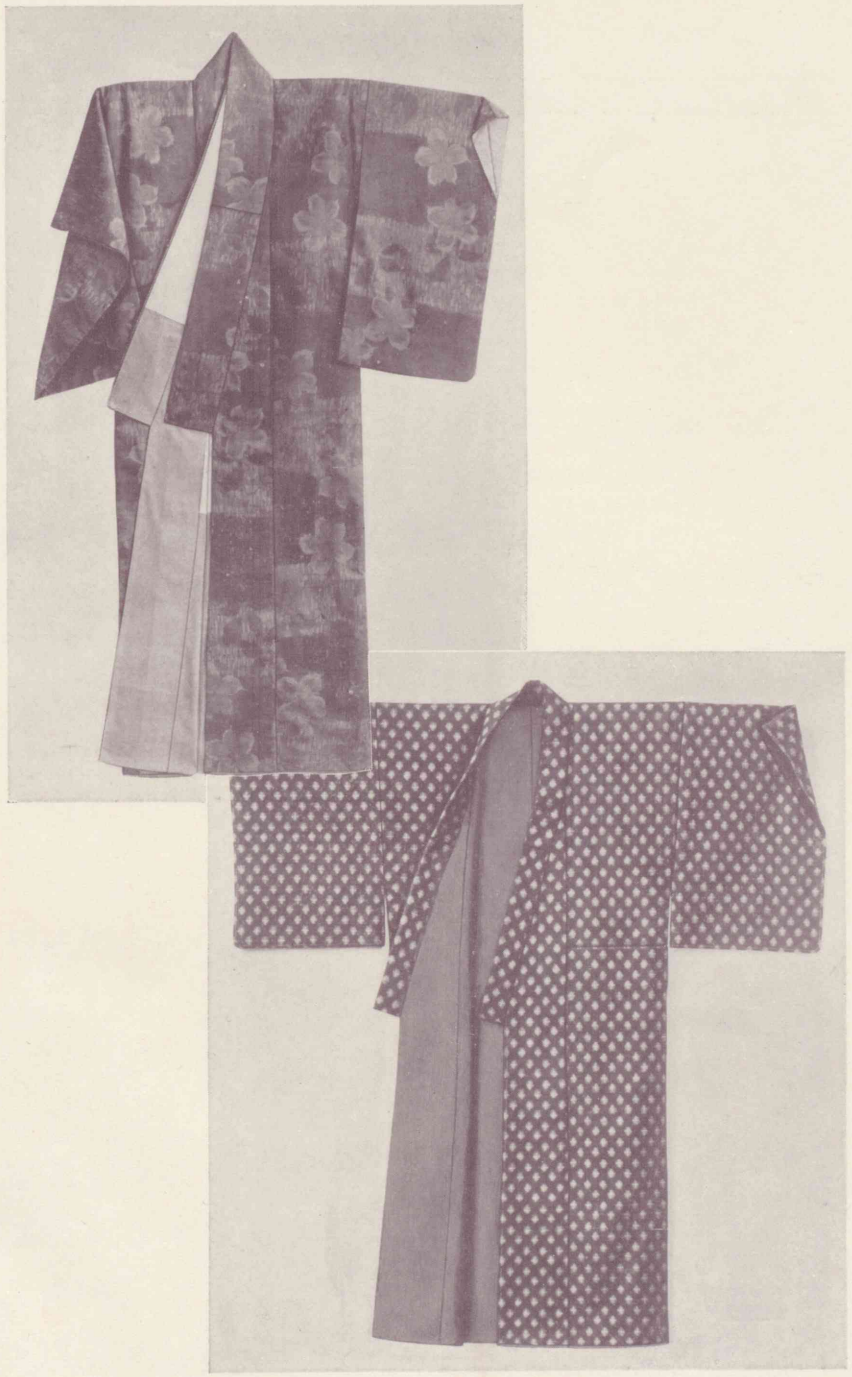
注意　裾口 10cm 程を別々に縫はず,始めから一緒に四つ縫にすることもあるが,衽山で布がずれぬやう裾の被山を上圖のやう正しく合せて縫ふ。

問　題

(1)裾合せについて注意すべきことを述べなさい。

(2)褄を縫ふ時の要點を二・三述べなさい。

(3)三つ衿布の入れ方について注意すべき點を述べなさい。

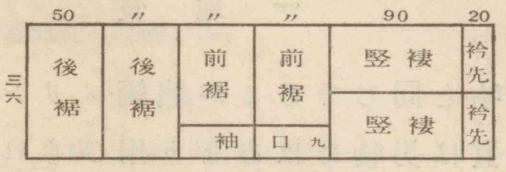


本裁袷仕立て上り(女物/男物)

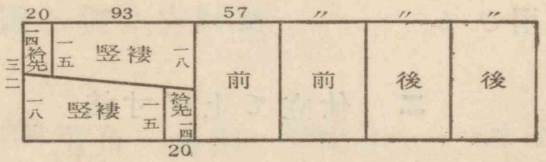
(二)一四—一五挿圖1

裾廻し各種の裁ち方

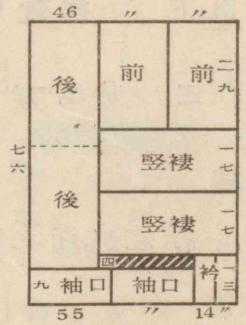
用布　並幅 **310** cm



用布　並幅 **341** cm



用布　幅 **76** cm　　長さ **138** cm



裾廻しは四裾共同じ長さのものを普通とするが場合により前裾を後裾より **8** cm 内外長くする時もある。この時は胴裏にも前後の差を附けて裁てばよい。

第二章　本裁男袷

一　地　質

大體女物と同じであるが,縮緬·メリンスのやうに軟い地質は男物にはあまり用ひられない。又縞柄なども女物に比べて範圍が狹く,普通に地味なものを用ひる。

二　仕立て上げ寸法

本裁男單衣に同じ。

袖口袵 **0.2** cm 以下　　裾袵 **0.5** cm

三　裁ち方

❶**表**　單衣と同様。

❷**裏**　裾廻し附もあるが,通し裏の方が多く用ひられてゐる。

1.通し裏　表と同じであるが裏は共衿が不用であるから,衿山接ぎにして餘分は揚にする方がよろしい。總丈が短い時は裏衿を衿先のみに用ひ約(**30**cm),身頃を長くしておくとよい。

2.裾廻し附　寸法の差違があるのみで本裁女袷に同じである。(但し袖口布は別布を用ひる。)

❸**裏用布の總丈**

1.通し裏　**表總丈＋出袵×10**

2.裾廻し附

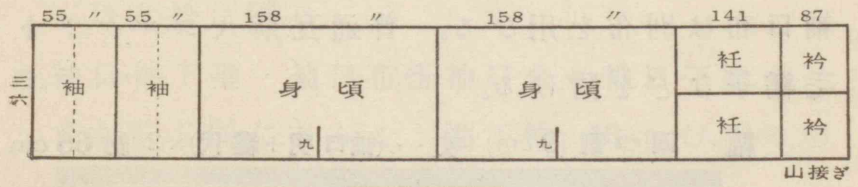
(一) **裾廻し**　**530** cm 内外(約半反)

(二) **奥裏**　**530** cm 内外(約半反)

❹**裁ち方圖と積り方計算**

1.通し裏

(1) 用布　並幅　**1080** cm　(棒衽裁)

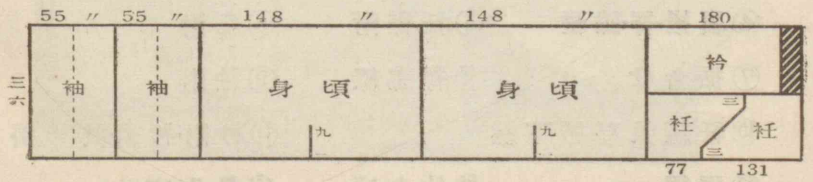


積り方

$$\left\{\text{總丈}-\left(\text{袖丈}\times 4+\frac{\text{衿丈}}{2}\right)+\text{衽下り}\right\}\div 5=\text{身丈}$$

1080　55　87　17　158

(2) 用布　並幅　**1020** cm　(鈎衽裁)



積り方

{總丈－(袖丈×4＋鈎下)＋衽下り}÷5＝身丈
1020　55　77　17　148

2.裾廻し附

用布　並幅　530 cm

積り方

(總丈－衿先)÷5＝裾廻し丈(前・後衽)
530　30　100

袖口布は別布を用ひる。普通瓦斯八・シルケット毛繻子などを附ける。

幅…四つ割(9 cm)　丈…(袖口明＋縫代)×2　約 65 cm

四　仕立て方

仕立て方順序

①袖	②身頃標附	③表脊縫・揚・脇縫
④裏揚・脊・脇縫	⑤衽標附	⑥衽附
⑦裾合せ	⑧脊脇綴	⑨袖附
⑩衽綴及び衿下縫		⑪衿附・衿紵・共衿掛
⑫裾綴	⑬仕上げ	⑭疊み方

❶袖

1.布のおき方　女物と同様にする。

2.標附け方

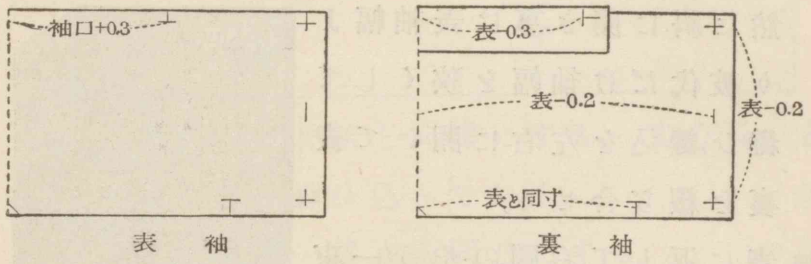
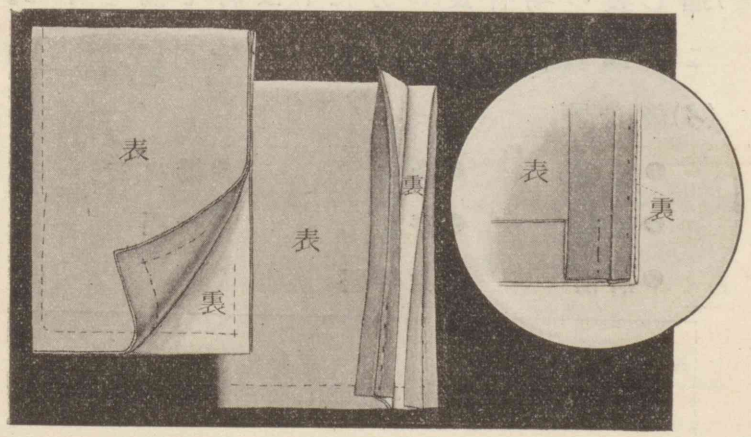


表　袖　　裏　袖

(一)表　單衣に同じ

(二)裏　丈・幅(人形で)を表より 0.2 cm つめる。他は女袷に同じ。

3.袖口・袖下縫　袖口布掛・袖口合せ・袖口下縫すべて女袷と同じである。袖下約 10 cm (人形の方)



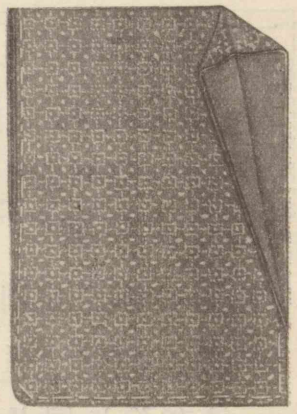
人形の仕末(1)　(2)　(3)

及び人形を表·裏別々に縫ふ。(前頁圖1)

4.丸みの整へ方は,女袷と同じにする。

5.人形は前頁圖(3)のやうに,表は外袖の縫込を自然に斜に開き,裏は表袖幅より被代だけ袖幅を狹くして縫ひ,縫込を左右に開いて表裏を綴ぢ合せる。

6.表に返して,右圖のやう一束に躾をかける。



仕立て上り

❷身頃標附

1.表　單衣に同じ。

2.裏

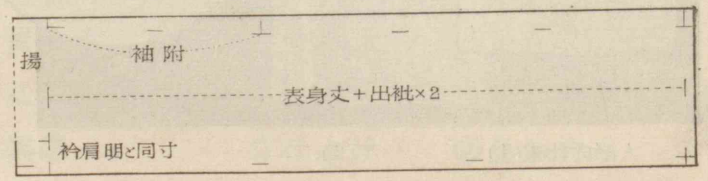
(一)通し裏の場合長い分だけは肩で揚をする。この揚の標から袖附·衽下りを計る。

(イ)後身頃

❶肩山　❷身丈　❸揚

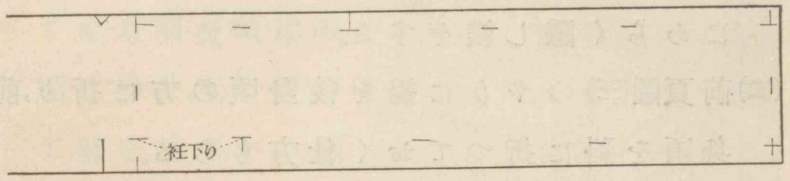
❹袖附　❺脊縫　❻後幅

❼肩幅　❽袖附斜



(ロ)前身頃

❶前幅　❷衽下り　❸衽附

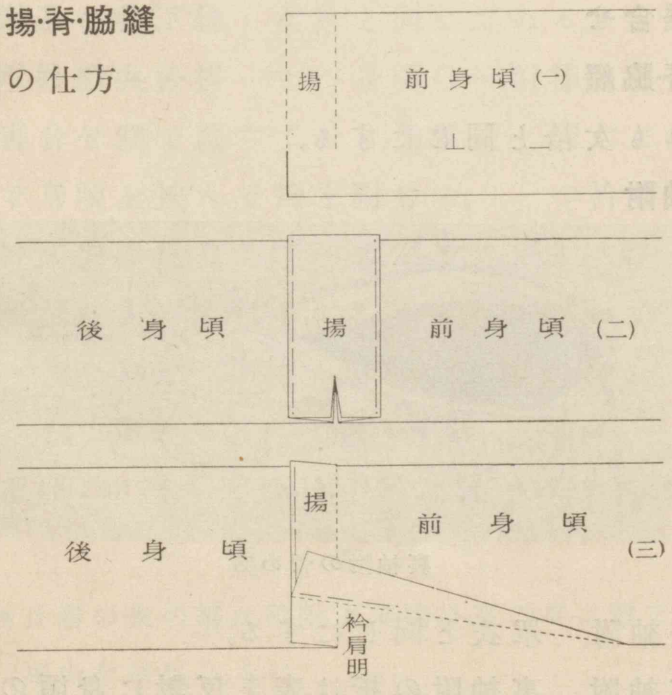


(二)裾廻し附は女袷と同樣にする。丈の長い時は,胴接ぎで縫ひ込んでおく。

❸表脊縫·揚·脇縫　單衣と同じにする。

❹裏揚·脊·脇縫

1.揚の仕方



裏身頃揚の仕方

(一)前頁圖(一)のやうに衿肩明まで標通り小針に縫ひ,縫込を前後に開いて(二)圖のやうに兩端にあらく隱し躾をする。

(二)前頁圖(三)のやうに揚を後身頃の方に折り,前身頃を斜に折つておく仕方もある。

2.脊脇を縫ひ,脇の縫込を開いて割躾をする。

❺衽標附

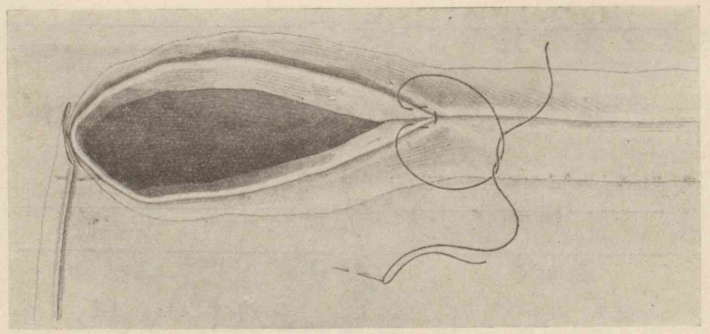
❻衽附

❼裾合せ

❽脊·脇綴

何れも女袷と同じにする。

❾袖附

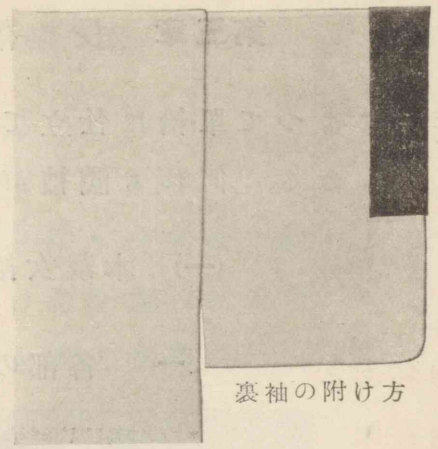


裏袖附の留め方

1.表袖附　單衣と同じにする。

2.裏袖附　裏袖附の折は,表と反對に身頃の方に

返すため,袖で後身頃を挾むやうにして袖·身頃·身頃·袖の順に抄ひ,元に戻つて絲を結び,その絲で裏袖の方を折り裏身頃の方は開いて縫ふ。(前頁圖)



裏袖の附け方

❿衽綴及び衿下縫　女袷と同じである。

⓫衿附·衿紵·共衿掛　まづ身頃の衿附標のところを表裏合せ躾で綴ぢておき,男單衣と同じに表裏の衿で身頃を挾んで衿を附ける。三つ衿布の入れ方·衿紵·共衿掛などすべて單衣と同じにする。

⓬裾綴　仕方は女袷と同じ。針數は次の通り。

後{表…11針 / 裏…5針}　前{表…9針 / 裏…4針}

⓭仕上げ　女袷と同樣に,丁寧に仕上げをする。

問　題

(1)男物長着の表の揚は袖附下で縫ひ,裏の揚は肩でするその理由を述べなさい。

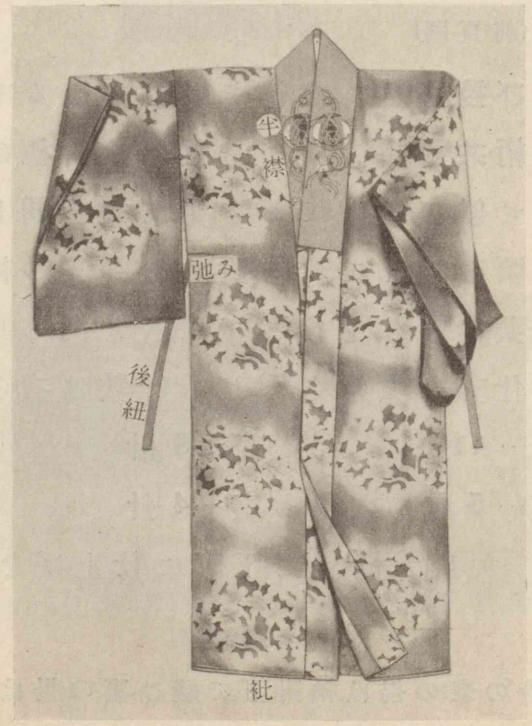
(2)本裁男物と女物との異るところを述べなさい。

第三章 長 襦 袢

季節によつて單·袷に仕立てるが,稀に綿入にすることもある。何れも濶袖が普通である。

(一) 本裁女袷長襦袢

一 各部の名稱



女袷長襦袢の各部名稱

二 種 類

1.撮み袷　前身頃を撮んで袷にしたもの。
2.別袷　袷布を別に用ひたもの。
3.長着のやうに袷下を作り,袷を斜に附けたもの。
4.胴拔　胴の部分だけ布を違へたもの。
5.無双　袖裏·裾廻しを表と共布にしたもの。

三 地 質

❶表　新モス·メリンス·平絹·富士絹·八つ橋·紬·錦紗羽二重·縮緬等。
❷裏　新モス·金巾·メリンス·紅絹·白絹·羽二重·富士絹等。

四 仕立て上げ寸法

長襦袢の仕立て上げ寸法は長着を標準とする。體格·着方·地質などによつて多少寸法を加減する。

標準寸法

袖　丈	1 cm つめる	袖　附	0.5 cmつめる
袖　幅	0.5　つめる	身　丈	130 内外(着丈に同じ)
前　幅	3 廣く(撮み袷はいつぱい)	後　幅	2 廣く

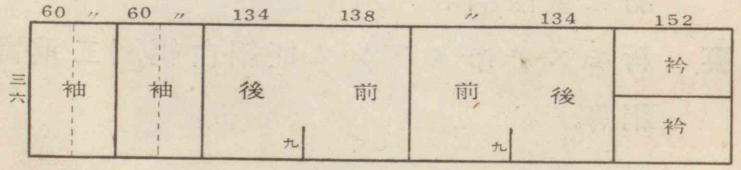
衿肩明	0.5 つめる	身八つ口	2 多く
衿 幅	上5.5 下7 (廣衿10)	衩	長着に同じ
繰 越	2	弛 み	2−4 (年齢・着方によつて異る)
袱	0.4	後 紐	脊から 22−25

身丈は上り身丈より，15 cm 内外長く裁つて仕立て上げ端(はしを)折つて着たり，又胴の位置に揚をして着ることもある。

五 裁ち方

❶表の裁ち方圖と積り方計算

用布 並幅 936 cm



積り方

着丈(131)＋衿附縫代(1)＋裾縫代及び被(2)＝裁切り後身丈(134)

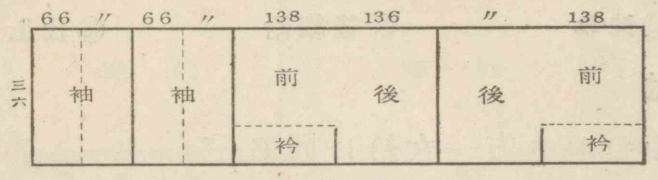
後身丈(134)＋弛み(4)＝前身丈(138)

前身丈(134)＋弛み(4)＋衿肩明(9)＋衿先縫代(4)＋衿接代(1)＝衿丈(152)

袖丈(60)×4＋後身丈(134)×5＋弛み(4)×3＋衿肩明(9)＋衿先縫代(4)＋衿接代(1)＝總丈(936)

{總用布(936)−(後身丈(134)×4＋弛み(4)×2＋衿丈(152))}÷4＝袖丈(60)

用布 並幅 812 cm (撮み衿の裁ち方)



積り方

(袖丈(66)＋身丈(136))×4＋弛み(2)×2＝總丈(812)

❷裏布の裁ち方

1.通し裏は衿を除いて表と同じに裁つ。

表總丈−衿丈＋袱×8＝裏用布

2.裾廻しの取り方

(一)裾廻し 38 cm 以内にして四裾。

(二)横布丈 長さ 120 cm 位の半幅布，前後裏の身幅に被せる。

(三)撮み裾 表を撮んで 20 cm 程裏に引き返す。

六 仕立て方

仕立て方順序

① 袖 ② 身頃標附 ③ 表脊・脇縫
④ 裏脊・脇縫 ⑤ 裾合せ ⑥ 縦綴
⑦ 身八つ口 ⑧ 袖附 ⑨ 衿標附

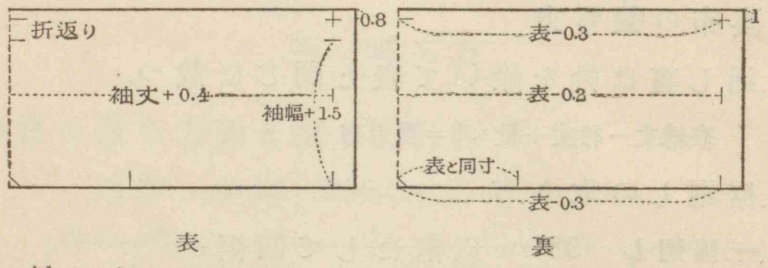
⑩衿附・衿紵　⑪裾綴　⑫半衿掛
⑬弛み　⑭後紐附　⑮仕上げ

❶袖

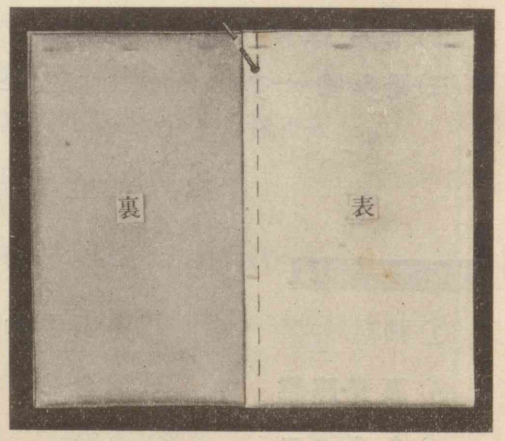
1.布のおき方　女袷に同じ。

2.標附け方順序(表・裏とも)

❶山　❷丈　❸袖附
❹袖口縫代



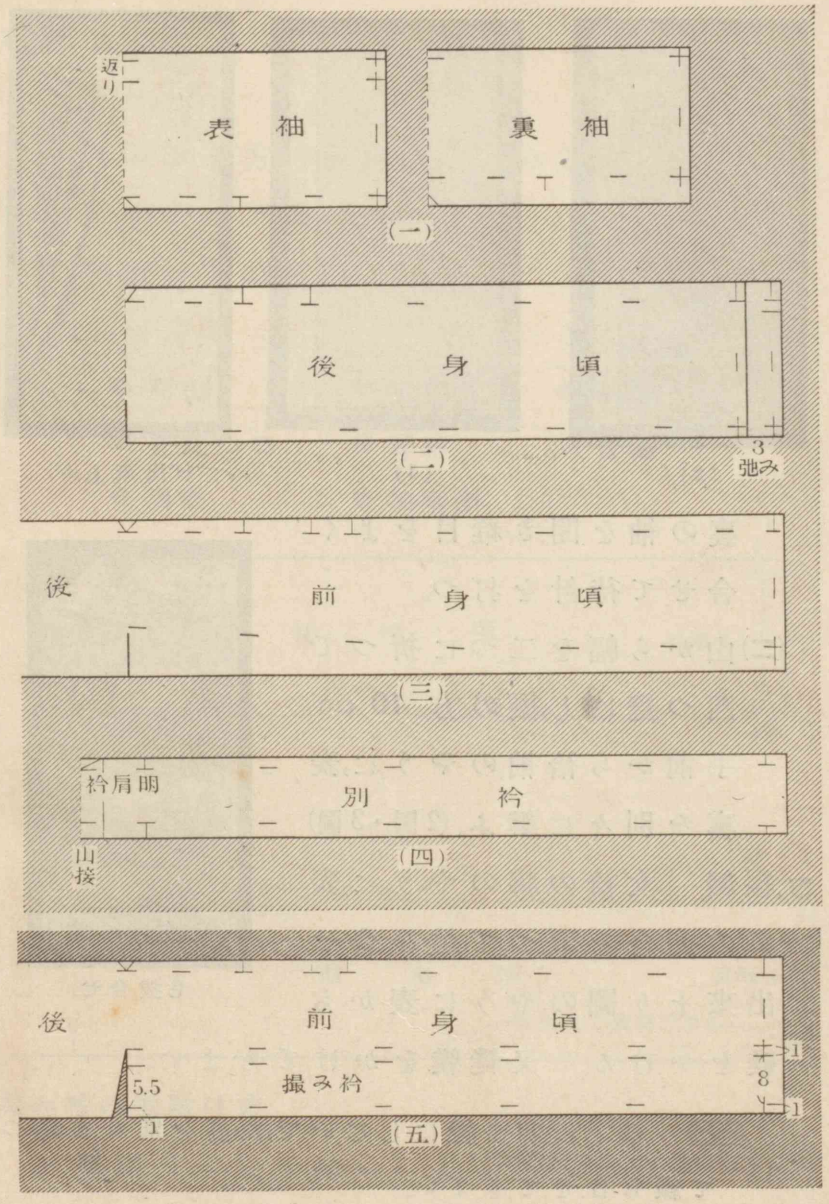
3.袖口合せ　表裏の袖口を縫ひ合せ,裏袖の方に折つて隠躾をかけ,表布を標から裏へ折り返し(或は毛抜合せ)躾をかける。躾は地質により,縫躾・隠し躾などにする。



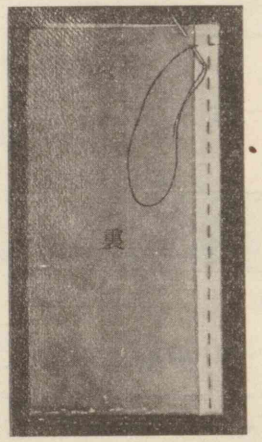
袖の縫ひ方(1)

4.袖下縫

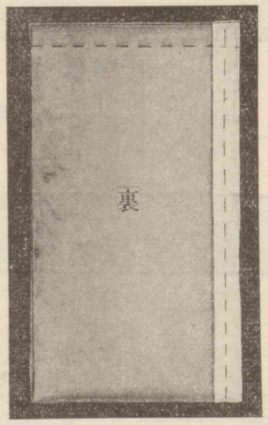
(1)右圖のやう表



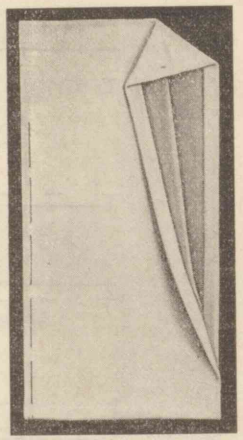
女袷長襦袢の標附け方綜合圖



(2)



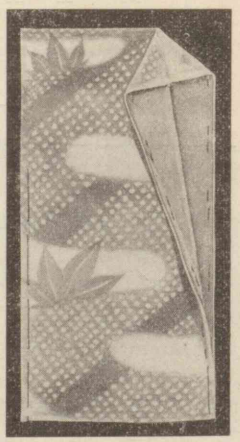
(3)



(4)出來上り

裏の袖を開き縫目をよく合せて待針を打つ。

(二)山から幅を二つに折つて四つ縫にし,振の方 10 cm 手前から袷袖のやうに,表裏を別々に縫ふ。(2圖・3圖)



毛抜合せ

5.振縫　女袷の時のやうに,表裏の釣合を取つて縫ひ合せ出來上り圖のやうに,表から躾をかける。又縫躾をかけてもよい。

注意　袖下は四つ縫にしないで,表・裏を別々に縫つて綴ぢ合せてもよい。

❷身頃標附

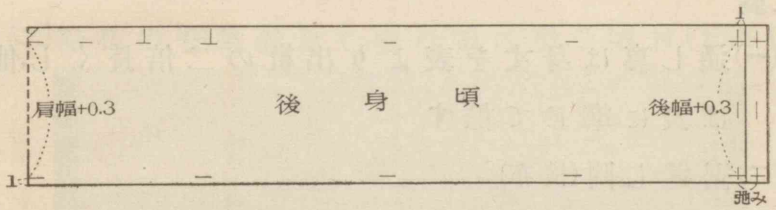
1.表

(一)布のおき方　前身頃の弛みを裾の方に出して,中表に下圖のやうにおく。

(二)標附け方順序

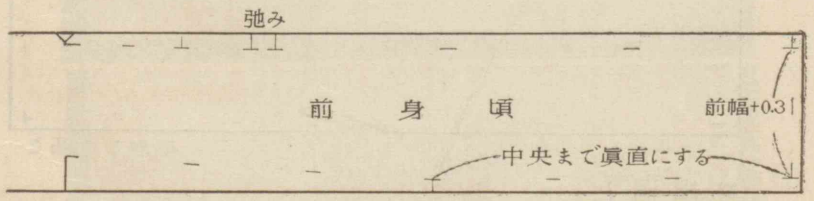
(イ)後身頃

❶肩山　❷丈(前・後)　❸袖附
❹身八つ口　❺脊縫　❻後幅
❼肩幅　❽袖附斜



(ロ)前身頃

❶前幅　❷衿附

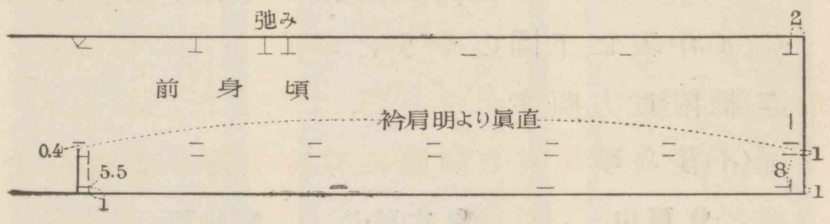


撮み衿の標附け方

(一)脇縫代をいつぱいにして,肩幅を計つて衿肩明の標を附ける,(背の縫代多くなる。)

(二)裾の縫代を普通より1cm位深く取る。

❶ 衿附　❷ 衿幅(衿附で縫代を上下共1cm取り衿新の方で縫ひ込んでもよい。)



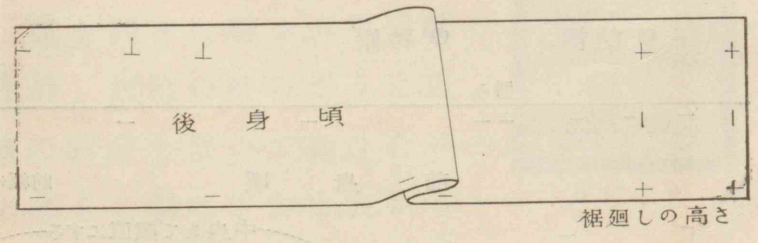
注意　衿肩明より0.4cm上つて眞直に前幅まで標を附ける。

2.裏

(一)通し裏は身丈を表より出袱の二倍長くし,他は表に準じて標す。

(二)裾廻し附(横布)

(イ)身頃



(ロ)裾廻し

(三)縦布の裾廻し附は女袷に準じ,上下の縫代をいつぱいに附ける。

❸表脊·脇縫　前の弛みの分を身八つ口のところに殘して脊と脇とを縫ひ,脇は縫込を開いて割躾をかける。

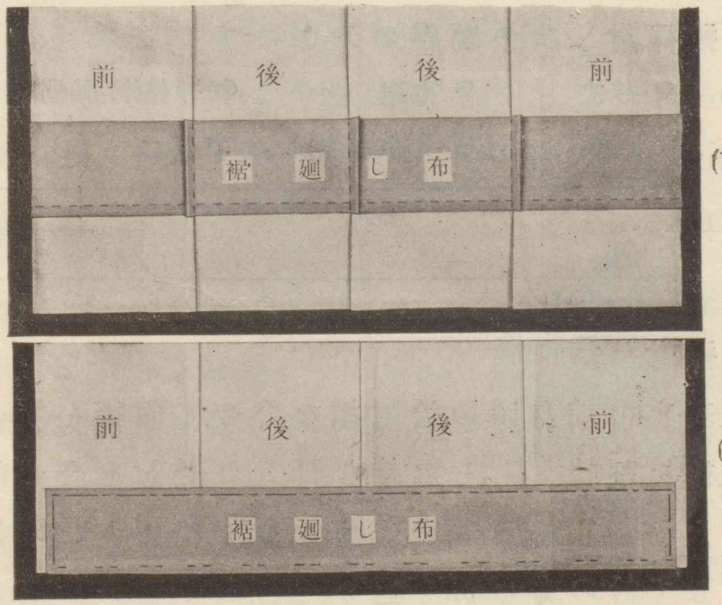
❹裏脊·脇縫

1.通し裏　表身頃と同様に脊·脇を縫ひ,表裏の丈調べをする。

2.裾廻し附

(一)裏身頃の脊·脇を縫ふ。

(二)裾布の脊·脇縫をし,裏身頃に縫ひ附け(下圖1)



裾廻しの附け方

裾の方に折返し,廻りを躾で押へる。(前頁圖(2))

❺裾合せ

1.共裾は縫目を合せて撮み縫にする。

2.通し裏及び裾布附は,各縫目を合せて裾合せをなし,出袱を定めて躾をかける。

3.裾には布芯又は青梅綿(幅5cm)を薄くし,或は眞綿(適宜の厚さにしたもの)を入れる。

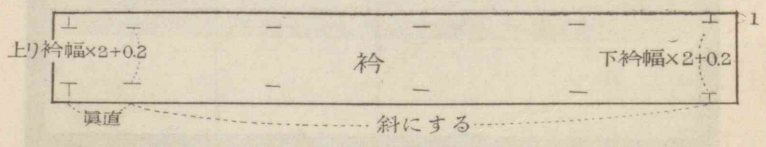
❻縦綴 脊·脇を綴ぢる。

❼身八つ口 前身は弛みの寸法だけ多く縫ふ。

❽袖附 本裁女袷の通りにする。

❾衿標附 次の順序のやうにする。

❶衿丈 ❷衿附 ❸衿幅(衿肩明の間は眞直に,それより以下裾口まで斜にする。)

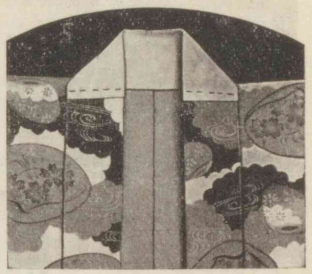


❿衿附·衿紒

1.表·裏の前身頃の衿附標を合せて假綴をする。

2.衿を割接(わりはぎ)とし,その接ぎ目と脊縫とを合せ待針を打ち,更に全體の釣合を取り,標通りに附け廻して,衿の方に折を返す。

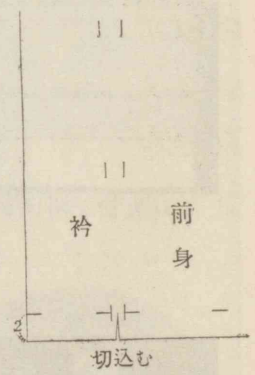
3.三つ衿芯を入れ,衿先を縫ひ衿幅を折つて衿紒をする。


衿の足し布

撮み衿の衿附·衿紒

1.衿肩明の分に右圖のやうに足し布を接ぎ,足し布の方に折を返して隱し躾をする。

2.裾口の撮み山に裾の縫代及び被代だけ(下圖)切込を入れて,衿附を撮んで(次頁圖(1)(2))縫ひ,衿の方に返す。

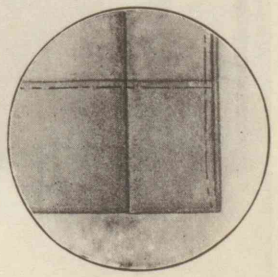


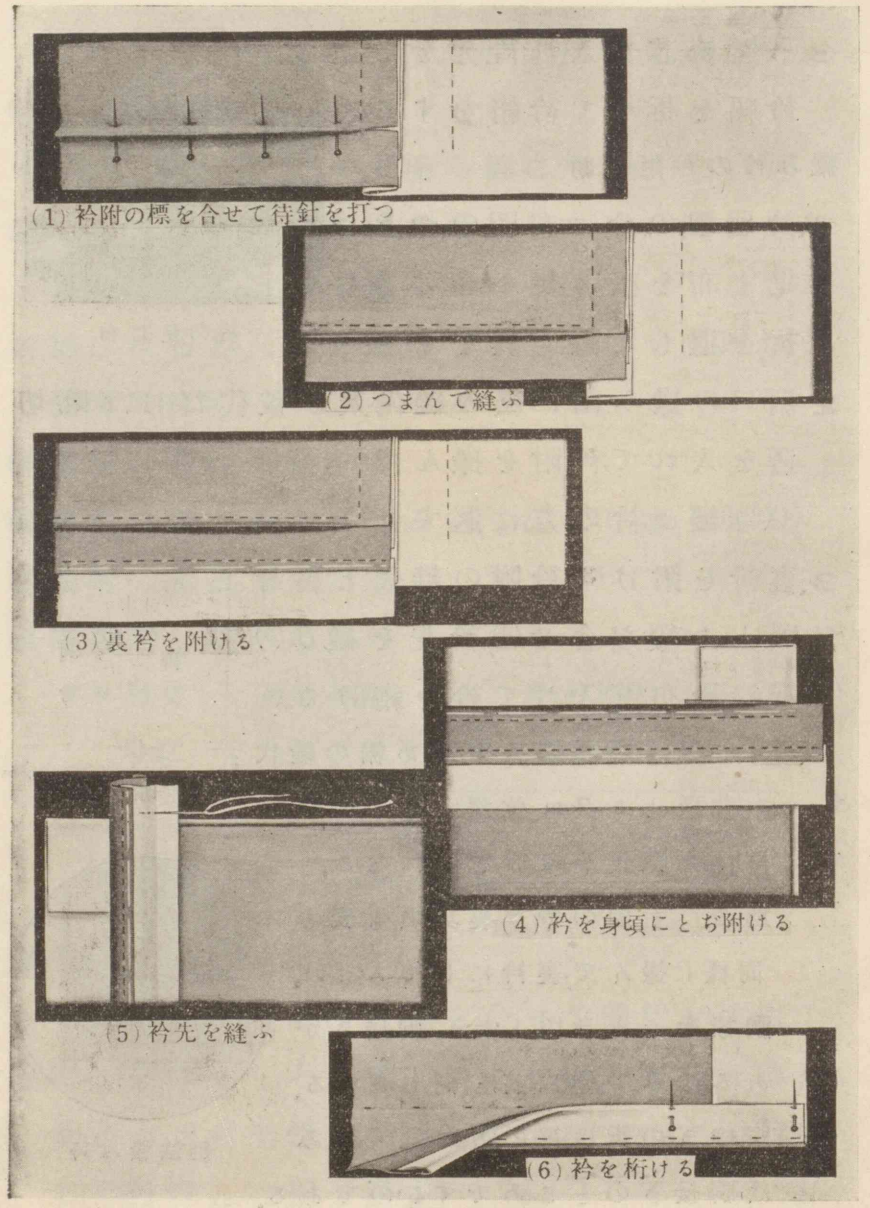
3.裏衿を附け(3),衿附の縫代と裏身頃とを綴ぢ合せ(4),衿先を縫ひ(5)三つ衿布を入れて衿を紒ける。(6)

注意 撮み衿は切込のため裾の縫代を普通より2cm位深くしなければ衿先の縫代がないことになる。

別法 右圖のやう裏身頃も表と同樣に撮んで,裏衿にしてもよい。

胴抜き 表身頃と衿に胴接ぎがあるのみで,他は前と同じにする。胴接ぎの折は裾の方に返し,弛みは胴接ぎのところでするのである。


別法撮み衿



撮み衿の縫ひ方順序

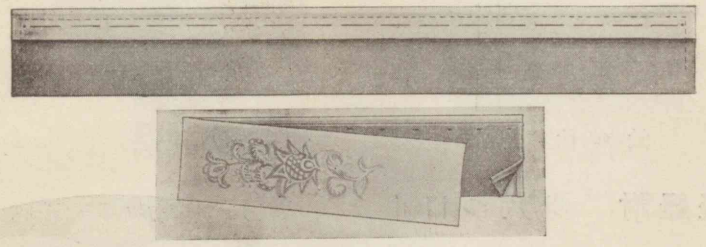
⓫裾綴 本裁女袷と同じ。

後	表	9針	前	表	7針
	裏	4針		裏	3針

⓬半襟掛

1.半襟に新モスなどで裏打をする。

2.表·裏の衿を縫ひ合せ,裏衿の方に返し,躾をかけ表を0.5cm程裏にふかす。

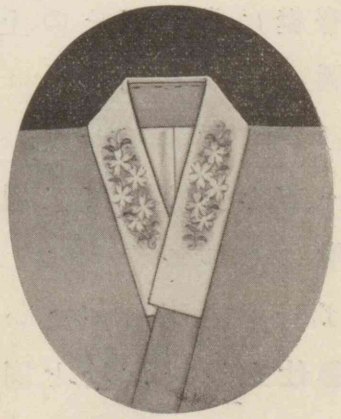


半襟の縫ひ方

3.衿幅標をなし本衿幅だけ残して兩衿先を縫ひ表に返す。

4.表·裏の衿で本衿を挾み,表衿を絎け附け,次に裏衿を絎け附ける。

5.長着のやう襟絲を附ける。

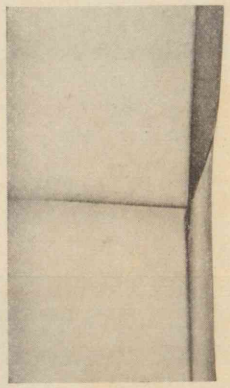


半襟のかけ方

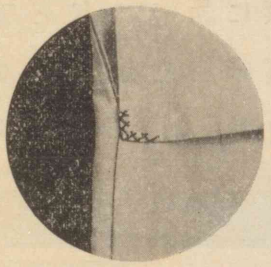
注意 (1)半襟は模様の出工合をよく定めてから掛けるのがよい。

(2)好みにより三河木綿に縫ひ附けることもある。

⑬弛み　身八つ口止まりで,弛みの寸法だけ撮み脇縫に下圖のやうに綴ぢ附けておく。

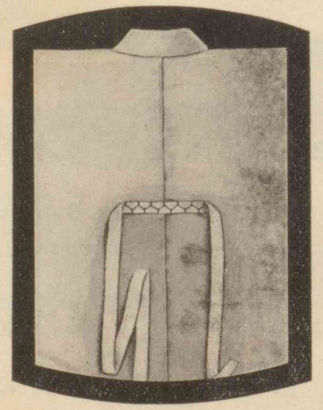


弛みの仕末(表)



(裏)

⑭後紐附　身八つ口止まりと同じ高さに,紐の中央を脊縫に當てて,その上・下を右圖のやうに約 15cm の間だけ綴ぢ附けておく。又紐の一方を長くして二廻り卷き附けられるやうにしておけば,着用上工合がよい。

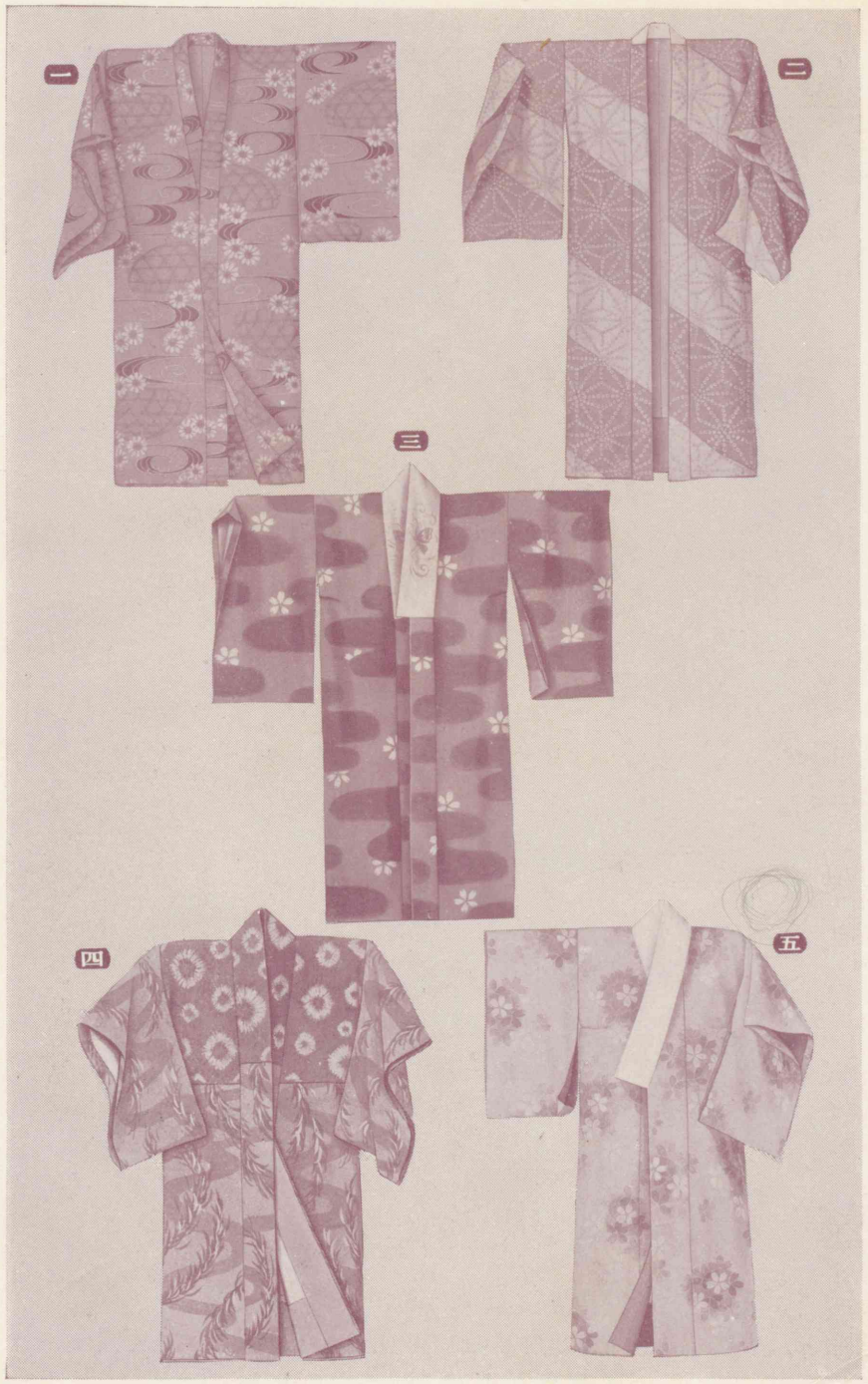


後紐附の仕方

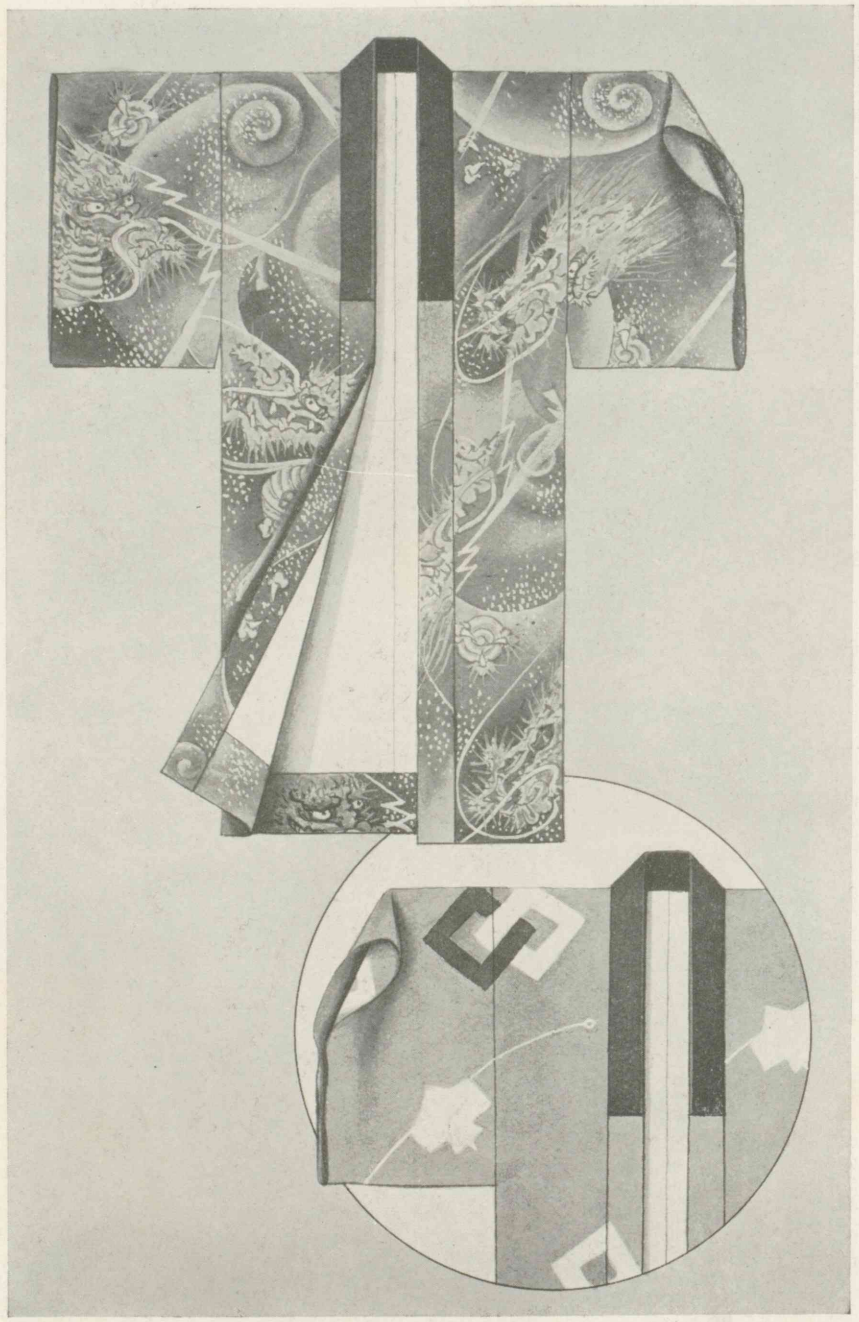
⑮仕上げ　女袷と同じにする。

注意　弛みは年齢及び衣紋の作り方により加減する。

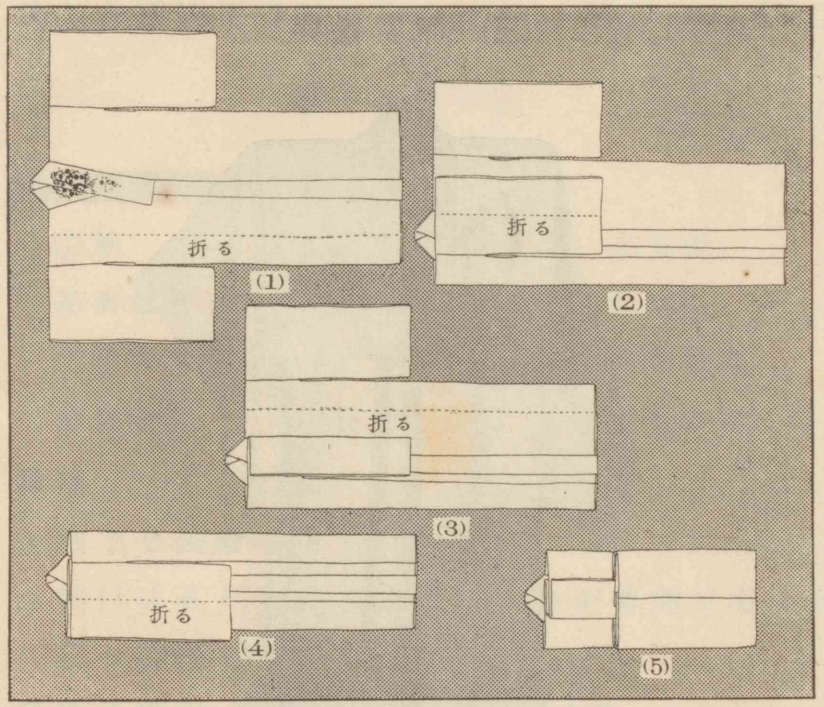
⑯疊み方　次頁圖のやうに疊む。



本裁女袷長襦袢仕立て上り各種



本裁男袷長襦袢仕立て上り



女袷長襦袢の疊み方

(二)　本裁男袷長襦袢

女物に準じて仕立てるが,その異る點をあげると

1.普通は無双(引き返し)にして裾を毛抜合せにする。

2.男物には前の弛みを附けない。

3.袖附は長着より袖丈を1cm以上短かくして,全部附ける。袖の長さにより人形にしてもよい。

4.半襟のかけ方は長着の共衿のやうにする。

(三) 單長襦袢

女單長襦袢の仕立て上り

一 地質

メリンス·富士絹·絹·麻·縮緬·絽·絽縮緬·ボイル等。

二 仕立て上げ寸法及び裁ち方

仕立て上げ寸法も袷に準ずる。

裁ち方は袷長襦袢の表に同じ。

三 仕立て方

仕立て方順序

① 袖	② 身頃標附	③ 脊縫
④ 肩當附	⑤ 脇縫·脇綴	⑥ 裾紵
⑦ 袖附·振紵	⑧ 衿附·衿紵	⑨ 半衿掛
⑩ 後紐附	⑪ 仕上げ	⑫ 畳み方

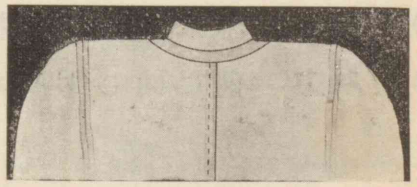
❶ 袖

1. 袖下を袋縫にする。
2. 袖口は耳をそのまま用ひるのが普通であるが三つ折紵にしてもよい。

❷ 身頃標附 裾の紵代は2cmから3cmにする。その他は袷長襦袢の表の標附に同じ。

❸ 脊縫 本裁單衣に同じ。針目はなるべく細かくする。

❹ 肩當附 衿肩廻りのところを丈夫にするため,右圖のやうに小さく肩當を附ける。



肩當の附け方

この際なるべく共布を用ひた方がよい。斜布で

幅 5 cm, 丈 35 cm 位を要する。

❺脇縫·脇綴　本裁單衣と同様にする。

❻裾紵　撮み衿の時は前幅標まで,別衿附の時は前幅標より 1 cm 先まで裾紵をなし,衿の縫込に入るところは二つ折とし,烙鏝で押へておく。裾に幅 4 cm 位の横布を縫ひ合せて,奥で紵け附けることもある。

❼袖附·振紵　本裁單衣と同様にする。

❽衿附·衿紵　袷長襦袢と同様にする。

撮み衿の時は裾口のところで衿附の折山に裾紵代だけの寸法に鋏を入れ,衿附を撮んで縫ひ衿の方へ折り返し,裏衿を附け,衿先を縫つて衿紵をするなど,袷長襦袢の撮み衿の仕方に同じである。

❾半襟掛

❿後紐附

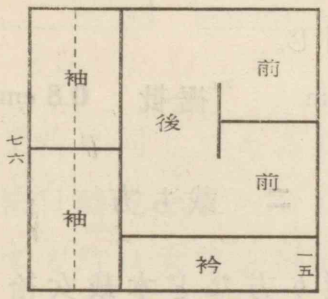
何れも袷長襦袢に同じ。

⓫仕上げ　本裁單衣と同様にする。

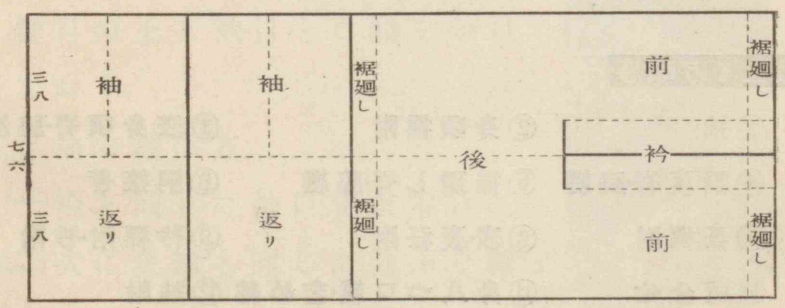
⓬畳み方　前に同じ(男物も同じ。)

本裁長襦袢の裁ち方各種

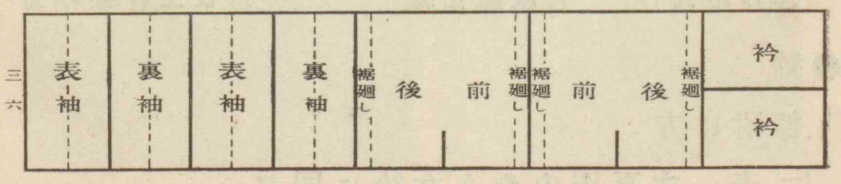
(1)　別衿裁



(2)　無双撮み衿裁



(3)　無双別衿裁(並幅一反)



第四章 本裁女綿入

一 仕立て上げ寸法

本裁女單衣に同じ。

袖口袱 **0.4** cm　　裾袱 **0.8** cm (好みによる)

二 裁ち方

各部の裁ち方·積り方など本裁女袷に同じ。

三 仕立て方

仕立て方順序

①袖	②身頃標附	③表身頃脊·脇縫
④胴裏脊·脇縫	⑤裾廻し脊·脇縫	⑥胴接ぎ
⑦衽標附	⑧表·裏衽附	⑨衿標附·衿附
⑩裾合せ	⑪身八つ口縫·含め綿	⑫袖附
⑬綿入れ	⑭裾假綴·袖口紮	⑮衿下紮
⑯衿紮·共衿	⑰縦綴·裾綴	⑱仕上げ·疊み方

❶ 袖

1.標附け方

(一)表　次頁圖のやう女袷に同じ。

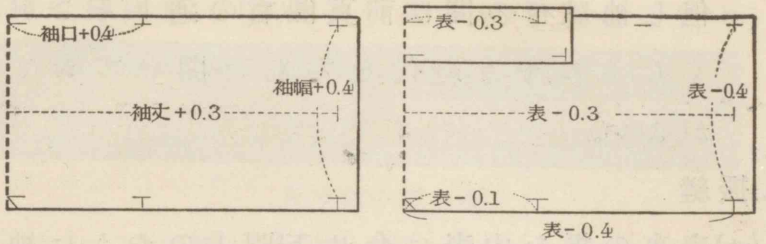
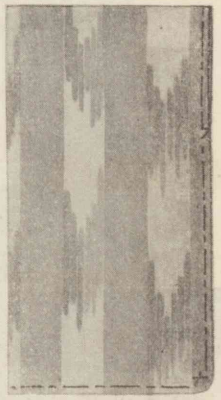


表　　裏

(二)裏　大體女袷に同じであるが,袖丈と袖幅で多くつめ,袖口縫代を袱の分だけ多く取る。振被せをする時は女袷と同じ仕方にする。

2.表袖の縫ひ方　單衣のやうにして縫ひ,丸みを整へ表に返し縫目の上と袖口とに躾をかけておく。

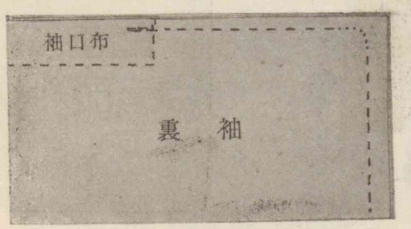


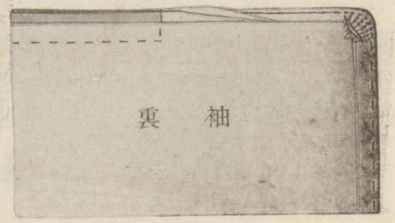
表袖の出來上り

3.裏袖の縫ひ方

(一)袷と同じに袖口布を附ける。

(二)次に表袖と同じに,袖下を縫ひ,表に返して躾をかける。





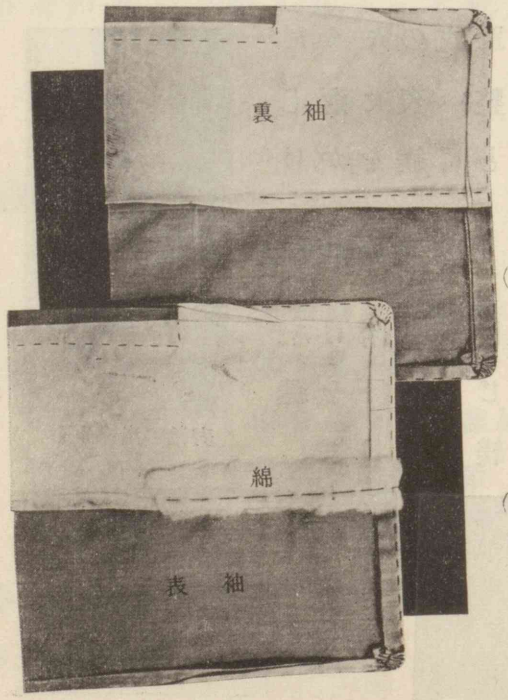
裏袖の縫ひ方 (1)　　(2)

但し袖口布の間は前頁圖(右)の通り,そこが厚くならぬやう,縫代を左右に開いておくのがよい。

4.振縫

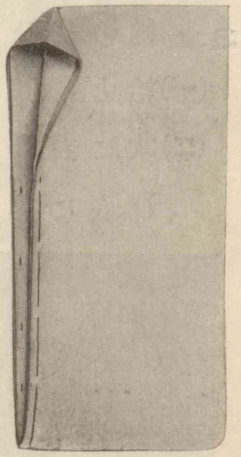
(一)表·裏の振を中表に合せ,下圖(1)のやうに袖下縫目の左右4cmの間は裏を特に張目にして縫ひ合せ,すぐ平烙鏝をかける。

(二)下圖(2)のやうに振綿を裏袖の方に當てて,(綿は弛め加減に含む)躾絲で綴ぢ附け,表に返して下圖のやう一束に躾をかける。



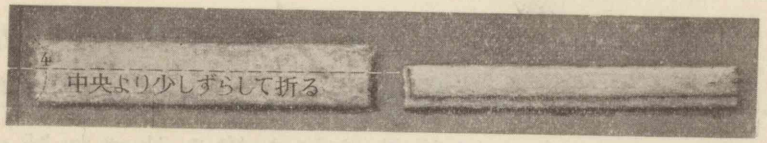
(1)

(2)



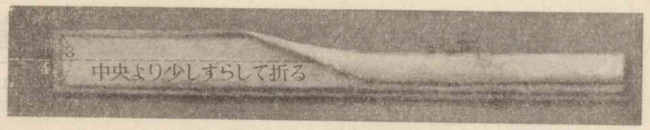
振に綿の含め方　　振に躾のかけ方

5.含め綿の作り方　次の通り綿を重ねて折る。



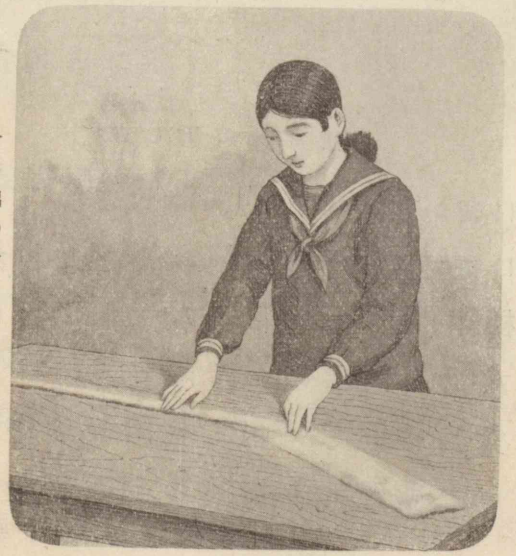
含め綿の折り方

袖口綿…{幅　3cm一枚　2cm一枚(重ねる)
　　丈　袖口明×2＋5cm



袖口綿の折り方

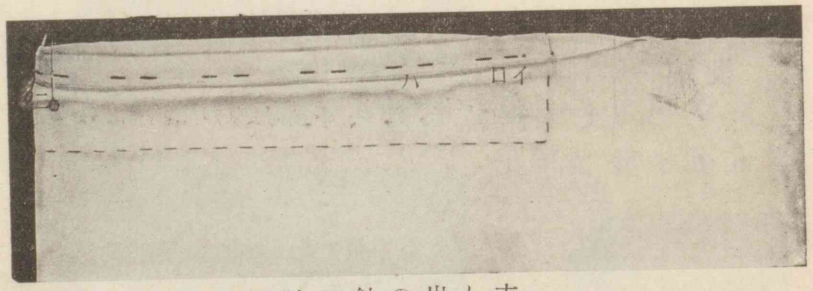
袱綿…{幅　6cm撚り綿(又は7.5cm,5cm,4cmの三枚)
　　丈　裾幅全體＋4cm



含め綿の卷き方

なほ含め綿は,約 4 cm の綿を一枚斜に,前頁圖のやうにふわりと卷いてもよい。

6.綿の含め方　含め綿の中央と袖山の衹山になるところを合せて,待針を打ち綿を弛め加減にして全體の釣合を取る。下圖のやうに(イ)・(ロ)・(ハ)の箇所は表に小針を出して,袖山までの間は一針は綿のみを抄ひ,一針は表へ小針を出し,袖山の左右 0.5 cm のところは,何れも表に一針出す。一方もこれと同樣にす。(絲は强くしめない。)



袖口針の出し方

(イ)袖口留から 1 cm 下　(ロ)袖口留

(ハ)袖口留から 2 cm 上　(ハ)(ニ)の間を凡そ六等分する

❷身頃標附

1.表　女袷と同樣にして附ける。

2.裏　女袷に同じ。但し標附の途中に胴接ぎをしないで,裾廻しと胴裏の胴接ぎの標を重ねて

幅標をする。裏身幅は表より 0.4 cm つめる。

❸表身頃脊縫・脇縫　**❹胴裏脊縫・脇縫**

❺裾廻し脊縫・脇縫　**❻胴接ぎ**

❼衽標附　**❽表・裏衽附**

何れも女袷に準じてする。

❾衿標附・衿附　表・裏別々にして衿を附ける。

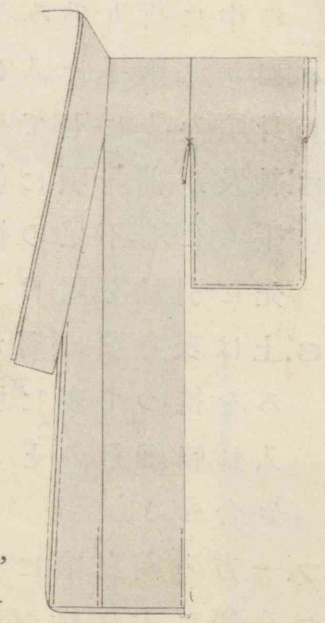
❿裾合せ　女袷に同じ。表の衿下は紵代を裏に折つて,躾をかけておく

⓫身八つ口縫・含め綿　袷のやうに身八つ口止まりに四つ留をして,前後の身八つ口を縫ひ,振のやうに含め綿をして綴ぢ附け,表に返して躾をかける。

⓬袖附　表・裏別々に附ける。

⓭綿入

1.衿肩明から返して裏を出し,左右の前身頃を中に入れて引き合せ衹を正し,表後身頃を上にして平らにおく。(一圖)



各部に躾のかけ方

2.表後身頃と袖とに眞綿を薄くのしてつれぬや

う引き,その上に青梅綿を肩から,約 20 cm 出して載せ,順次裾の方に引き,裾口で 10 cm 程出しておく。(綿を足す時繼ぎ目は薄くのしておく。)

3.次に袖附から綿を切り,身八つ口及び振の含め綿の上に重なる分の綿は切り取り,裾綿を衽の上におき(この時裾綿は衽山から 2 cm 位長く出しておく。)殘りの裾綿を折り返し,兩脇の綿を前身頃の中に折り込み,全體に眞綿を引く。(二・三圖)

4.肩から兩手を入れ,左右の裾口を持つて返し,前身頃を上にして平らにおき,袖を引き出す。

5.袖及び前身頃に眞綿を引き,殘りの綿を直して平らにし,不足の綿を補つて又眞綿を引き,袂の先に引絲を附けておく。

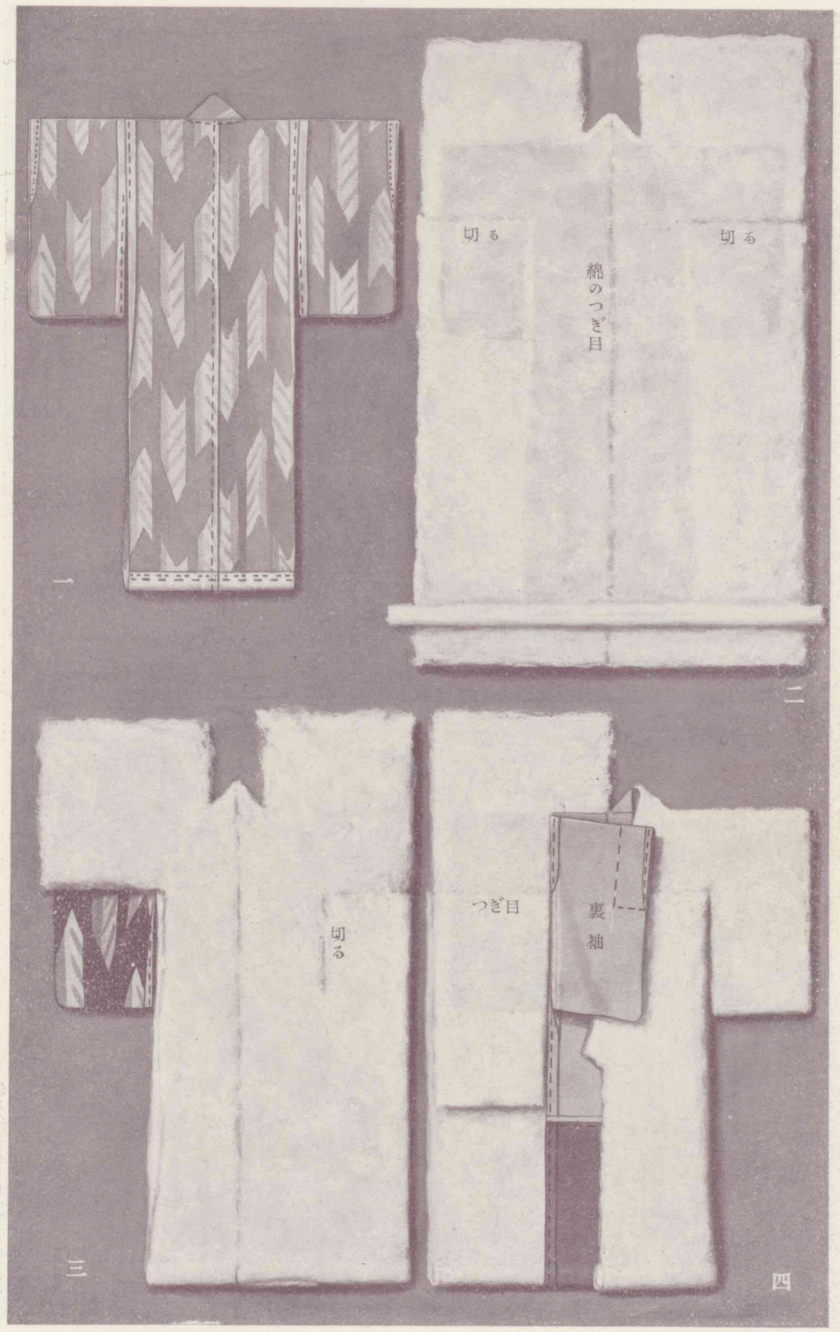
6.上は表身頃の肩から手を入れ,袖口と袂のところを持つて表に引き返し,下は表裾口から手を入れ,脇縫目のところを持つて表に返しよく引き合せる。

7.一方の前身頃にも,同樣にして入れる。

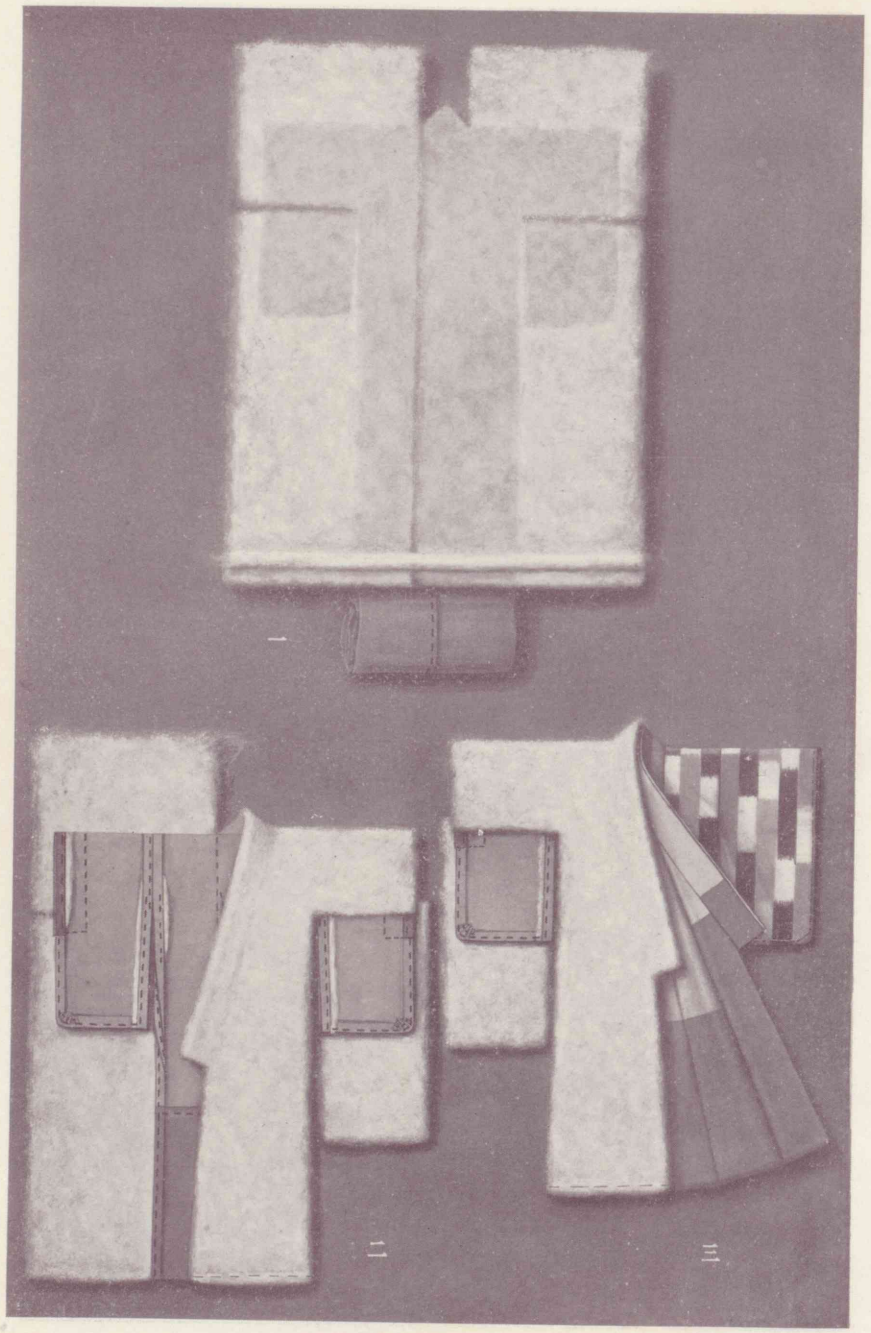
8.全體に入れ終つたら各縫目・袖などの表・裏の縫目を正しく合せて綿を落ち附かせる。

別法綿の入れ方

1.振と身八つ口に綿を含め,2 cm 内外の針目で,一



綿入れの仕方



別法綿入れの仕方

針は綿のみを抄ひ,一針は表に極く小さく,出して綴ぢる。袖下縫目·袖附止まり.身八つ口止まりの兩側には必ず一針出して綴ぢる。

2.含め綿が終つたなら兩脇から疊んで,表身頃の脊を上にして左右の袖を開き,裏身頃を程よく疊んでおき,全體に眞綿を薄く引く。

3.綿を中央で重ね,(重ねた分は薄くする)表より幅をやや廣く出して,縦に擴げ(一圖)丈は上を肩山より約 20 cm 出し,下は衽より 10 cm 內外長くして,綿の繼ぎ目を平らに,厚さを加減し振·身八つ口の重なるところは綿を切り取り,綿の繼ぎ目を平らにして,次に衽綿を入れる。

4.裾綿を上に返して衽綿を包み,(衿山より少したけを長く)全部に眞綿を薄く引く。裏身頃をその上に正しく引き延べ,まづ一方の前身頃及び袖に眞綿を引いて綿を入れる。(二圖) 足らぬところを補ひ衿下の綿を平らにし衽幅に合せて折る。褄先を整へて眞綿を引き表身頃を返し,脊·脇·袖附の縫目を引き合せる。(三圖)

5.次に同じく片方の前身頃及び袖に眞綿を引き綿を入れ,又眞綿を引いて表に返す。次に衿肩

に手を入れるか尺度(ものさし)で,各縫目を引き合せる。

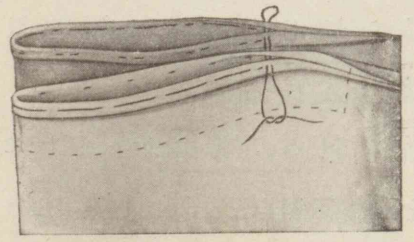
注意　古い綿を用ひた時でも,袖口・振・裾などには新しい綿を用ひる方がよい。

6.振の絎け方　袖下縫目の左右約4cmのところは,裏を張目に表・裏の絎代を合せ,一束に躾をかけ,折角より約0.2cm内を流れ針にならぬやう,小針に絎け附ける。

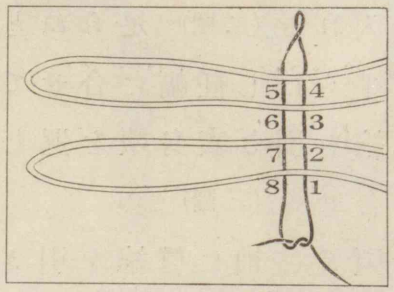
⑭裾假綴及び袖口絎

1.出袱を定め,裾綿を充分に含めて躾をかける。

2.表・裏の脊を合せて待針を打ち,衿をよく引き合せて,袖口袱を定め口明止まり2cm位は表をやや張目に,他は表を弛めに釣合を取り,袖口明止まりを表・裏極く淺く抄つて四つ留をする。



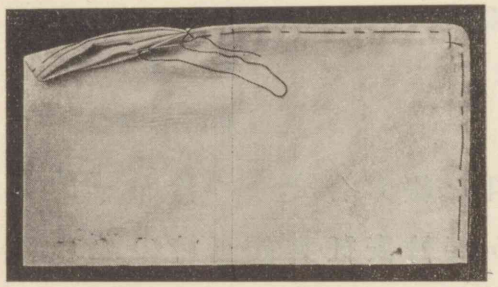
袖口留の仕方



袖口留の順序

四つ留順序
- 1 裏内袖
- 2 裏外袖
- 3 表外袖
- 4・5 表内袖
- 6 表外袖
- 7 裏外袖
- 8 裏内袖

3.袖口止まりより2cm程の間では,褄のやうに丸みを附けて,表の折目から約0.2cm内を綿を抄はぬやう,又流れ針にならないやうに,注意して絎ける。終りはこの絲で袂の丸みまで,袖口下の綴ぢをする。



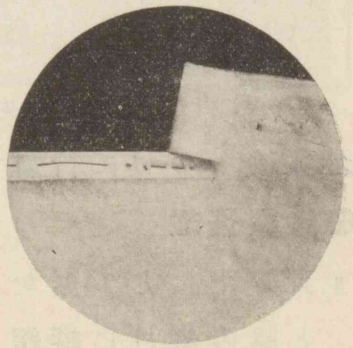
袖口の絎け方

⑮衿下絎

1.まづ表・裏の衽附を衿下より約13cm上まで綴ぢ合せておく。(のちに縦綴しても差支へない。)

2.褄先から4cm位上まで衿下を縫ひ,裾綿をよく入れて表に返す。

3.肩・袖山と裾口とで充分布を引き合せてから裏衽の衿下に綿を含ませ,衽幅の標より約0.5cm縫込の方を躾絲で,袖口綿綴の仕方で綿を綴ぢ附ける。



衿下に針目の出し方

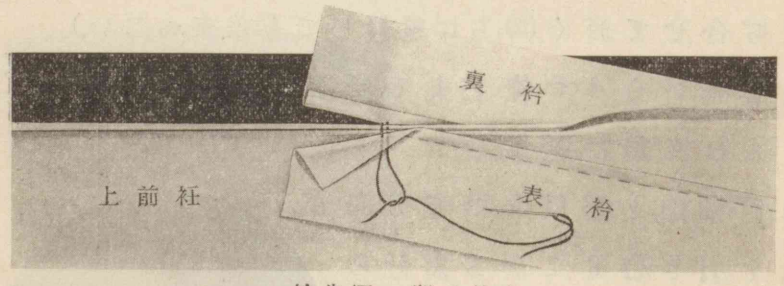
4.衽幅標を折り,衿下止まりに右圖のやう二針か三針抄ひ表に針を出し,綿

を留めておく。

5.表·裏の衿下を合せ,表衽を手前にして,1cmの針目で衿下を絎けてゆく。(褄先は縫はずに絎けてもよい。)

⑯衿絎·共衿

1.表·裏の衿附の縫目を綴ぢ合せ,三つ衿布を入れ衿先を下圖のやう,表衿·表衽·裏衽·裏衿の順に,極く淺く折山を抄ひ,裏衿から表衿に返して四つ留をし,衿先を縫ひ衿幅を定め,綿を平らになるやうに入れ袷の時と同じく衿絎をする。



衿先四つ留の仕方

2.共衿をかけて衿絲を附けることは,女袷に同じ。

⑰縦綴·裾綴

1.表を上にして,裾から約50cmのところまで,脊と脇の縫目に縦綴をする。(絲をしめすぎぬやう)

2.裾綴は女袷と同じ針數にする。

⑱仕上げ·疊み方　袖口·裾の袵を潰さぬやうに注意をして仕上げをなし,女單衣と同じに疊む。

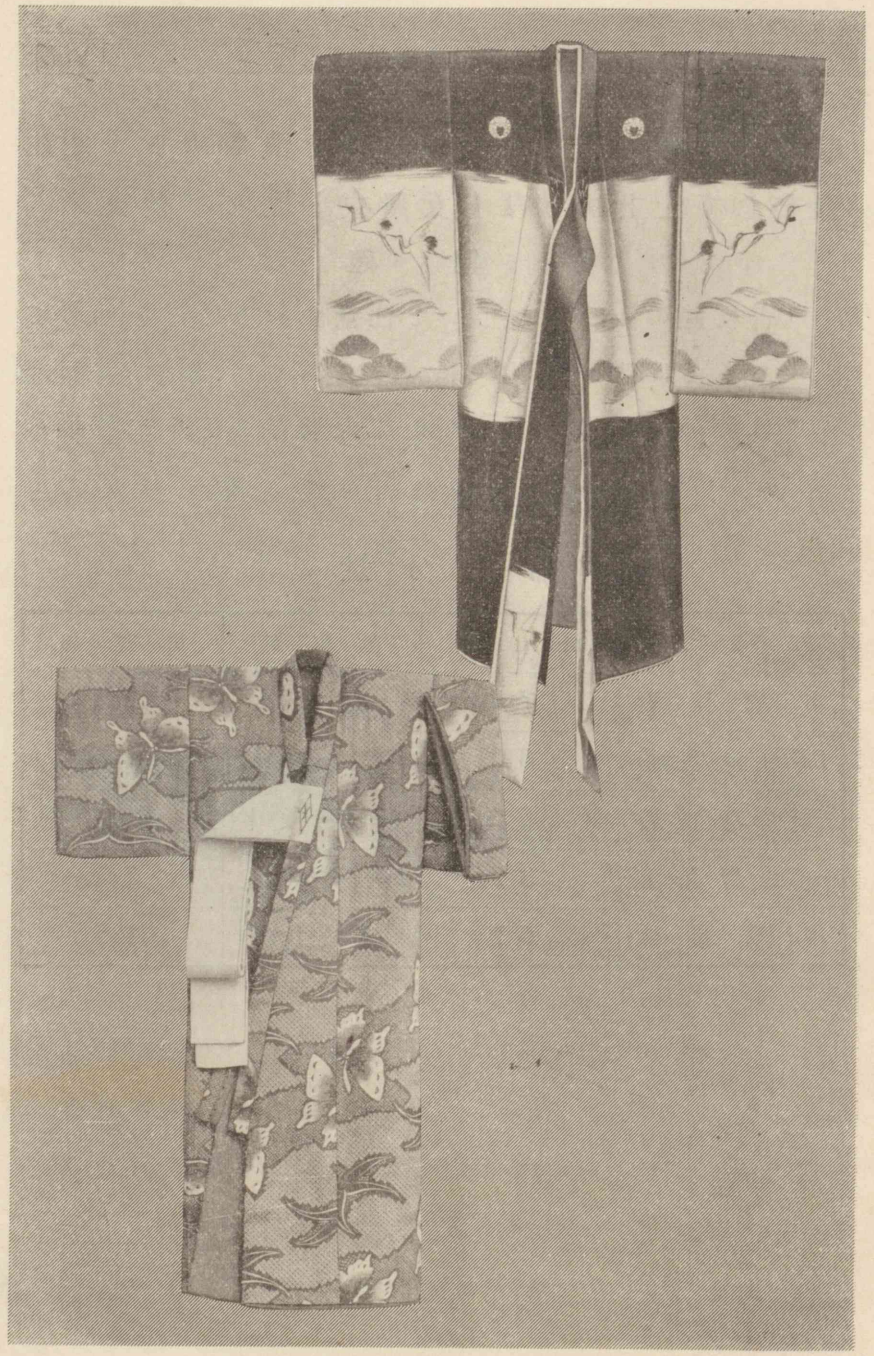
問　題

(1)青梅綿の入れ方について注意すべきことを知つてゐるだけ述べなさい。

(2)眞綿の取り扱ひ方について大切なことを二·三述べなさい。

綿の分量

名稱＼種類	眞綿	青梅綿	引眞綿
本裁長着	75g	一包(三枚)	22g
四つ身長着	60	二枚	15
三つ身長着	50	一枚半	11
一つ身長着	37	一枚	7.5
本裁羽織	57	二枚半	15



一つ身綿入濶袖・廣口仕立て上り

第五章　一つ身綿入(濶袖)

一　仕立て上げ寸法

一つ身單衣と同じ。

袖口袵　0.6 cm　裾袵　1 cm から 1.5 cm まで

二　裁ち方

❶**表用布**　裁ち方・積り方一つ身單衣に同じ。

❷**裏用布**　通し裏と裾廻し附とあるが,一つ身は大低通し裏にする。

1.通し裏　身丈・衽丈で袵の二倍長く裁つだけで他は表と同じである。

2.裾廻し附

(一)　裾廻し　前裾・後裾・竪褄

(二)　奥裏　胴裏・裏袖・衽先

❸**裏用布の總丈**

1.通し裏　表總丈に袵の四倍を加へたもの。

(別衽は袵の六倍を加へる。)

2.裾廻し　100 cm 内外

3.奥裏　袂袖…200 cm から 400 cm まで

元祿袖…250 cm 内外

❹各部の布數

1.裾廻し　後裾一枚　前裾二枚　竪褄二枚

2.奥裏　裏袖二枚(左右)　胴裏一枚　衽先二枚

❺裾廻し各部の裁切り寸法

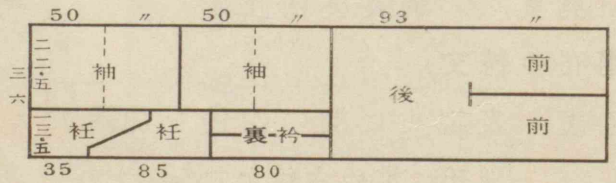
一つ身は各布とも同じ丈にするが布の短い時は,竪褄をまづ取り,殘りを前後の裾丈にする。普通35cm内外,袖口布は別に取る。

- 袖口布
  - 潤袖
    - 幅　四つ割
    - 丈　裁切り袖丈×2
  - 元祿袖
    - 幅　7cm
    - 丈　70cm

❻裁ち方圖と積り方計算

1.通し裏

用布　並幅 386cm



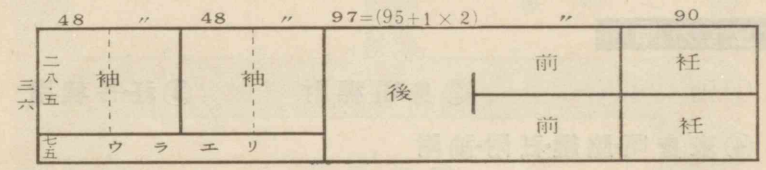
積り方

袖丈×4＋身丈×3＋衽×4＝裏總丈…表用布＋衽×4
50　90　1.5　386　380　1.5

(總丈—袖丈×4)÷2＝裏身丈
386　50　93

2.別衽裁通し裏

用布　並幅 476cm

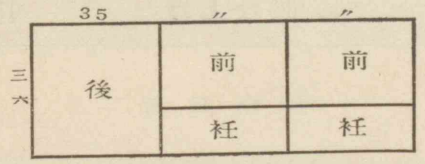


積り方

袖丈×4＋身丈×3—衽下り＋衽×6＝裏總丈
48　95　7　1　476

3.裾廻し

用布　並幅 105cm

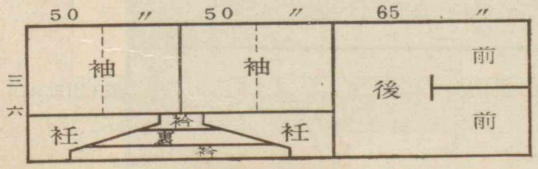


積り方

後裾丈×3＝裾廻し丈
35　105

4.奥裏

用布　並幅 330cm



積り方

表總丈—後裾丈×2＋衽×4＋胴接代×2＝奥裏總丈
308　35　1　8　330

三 仕立て方

仕立て方順序

①袖	②身頃標附	③衽・衿標附
④表身頃・脇縫・衽附・袖附		
⑤裏身頃・胴接ぎ・脇縫・衽附・袖附		
⑥裾合せ	⑦含め綿	⑧綿入れ
⑨裾・衽・衿下の假綴	⑩衿下紮	⑪袖口紮
⑫身八つ口・振紮	⑬衿附・共衿	⑭縱綴・裾綴
⑮附紐	⑯仕上げ	⑰疊み方

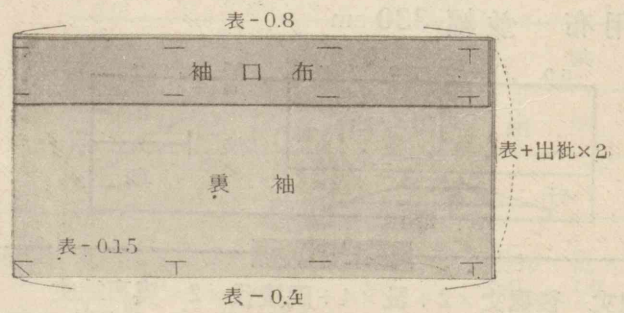
❶袖

1.標附け方

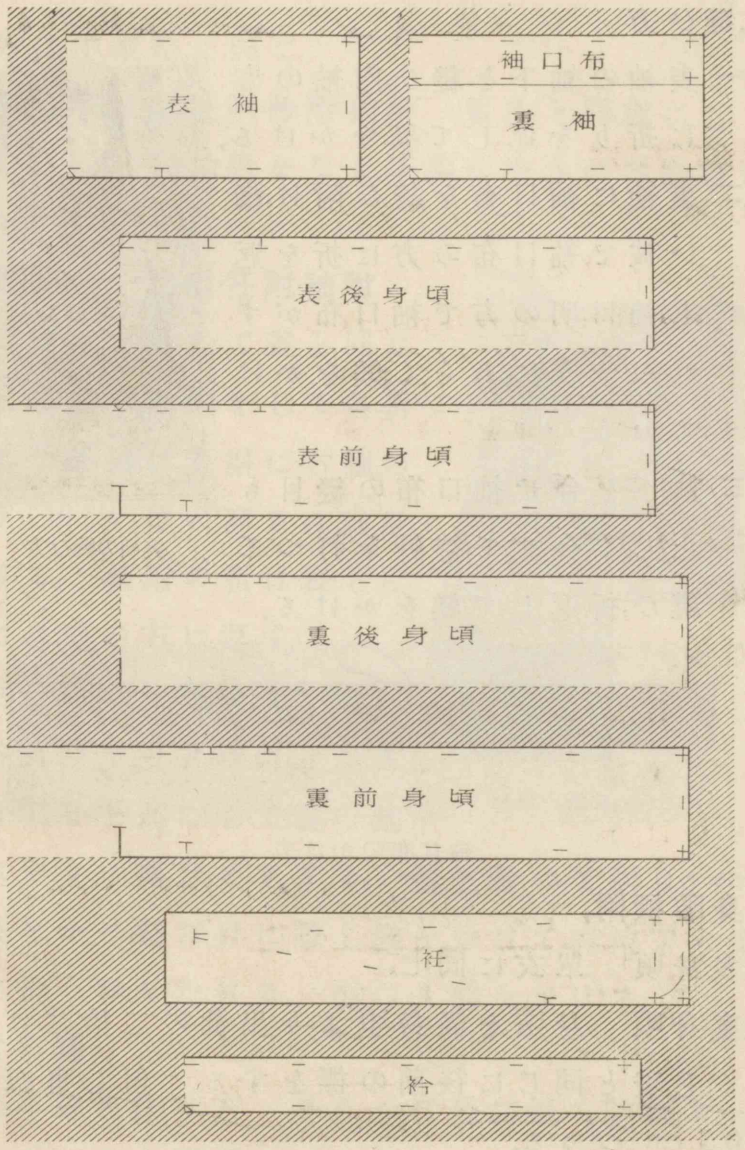
(一) 表袖は一つ身單衣に同じ。

(二) 裏袖は下圖のやうに表よりも,つめて標す。

袖口で **0.8** cm, 振で **0.4** cm, 袖附で **0.15** cm,



裏袖の標附け方



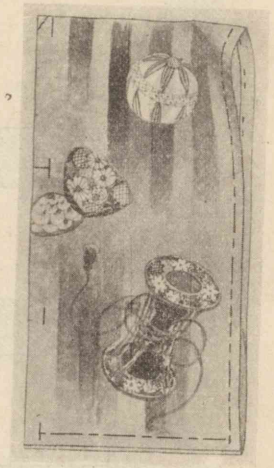
一つ身綿入の標附け方綜合圖

2.縫ひ方

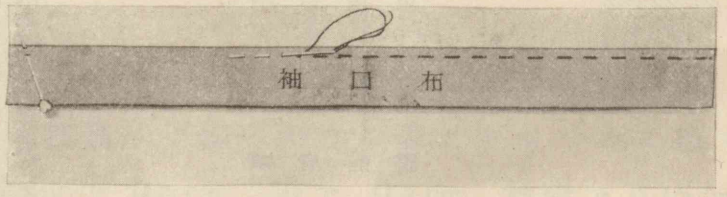
(一)表袖の袖下を縫ひ,内袖の方に折りを返して躾をかける。

(二)裏袖に袖口布を縫ひ附け,淺い被で袖口布の方に折を返し,袖口明の方で袖口布がずれぬやうに,あらく躾をかけておく。

(三)袖下を合せ,袖口布の縫目も正しく合せて,待針を打つて縫ひ,折返して躾をかける。



表袖の縫ひ方



袖口布のかけ方

❷身頃標附

1.表身頃　單衣に同じ。

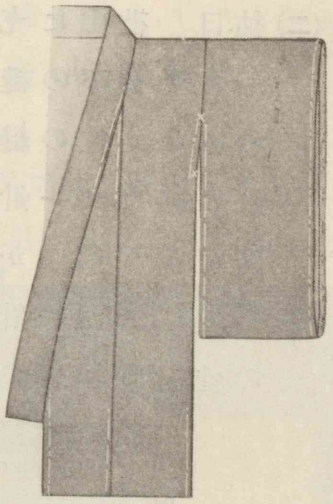
2.裏身頃　身頃を表身頃より出袵の二倍だけ長くし,表と同じに後前の標をする。但し裏幅は0.3 cm つめる。

❸衽·衿標附　單衣に準じて附ける。褄形の割出し方は中裁袷に同じ。

❹表身頃脇縫·衽附·衿附·袖附　單衣と同様にして脇縫·衽附·衿附·袖附をなし,下圖のやうに各縫目に躾をかける。

❺裏胴接ぎ·脇縫·衽附·袖附

まづ胴接ぎをして表と同じに脇縫·衽附·袖附をして各折を返し,各縫目の裾に右圖のやう 10 cm 位の高さに躾をかける。袖附の折は表と反對に身頃の方に返す。



各部へ躾のかけ方

❻裾合せ　丈·幅をよく調べて各縫目を合せ,待針を打ち表身頃を手前にして,裏の弛まぬやうに裾合せをする。褄を縫つて約 0.3 cm の被をかけ,衽だけに隱し躾をかけて,表衿下の紵代を折り躾をかける。裾にも躾をかける。

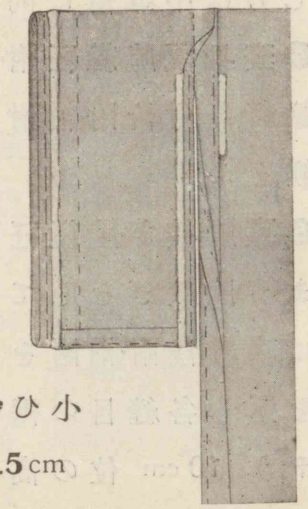
❼含め綿

1.含め綿の作り方　身八つ口及び振の綿,幅 4 cm のものを次頁圖のやうに,ずらして二つに折る。

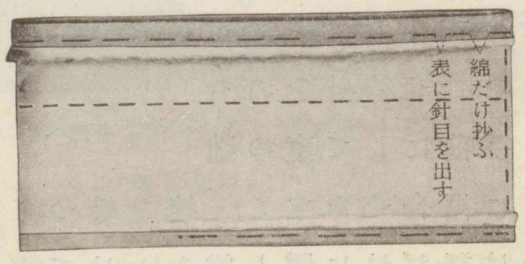
2.綿の含め方

(一)身八つ口・振　綿を弛めに折山に充分に含ませ表には細かく,裏には約3cmの針目で綴ぢる。

(二)袖口　袱山に充分綿を含ませ,袖下の縫目から始め,2cm位の縫目で一針は綿だけ,一針は布を抄ひ小針に綴ぢ,袖山から左右0.5cmのところに一針づつ出して,その他を5cm程の隔りに等分して小針に出す。



含め綿の綴ぢ方



袖口含め綿の綴ぢ方

❽綿入れ

1.裏を出して夜着疊にしておき袱綿を作る。

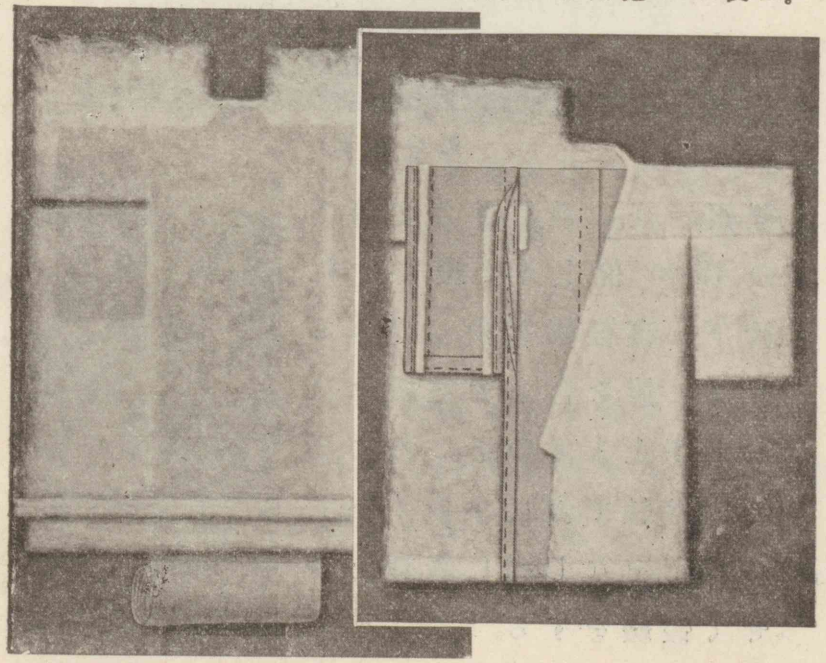
2.次頁圖のやう表の後身頃を上に,左右の袖をひろげ裏身頃を卷き,まづ眞綿をつれないやうに引き,次に綿を裾は10cm位長くしてひろげ,袱

綿を袱山から少し出して上において包み,袖附のところで綿を切り取る。

3.次に袱綿のところを尺度で押へておき,裏身頃を上に伸べて下圖(2)のやうに前身頃及び袖に綿を返し,不足のところは綿を補ひ,上から眞綿を引き徐かに手を入れて表に返し,各縫目を引き合せる。

注意 (1)青梅綿を切るには手で切り,鋏を使はない。

(2)眞綿はなるたけ伸ばし,引く時は弛めて使ふ。



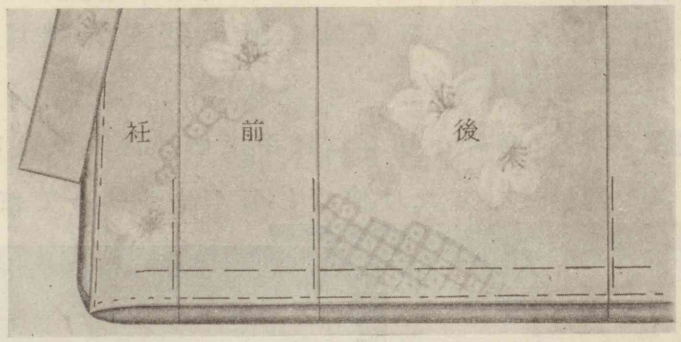
綿の入れ方 (1) (2)

4.一方の前身頃及び袖に前と同じ方法で,綿を入れて表に返す。

5.入れ終つたら,肩に手を入れて,各部を引合せる。

❾裾·衽·衿下の假綴

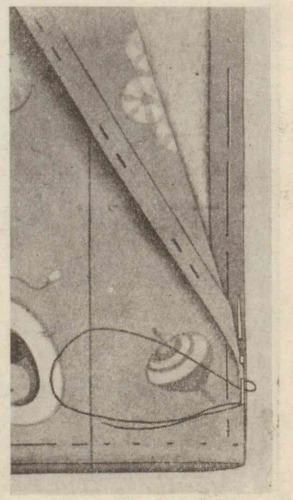
1.裾に袱綿をよく含ませて假綴をする。



裾の假綴

2.衽綴　衽の縫目を合せ,衿下の15cm位上まで綴ぢ合す。

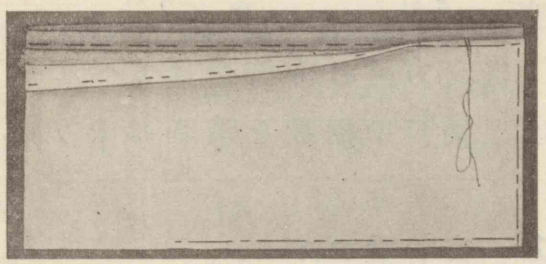
3.衿下　裏衽幅を少しつめて衿下に綿を含ませ,假綴をなし,衿下止まりのところに三針程縫絲で表に小さく出して綿留をなし,次に表衽と合せて假綴をする。



衿下の紩け方

❿衿下紩　流れ針にならぬやう,折山より少し內側を紩ける。

⓫袖口紩　袖口の袱を整へ,袖下の縫目を合せ,全體の釣合を取つて待針を打ち,表袖を見て折目の0.2cm內を,綿を抄はずに約0.8cmの針目で紩ける。



袖口の紩け方

⓬振紩　袖附を表袖·表身頃·裏身頃·裏袖の順に,留め身八つ口止まりは表前身頃·表後身頃·裏後身頃裏前身頃の順に四つ留をして,振と身八つ口とを紩ける。

⓭衿紩·共衿

1.脊·衿肩明·衽先などの表·裏をよく合せて,衿附の縫目の際を,綴ぢ合せて衿先を留める。表衿·表衽·裏衽と抄ひ,裏衽より表衿に返して結ぶ。

2.次に衿先を縫ひ,三つ衿布を入れ,全體の綿を平らにして衿を紩ける。

3.共衿を單衣と同樣にしてかける。

⑭**縱綴·裾綴**　表·裏の丈及び縫目をよく引き合せて,兩脇に縱綴をなし,次に裾綴をする。

裾綴の針數は次のやうである。

後{表　11針　裏　5針}　前{表　5針　裏　2針}

⑮**附紐**　縫ひ方·附け方·飾縫はすべて單衣に同じ。

⑯**仕上げ**　袖口や裾衽を潰さぬやうに,仕上げをする。

⑰**疊み方**　夜着疊にする。

問　題

(1) 一つ身の綿入に要する青梅綿は何枚位か(筒袖として)

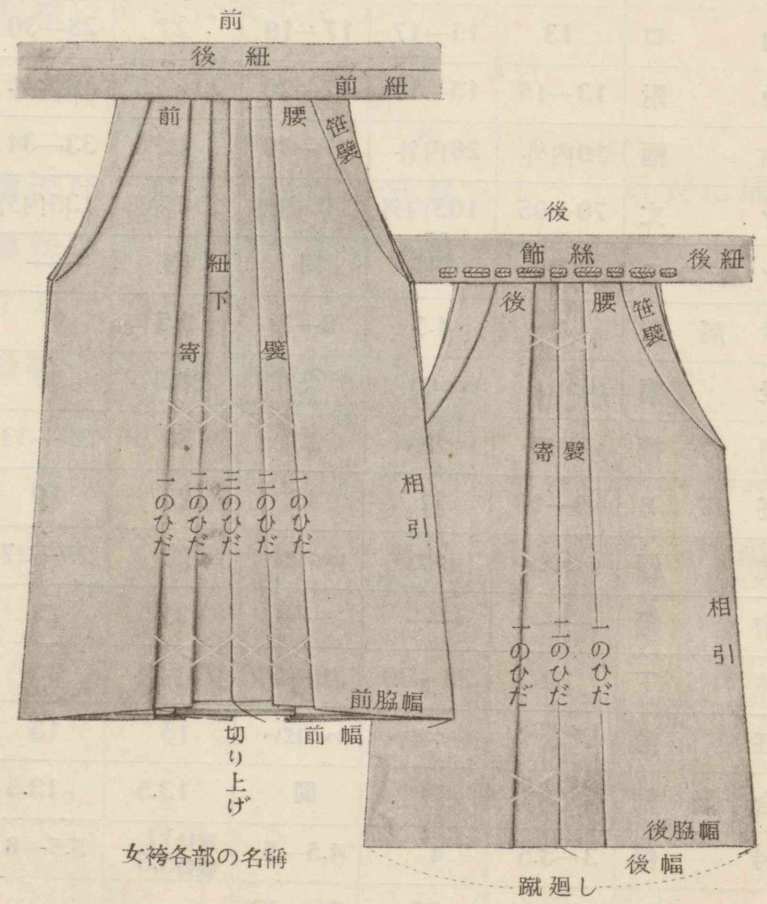
(2) 一つ身と四つ身の附紐について異る點を述べなさい。

各種長着普通仕立て上げ寸法表

名稱＼種類		一つ身	三つ身	四つ身	本裁女物	本裁男物
袖丈	袂袖	35-50cm	50-53cm	53-68cm	60cm	53cm
	元祿袖	25	26—28	30—35		
	筒袖	21	23—25	25—27		
袖口		13	15—17	17—19	23	28—30
袖附		13—15	15—17	17—20	23—25	43內外
袖幅		19內外	26內外	27—30	32	33—34
身丈		70—95	105內外	115內外	150內外	135內外
身八つ口		10	同	同	13	——
衿肩明		4	4.5	6—7	9.5	9
後幅		いつぱい	いつぱい	いつぱい 25	28.5	30
肩幅		いつぱい	いつぱい	25	30	32—33
衽下り		9—10	11	15	23	20
前幅		いつぱい	いつぱい	いつぱい	23	25—27
抱幅		——	——	——	21	23
衿下		20	23—30	30—50	75內外	65
衽幅		いつぱい 10	いつぱい	いつぱい	15	15
合褄幅		衽幅より 0.5つめ	同	同	13.5	13.5
衿幅		3—3.5	4	4.5—5	廣衿11 狹衿5.5	5.5—6
附紐		(肩より)23	25	28—30	——	——
裄		いつぱい	いつぱい	35—55	62	66
裾	裕	0.5內外	0.4—0.6	同	同	0.4
	綿入	1	0.8—1	同	0.8	0.6

第六章 女 袴

一 各部の名稱



女袴各部の名稱

本裁女袴は後三つ襞を普通とするが,大紋腰といつて一つ襞にするものもある。大紋腰は現今殆ど用ひられなくなつた。

二 地 質

❶綿布　綿セル·綿サージ　幅 76 cm 内外

❷毛織　セル·メリンス　幅 75 cm

　　カシミヤ　幅 113 cm から 130 cm まで

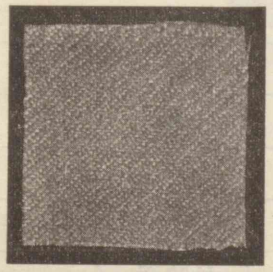
　　アルパカ·サージ　幅 75 cm から 150 cm まで

❸絹布　琥珀　幅 50 cm から 75 cm まで

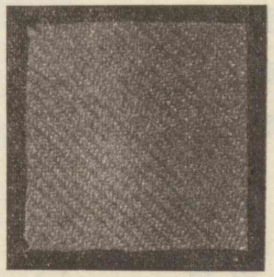
　　鹽瀨　幅 72 cm

　　緞子　幅 76 cm

　　紬　幅 36 cm



セルの布目(表)



裏

❹附屬品

1.紐芯　三河木綿

2.飾絲　太白(たいはく)絲·リボン·レース·打紐·蛇腹絲等。

何れも白色のものを普通とする。

サージ·セルなどの表布目は,綾が右上から左下に斜になつてゐる。

三 仕立て上げ寸法及び割出し方

紐下	87 cm	着丈×$\frac{7}{10}$ 子供物‥$\frac{6}{10}$
相引	63	紐下$\frac{2}{3}$+5cm内外 子供物‥紐下×$\frac{2}{3}$+3cm
後幅	30	紐下×$\frac{1}{3}$+3(或は着物後幅+2cm
後脇幅	22.5	後幅×$\frac{3}{4}$
後の重なり	4以内	後幅×$\frac{1}{8}$(約)
後寄襞幅	上 4	後幅×$\frac{1}{8}$(約)
	下 8	後幅×$\frac{1}{4}$(約)
後笹襞幅	6	後脇幅×$\frac{1}{4}$
後腰幅	30	後幅と同じ
前脇幅	18	後幅×$\frac{3}{5}$
懐の重なり	3	後幅$\frac{1}{10}$
前寄襞幅	上 3	後幅$\frac{1}{10}$
	下 5.6	後幅$\frac{1}{5}$−0.4
前笹襞幅	4.5	前脇幅×$\frac{1}{4}$
前紐附幅	32	後幅と同じ(或は2cm増)
前紐	幅 4	
	丈 350内外	腰廻り×3.5
後紐	幅 6	
	丈 200	腰廻り×2.5
蹴廻し		後幅×9 以上

注意 (1)紐附の高さは普通前後を同じにするが,體格

好みによつて後を2cm長くすることもある。

(2)裾には切上げを附けてもよい。

四 裁ち方

❶前後·布幅の計算 普通襞の數は後に三つ,前に五つとし,襞の深さは後幅の約$\frac{1}{4}$にするから,それによつて計算すると,前·後の總幅は次のやうになるのである。

後布＝後幅×4　前布＝後幅×5

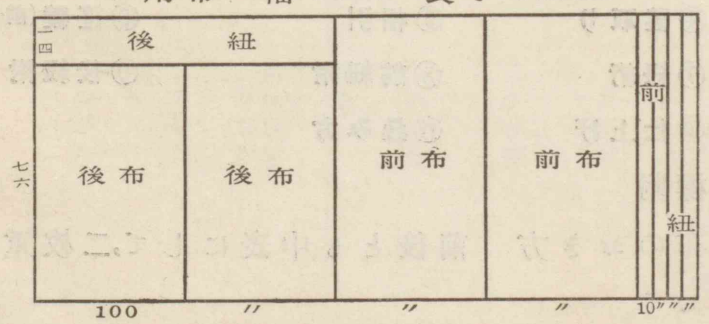
❷裁切り寸法

積り方

紐下＋裾絎代＋上部縫込＝裁切り丈
2　8

❸裁ち方圖と積り方計算

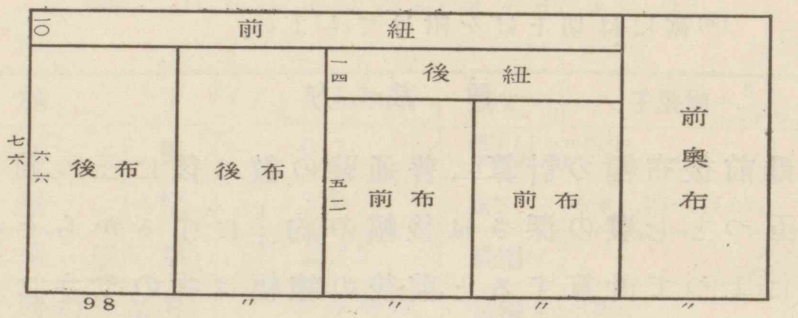
(1)用布　幅 76 cm　長さ 440 cm



積り方

後丈×4＋前紐幅×4＝總丈
100　10　440

(2)用布 幅76cm 長さ490cm



積り方

後丈×5＝總丈
98　490

五 仕立て方

仕立て方順序

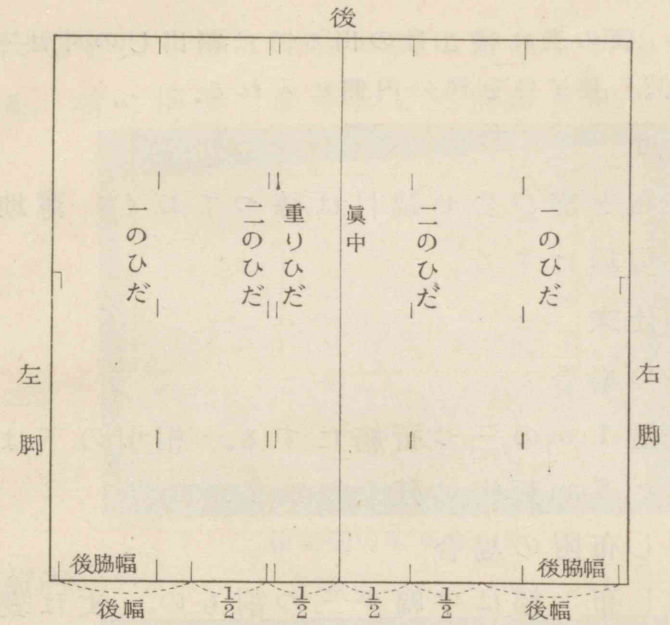
①標附	②縫合せ(前·後)	③裾紵
④襞取り	⑤相引	⑥笹襞(前·後)
⑦紐紵	⑧前紐附	⑨後紐附
⑩仕上げ	⑪畳み方	

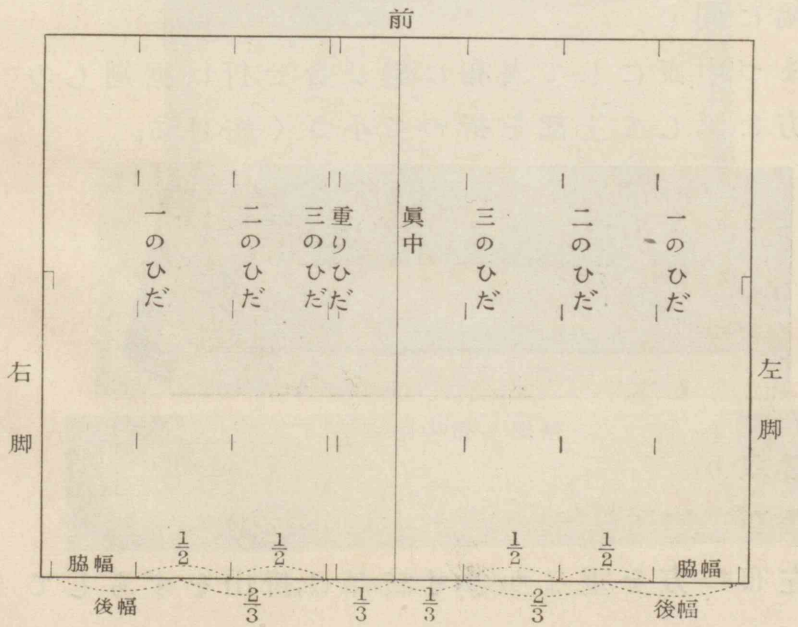
❶標附

1.布のおき方　前後とも中表にして,二枚重ねておく。

2.標附順序(前·後)

標附け方は次のやうにする。





注意 襞の表に接ぎ目の出る時は,割出しの寸法を加減し,接ぎ目を襞の内側に入れる。

❷縫合せ

前後の布を縫ひ合せ裁目は,縢つておく。薄地のものは袋縫にする。

❸裾の仕末

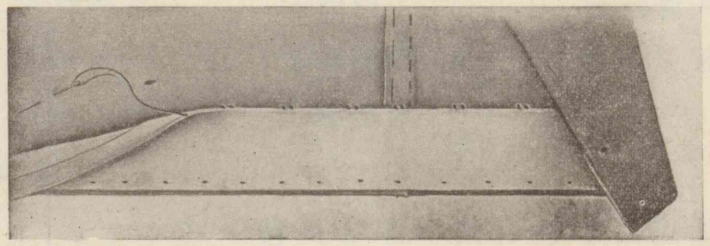
1.折紵の場合

上り幅1cmの三つ折紵にする。相引の下は前後共に,5cm程紵け殘しておく。

2.裾廻し布附の場合

裾廻し布 幅は半幅か三つ割もの。丈は表布幅に同じ。

まづ中表にして表布に縫ひ合せ,折は裾廻しの方に返して,上部を折つて小さく紵ける。



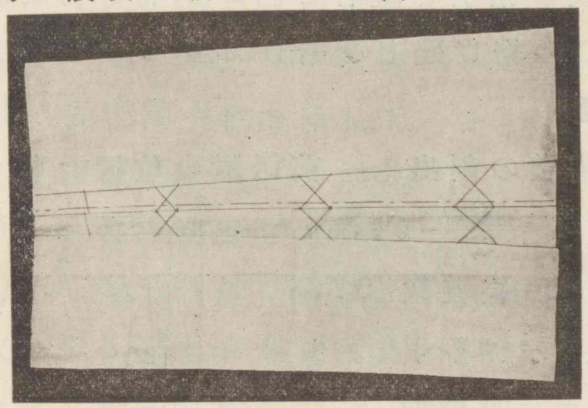
裾廻し布の附け方

❹襞取り

1.後布

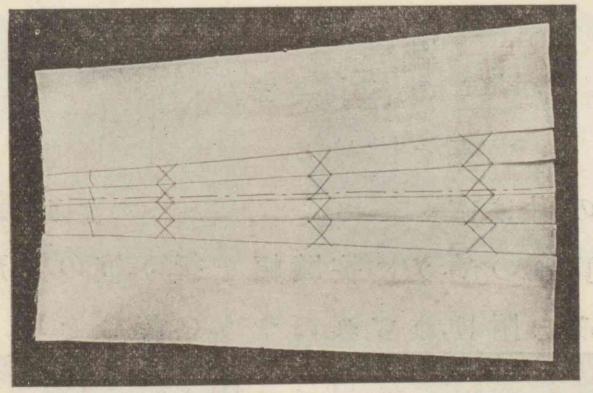
左布の方を重なりの寸法だけ,折山をずらして

後の中央と標とを合せ,次に右布の折山を重ねる。次に懷襞に躾をかけ,三箇所に躾をかける。

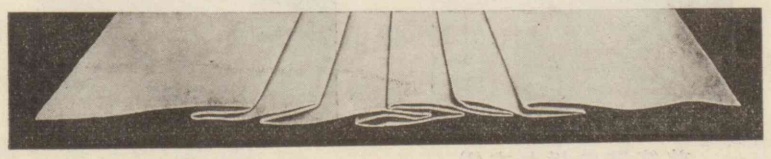


後布襞の取り方

2.前布



前布襞の取り方



前布襞の重なり

❺相引

1.前後の相引を縫合せ折は前布の方に返す。

2.裾口の紡け残しを紡ける。

❻笹襞

1.前笹襞の割出し　前紐附の位置に標す。

(イ)(ハ)＝$\frac{腰幅}{2}$－0.7 cm

(ロ)(ハ)＝笹襞幅－0.7 cm

(ニ)(ハ)＝(ロ)(ハ)

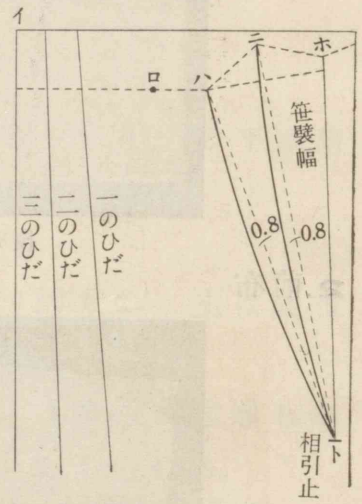
(ニ)(ホ)＝笹襞幅

(ホ)(ト)＝(ハ)(ト)

(ニ)(ト)＝(ロ)(ト)

(ニ)(ト)・(ハ)(ト)の各中央で

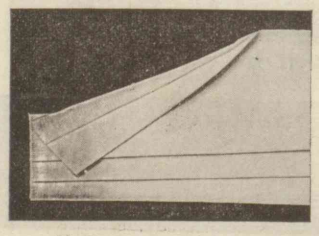
0.8 cm 丸みを附ける。

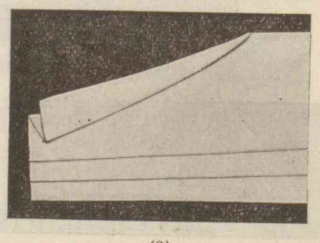


笹襞の標附け方

2.折の附け方

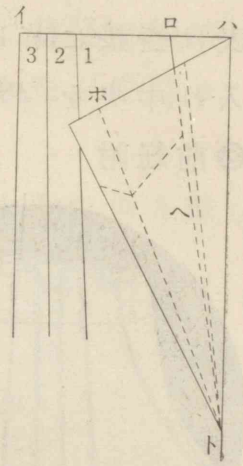
次頁圖のやうに笹襞幅を折り,笹の葉形に少し丸みを附け,ねぢれぬやうに釣合を取り,恰好を


前笹襞の折り方(1)


(2)

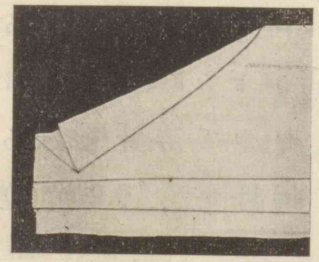
正して針を打ち,烙鏝をかけて折目を附ける。

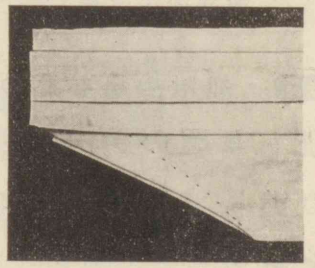
3.次に笹襞を開き,折目の内側を折山より 0.4 cm 控へて,2 cm 位の針目で裏には小針を出して綴ぢ附け,相引止まり 2 cm 程の間は 0.5 cm 位の小針に縫ひ,末端は約 1 cm 残して抄ひ留をする。次に折り返し形を整へ表裏を合せて紡け附ける。



笹襞の標附方

4.後笹襞の割出し　前に同じ。

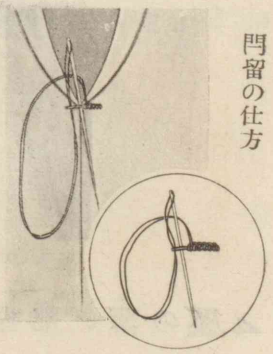

笹襞の折り方(3)


裏 (4)

但し笹襞幅が後は後脇の四分の一になるのみである。

5.笹襞を紡けたら相引止まりに右圖のやうに閂留をする。

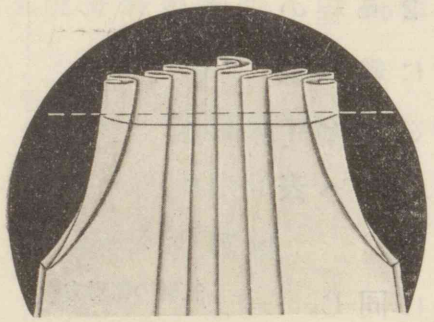
(留の幅は 0.4 cm 位)


閂留の仕方

❼紐絎

表は掛接に,芯は突合せ接して前後の紐に芯布を入れ,中央を 38 cm 程殘して寸法の幅に絎ける。

❽前紐附



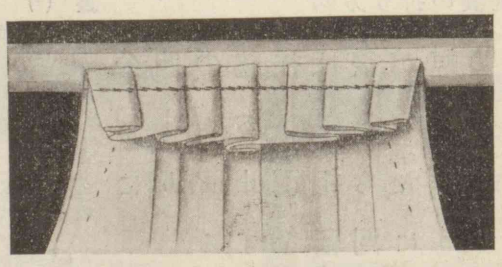
前紐附の位置

1.身頃の方は左右の端で 0.8 cm 上げて,丸みを附け紐附を標す。

2.生半紙か,美濃紙を揉んで,よく伸ばし紐幅の二倍に二枚切り,紐丈の中央に綴ぢ附ける。

注意　紐附の場合裏の襞山が下らぬやうに附ける。

3.紐と身頃の釣合をよく取つて待針を打ち,二本の撚絲で返し針にして折目から 0.2 cm 位內側を縫ふ。



前紐の附け方

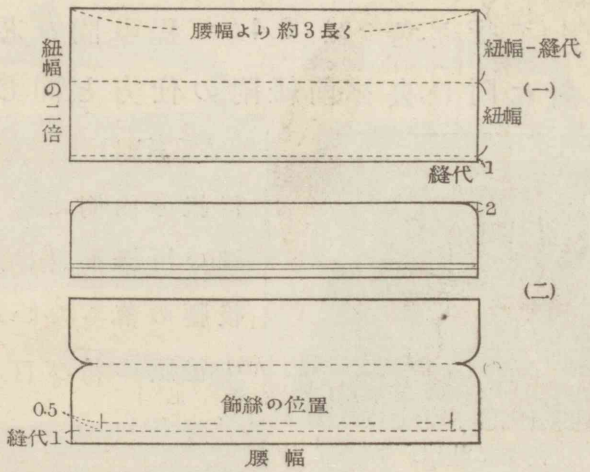
4.襞の薄い部分には小布を挾み,全體の厚さを平

にして裏を絎ける。又はまつつてもよい。

5.縫込の多い時は,前頁圖のやうに縫込を紐幅に折つて半返しで綴ぢ附けておき,紐を絎ける。

❾後紐附

1.腰紙　板目紙か反物の包紙で上圖の通り裁つ。



腰紙の拵へ方

幅…紐幅 × 2　　丈…腰幅 + 3 cm

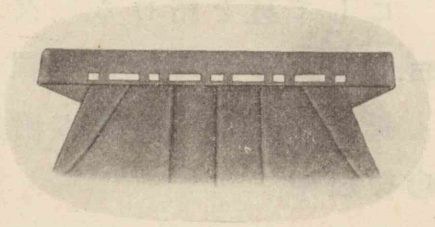
縫代 1 cm として殘りの幅を折り合せ,端を 2 cm の丸みに裁つ。

2.後紐に腰紙を躾絲で綴ぢ附ける。

3.飾絲

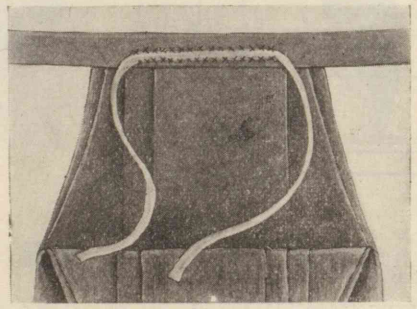
(一)針數 { 大人物…大針 4　小針 5
　　子供物…大針 3　小針 4 }

(二)絲　普通は太白を數本用ひる。レースやリボンなども用ひる。



飾絲の附け方大人もの

4.後紐附は身頃を眞直にして折り,角より 0.4 cm 程の間を芯と共に返し針に附け,裏を前紐附の仕方と同じ注意をして絎ける。

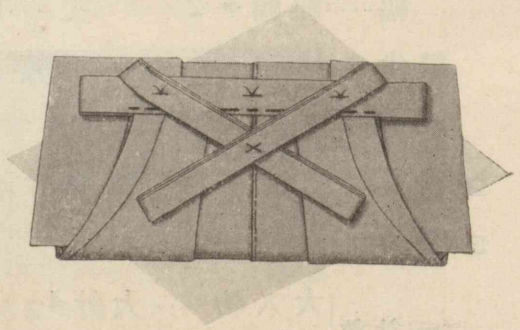


內紐の附け方

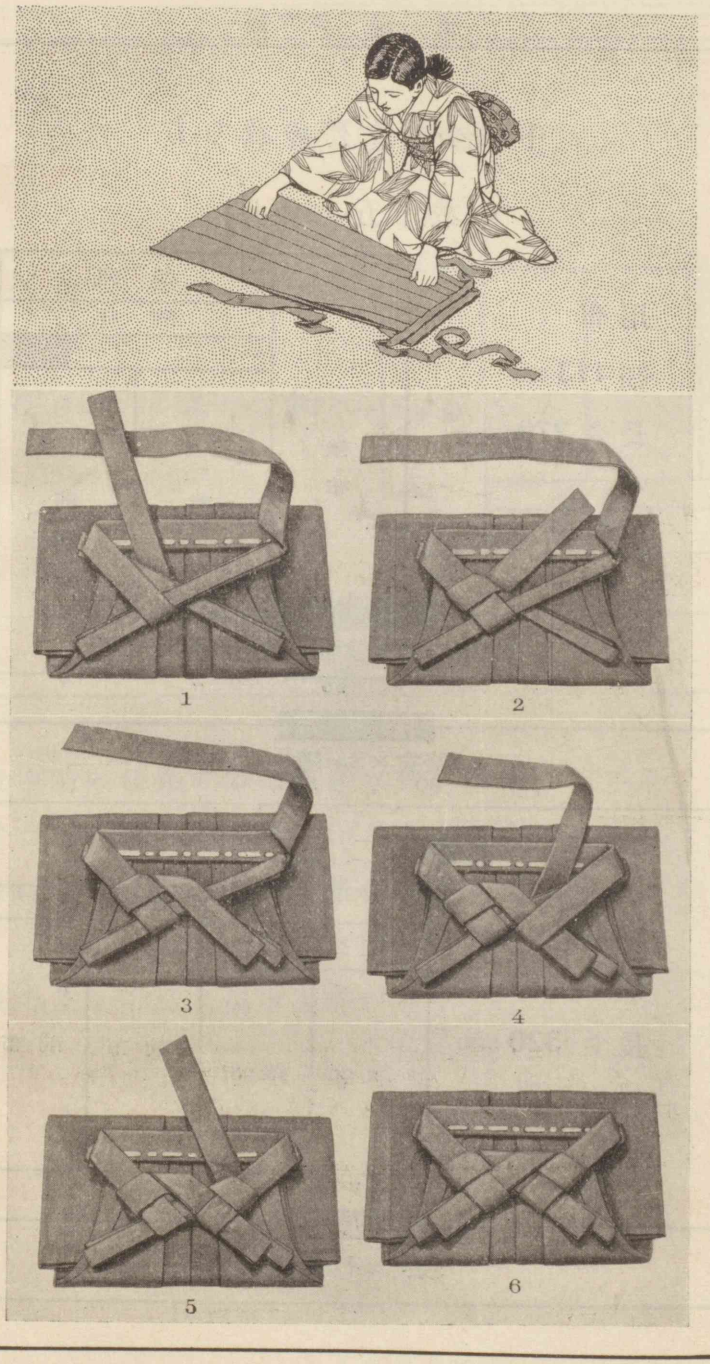
後紐の內側に袴と共色の細い衿紐を附けておくと後腰の落ちないのみならず,後腰の結び目もいたみが少ない。

⑩**仕上げ**　布又は紙を上にして,その上からアイロンをかけ,三つに折り疊む。紐は右圖のやうにして綴ぢておく。

⑪**疊み方**　次頁のやうにして疊む。



仕立て上り



袴紐の疊み方(出世疊)

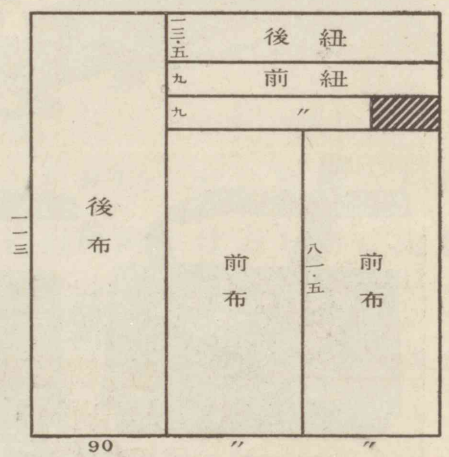
中裁·小裁女袴の裁ち方

中裁(十五·六歳用)

用布

幅 113 cm

長さ 270 cm



積り方

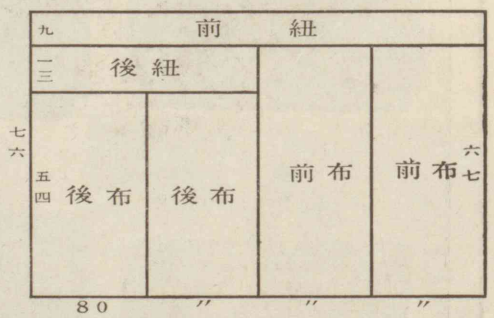
後丈×3＝總丈
90　270

中裁(十二·三歳用)

用布

幅 76 cm

長さ 320 cm



積り方

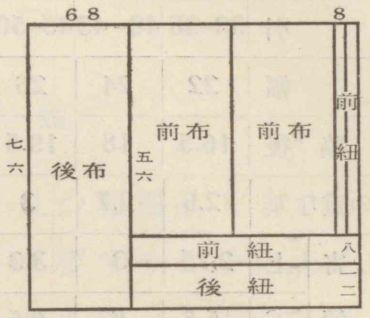
後丈×4＝總丈

小裁(八·九歳用)

用布

幅 76 cm

長さ 220 cm(後一つ襞)



積り方

後丈×3＋前紐幅×2＝總丈
68　8　220

小裁·中裁の仕立て方は,本裁女袴に準じてすればよいが,子供物には,裾の方に揚を作ることがある。揚は一段か二段に取り,位置·撮みの分量に注意して恰好よく作る。

問　題

前後の差を附ける理由を述べなさい。

各種女袴普通仕立て上げ寸法

名稱＼年齢		五・六歳	八・九歳	十二 十三歳	十五 十六歳	大人	割出し方
紐下		45–50 cm	57–60 cm	65–70 cm	70–80 cm	87cm	大人着丈×$\frac{7}{10}$ 子供物着丈×$\frac{6}{10}$
相引		33–36	40–43	45–50	48–55	63	大人紐下×$\frac{2}{3}$+5 子供物紐下×$\frac{3}{4}$+3
後幅		22	24	26	27	30	着物後幅+2
後脇後		16.5	18	19.5	21	22.5	後幅×$\frac{3}{4}$
後の重なり		2.6	2.7	3	3.4	4	後幅×$\frac{1}{8}$
後寄襞幅	上	2.75	3	3.3	3.5	4	後幅×$\frac{1}{8}$
	下	5.5	6	6.5	7	8	後幅×$\frac{1}{4}$
後笹襞幅		4	4.5	5	5.2	6	後脇幅×$\frac{1}{4}$
後腰幅		22	24	26	28	30	後幅 或は後幅+2
前脇幅		13	14.5	15.5	17	18	後幅×$\frac{2}{5}$
懐の重なり		2.3	2.5	2.7	3	3	後幅×$\frac{1}{10}$
前寄襞幅	上	2.2	2.4	2.6	2.8	3	後幅×$\frac{1}{10}$
	下	4.4	4.8	5.2	5.6	5.6	後幅×$\frac{1}{5}$−.04
前笹襞幅		3.2	3.5	4	4.2	4.5	前脇幅×$\frac{1}{4}$
前紐附幅		24	26	28	30	32	後幅 或は後幅+2
後紐	幅	4.5	5	5	5.5	6	
	丈	115	150	170	200	200	腰廻り×2.5
前紐	幅	2.5	3	3.5	3.5	4	
	丈	230	265	285	300内外	350内外	腰廻り×3.5

洋服篇

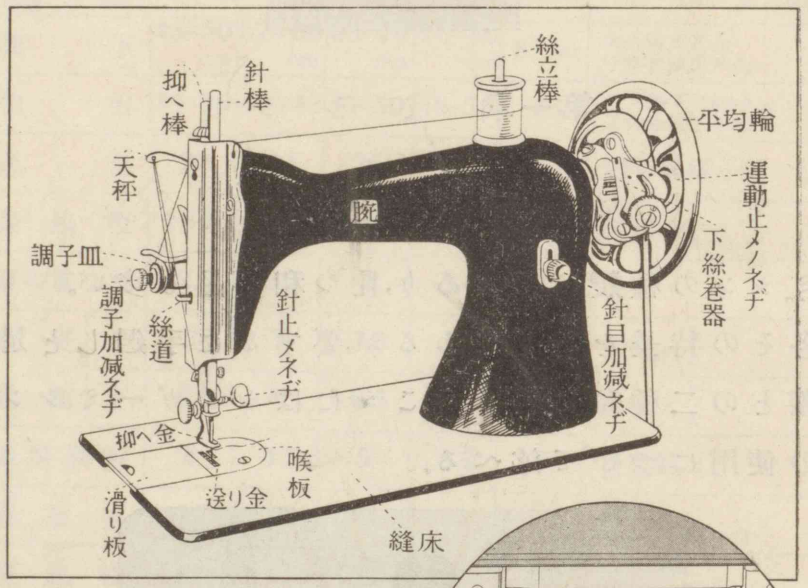
第一章　ミシン

一　種類

ミシンの種類は種々あり,且つ和製品も多い。各その特長を有してゐるが,要するに手廻しと足踏との二種類になる。こゝにはシンガーミシンの使用について述べる。

足踏ミシン使用の姿勢

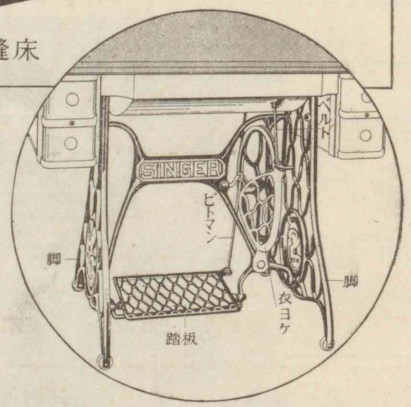
二 各部の名稱



ミシン各部の名稱(上部)

蛇の目型

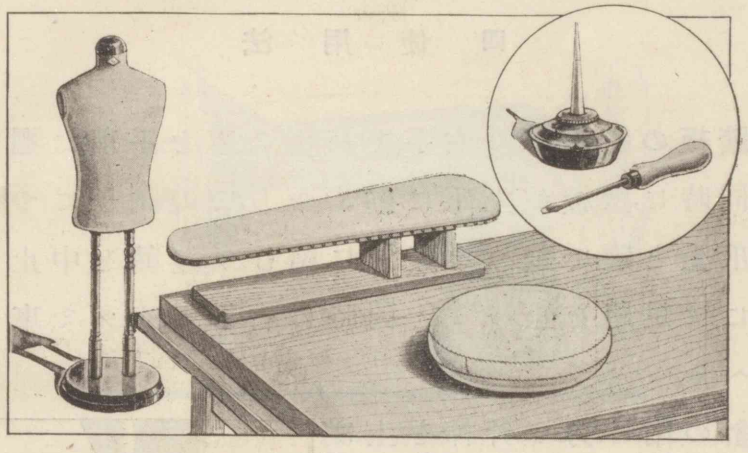
ボヒンケース 丸船型



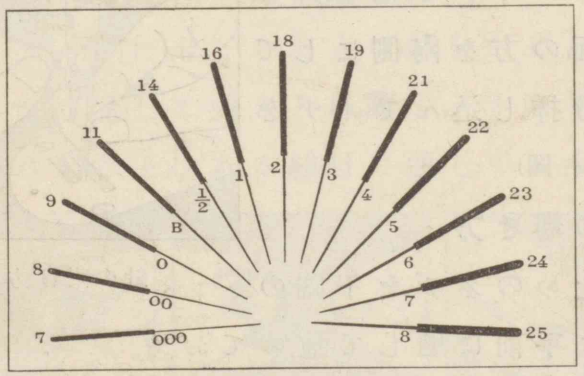
下部の名稱

下絲卷(ボビン)絲卷の入る鞘(ボビンケース)の形狀に蛇の目と丸船とがある。

三 用具



用具



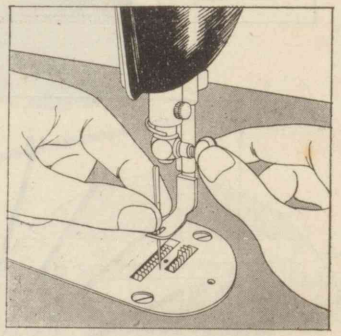
新番號 舊番號 新舊針の番號對稱

材料	針 新	針 舊	絲
絹布・木綿・麻・毛織等の薄地	9	0	羽二重絲 カタン絲 60—100番
木綿・麻・毛織等の中位の厚地	11	B	カタン絲 60—70番
木綿・毛織等の厚地	14	1/2	カタン絲 50—60番

四 使用法

❶踏板の踏み方 右手でハヅミ車を手前に廻すと同時に,踏板が上下に動くから,この調子につれて爪先と踵で踏板を交互に踏む。運轉を中止するには足踏を止めると同時に右手でハヅミ車を押へる。

❷針の附け方 針棒を上げて針止めのネヂを弛め,針の平らな面の方を内側にして孔に充分挿し込んでネヂを締める。(右圖)

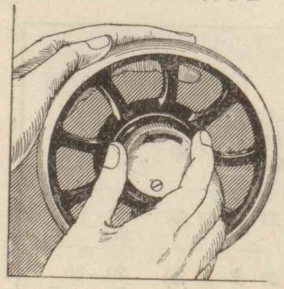


針の附け方

❸下絲の巻き方

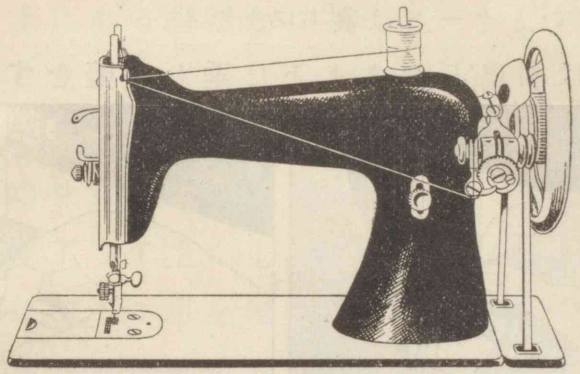
1.運動止めのネヂを下圖のやうに手前に廻して弛めておく。

2.ボビンに指先で絲を上から下に二·三回巻き附けて心棒に押し込む。



ネヂの弛め方

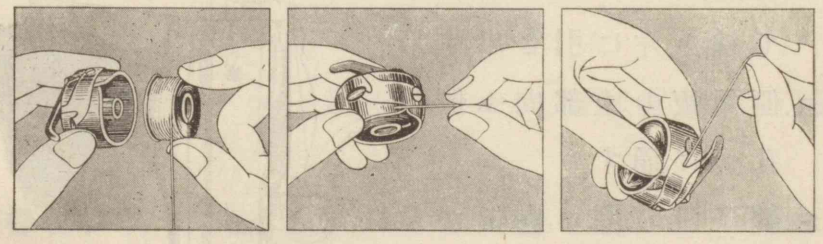
3.絲を絲立棒に立てて,次頁圖のやうな順序に絲をかけ,巻器の小車を押し下げて,ハヅミ車を運轉させて絲を巻く。



下絲の巻き方

❹ボビンケースに下絲の通し方

ボビンケースにボビンを入れ,絲をボビンケースの切れ目に通して引き入れ,調子バネの下を潜らせ,そのバネの下にある絲目に通しておく。



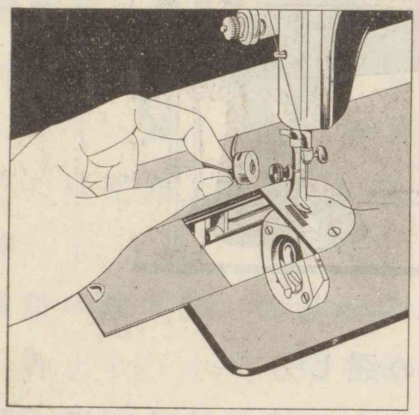
ボビンケースにボビンの入れ方

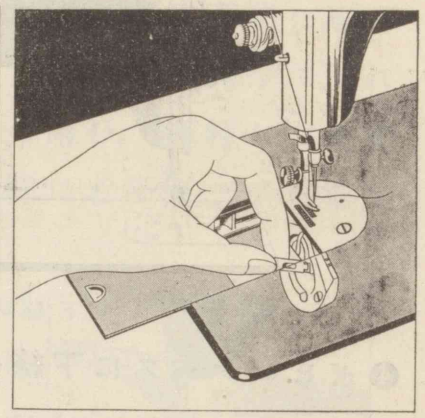
❺ボビンケースの入れ方

ボビンケースの撮みを左指先で撮んでシヤトルの心棒に押し込み(次頁圖左)ボビンケースの突起を上部の凹みにはめ込む。(次頁圖右)(これがよく合

つていないとケースは落ちる。)

絲の端は引出したまま,下に垂して蓋をする。





ボビンケースの入れ方

❻上絲の掛け方

1.絲立棒(1)に絲卷を挿して絲を左に引き出す。

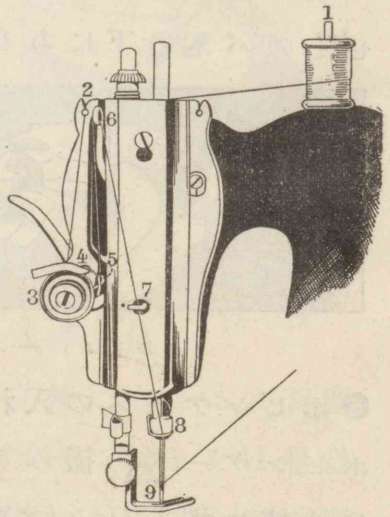
2.側面板の上部向ふ側の孔(2)に通す。

3.調子皿の間に,向ふから手前に入れる。(3)(4)

4.上絲調子の絲掛にかけ(5)

5.スプリングの鈎(6)にかけ

6.上部の絲孔(7)(天秤孔)を經て絲道に通し



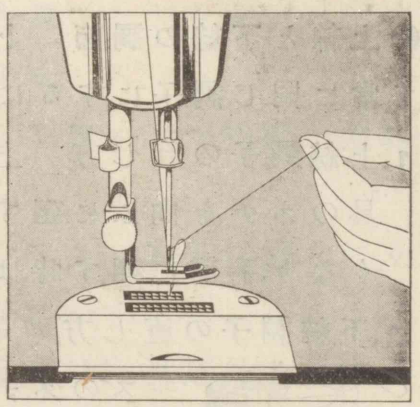
上絲のかけ方

7.針の上にある絲掛(8)に通し

8.最後に針の目度(9)に左から右へ通す。

❼下絲の出し方

上絲の端をかるく持ち針が一度下つて上に上る程度にハヅミ車を廻すと,上絲につれて下絲が引き出されて來る。これを引き出し上絲と下絲を揃へて,送り金の下から向ふに出す。



下絲の出し方

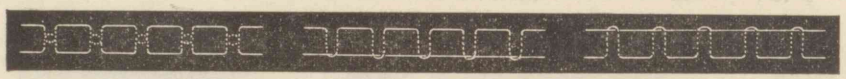
五 運針

❶姿勢 ミシンに近く腰をかけ,兩脚を揃へて踏板の上におく。

❷縫ひ方 上絲と下絲とを用意し,縫ふべき布を送り金と押へ金との間に入れ,縫ひ始めのところに針を下す。そして押へ金を下して,平均輪を手前に廻して縫ふ。

❸上絲と下絲の釣合 次頁圖は絲の調子をあらはしたもので(1)圖は正しく,(2)・(3)は共に上絲と下

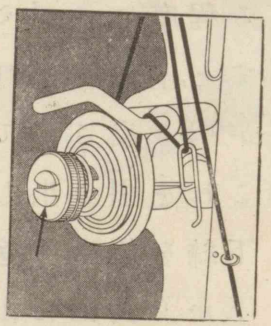
絲の釣合が不整の場合である。



(1)正しい釣合　(2)上絲が弛い　(3)下絲が弛い

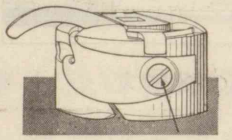
❹上絲と下絲の調節　上絲と下絲の釣合を正して常に同じ調子にするには,次のやうにする。

1.上絲調子の直し方　上絲整調具のネヂを向ふに廻す時は弛くなり,手前に廻す時はしまる。



上絲の調子の直し方

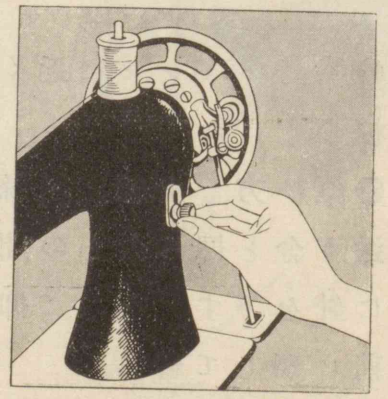
2.下絲調子の直し方　ボビンケースのネヂをネヂ廻しで弛め,又は締めて加減をする。



下絲の調子の直し方

この時上下の絲を一諸に引いて見て,絲の加減をする。

❺針目の調節　針目加減のネヂを弛めて,下に下げると針目が荒くなり,ネヂを上げると針目が細かくなる。適當に調子を取つたらネヂを締めておく。



針目の調節法

六　使用法について

❶運針上の注意

1.まづ踏み方·布の運び方·調子などを練習してから實物を縫ふやうにする。

2.抑へ金の端を目當にして縫ふ。平均輪が逆轉せぬやうにする。

3.兩手で布を正しく保つこと。妄りに押したり引いたりしてはいけない。

4.運針の際,方向を轉ずるには,一旦運針を中止して,布に針を刺したまま,抑へ金を上げ徐々に布だけを廻し,又抑へ金を下す。

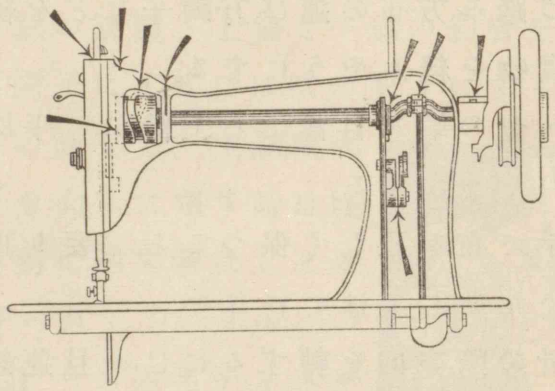
5.縫ひ終りは針棒と天秤とが最高點にある場合に,抑へ金を上げて布を 10 cm 程向ふへ引き出し 0.5 cm 位絲を殘して切る。

6.下縫又は地厚の品の時は針目をあらくし,飾ミシン又は地厚の品は,針目を細かに縫ふ。

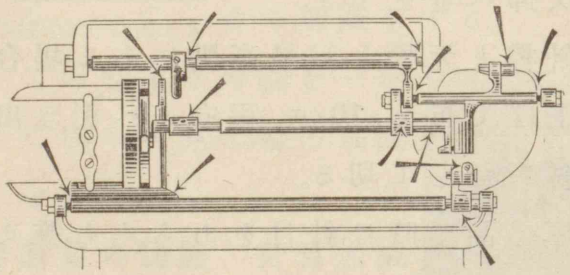
7.解き易く縫ふには,上絲を弛めるか,下絲に上絲よりも太目の絲を用ひる。

8.地薄の布には抑へ金を弱くし,或は紙を當てて縫ひ,地厚の品には抑へ金を強くして縫ふ。

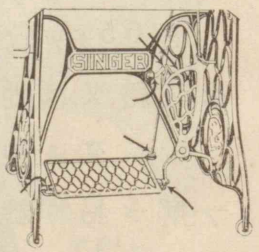
❷手入れ　ミシンの使用後は,各部の塵を拂ひ油布巾で要部をよく拭ひ,摩擦するところへは時々油穴から油を注しておく。



油さしの箇所(上部)



同　内部



同　下部

❸起り易い故障の研究

1.上絲の切れる原因

(1)上絲の掛け方が正しくない場合。

(2)針の附け方が正しくない場合。

(3)上絲が強い場合。

(4)絲に比較して針の細い場合。

2.下絲の切れる原因

(1)ボビンケースが正しく入つてゐない場合。

(2)ボビンに絲を巻き過ぎた場合。

3.飛び縫する原因

(1)針の附け方が正しくない場合。

(2)絲と針との大きさが不適當な時。

(3)スプリングの彈力がなくなつてゐたり,又は正しく上下しない場合。

(4)針が歪(ゆが)むでゐる時。(針の歪みを試すには,針の平らな方を平らな板に當てて見る)。

4.(1)運動しない,(2)運轉が重い,(3)運轉する音が高くなる原因

(1)シャトルに絲がからんでゐる場合。

(2)塵がたまつてゐる時。

(3)油がきれた時。

5.送り金の動かない原因。

(1)運動止めの弛んでゐる場合。

(2)針の附け方が逆に刺してある時。

(3)針目の調節器が大針・小針の極にある場合。

6.縫目に皺のよる原因

(1)押へ金が強すぎる時。

(2)上絲と下絲との調子が締り過ぎてゐる時。

(3)針目が地質に相當してゐない時。

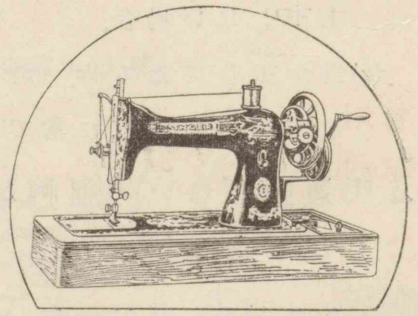
(4)針目のネヂが上り切つてゐる場合。

❹縫絲·針·地質

この三者の釣合は最も注意せねばならない。

手廻しミシンについて

家庭用として小型でもあり,費用も安價である點はよい。右手で平均輪をハンドルで廻して左手をきかせて縫ふ。その他は,すべ足踏ミシンに準じてすればよい。



手廻しミシン

問　題

(1)キャラコ類を縫ふ時,針は何番位がよいか,又絲も何番位がよいか。

(2)油を注す時どんな注意をしたらよいか。

第二章　簡單な女兒服について

洋服は子供に最も適してゐる。その仕立て方も各部の寸法の割合さへ會得すれば,和服の裁ち縫ひと同樣に,容易く仕立てることが出來る。又裝飾·色·布の取り合せを工夫すると,種々の變つた型を作ることが出來るので興味が深い。

洋服の裁縫には次の事柄を心得ねばならない。

一　型の選び方

着用者の年齡·體格と季節·流行などによつて適當な型を選ぶ。平常着としては,簡單で着脫に便利なものがよい。

二　色の配合

和服と同樣に洋服も着用者の身長·肥瘠·年齡·季節などによつて,それぞれ適當した柄や色の配合に注意せねばならぬ。色は多種の配合をなるべく避けて,二色位に止めた方がよい。同色系の配合などは上品でよい。

三　地　質

❶表地

1.夏　ギンガム·ポプリン·スポンヂ·麻·トブラルコピケ·富士絹·ボイル·ジョーゼット·ポラー·サテン(レイヨン交織)等。

2.冬　サージ·セル·メルトン·ビロード等。

❷裏地　毛繻子·スレーキ·甲斐絹等。

❸芯地　キヤンバス·モズリン等。

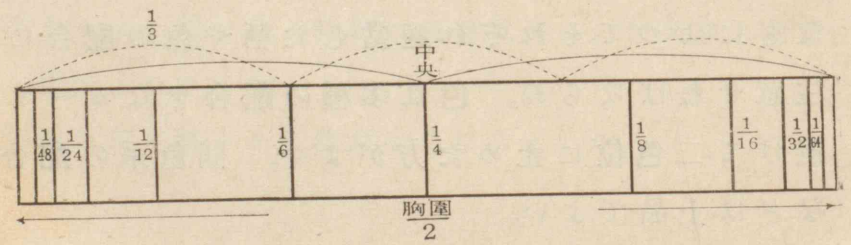
四　採　寸

下着の時の計り方に同じ。

注意　採寸は下着類の時は裸體で計り,上衣の時は下着を着た上から計り,外套·エプロンなどの時は上衣の上から計る。

簡易尺の作り方

これは製圖を簡單にするために用ひる尺度で



簡易尺

ある。その作り方は紙テープ(幅2cm)を長さ$\frac{胸圍}{2}$に裁つて前頁圖のやうに數字を記入して作る。

五　裁ち方

布を裁つには,まづ用布の地直し·表裏·毛並などに注意し,幅に應じて最も經濟に型紙を配置し,必要な縫代及び餘裕を附けて裁つのである。大きい型紙のものから配置して,順に小さいものを程よく置き,布の不足しないことをたしかめてから裁斷する。

六　縫ひ方

解(ほつ)れ易い裁目は,必ず袋縫·折伏せ縫·卷き縫或は見返し布で包むなど,何れか適當の方法を選んで縫ふ。服の型によつては假縫をして,まづ着用者に着せ,形及び活動上の不都合なきか否かを調べ,補正してから本縫をするのが普通である。

七　仕上げ

地質により霧を吹き,裏からアイロンをかけて仕上げをする。

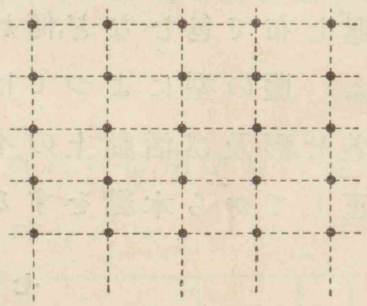
八　裝飾について

衿·胸·袖口·裾などに飾りを附ける。飾りにはフランス刺繡·スモツキング·タツチング·ギヤザー·レース·飾釦·絹テープ·バイヤスなど種々あるが,服の形·色などを考へて,調和のよいものを選ぶ。平常用としては丈夫で洗濯に堪へるものを選ぶ。

(1)　スモツキング·飾縫

❶用布の量　作る所の幅の二倍以上に見積る。針目の關係は縱横同じが普通であるが,地質によつて間隔をかへる。嬰兒服などは0.7 cm位の細かさにすると全體の調和がよい。

❷下描の仕方　不透明の地質は直接布に白粉などで點を描く。薄物は厚紙に縱横の線を引いて,その上に布をのせ,交叉したところを硬い鉛筆で點を布に寫す。



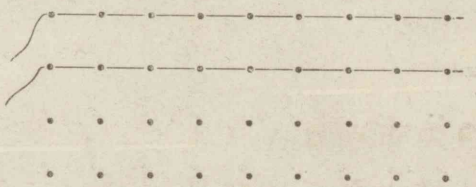
スモツキングの下描

❸下縫の仕方　40番位のカタン絲で次頁圖·印

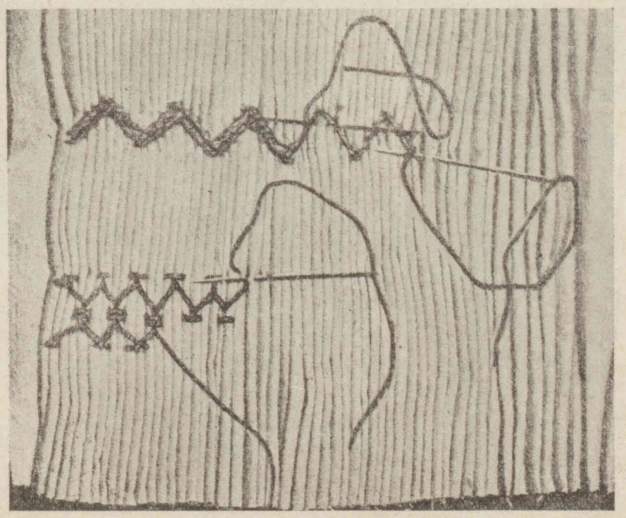
の位置を小針に抄つて縫ふ。次にこの絲を出來上り幅の厚紙に合せて,引き締め端を留めておく。締めた絲は解き易いやうに結び合せる。

❹用絲　用途·地質によつて異る。毛織物などの縫目をあらく出すものは絹布用の太い刺繡絲か人造絹絲を用ひ木綿物にはDMCの刺繡用撚り絲の40番乃至50番を用ひ,麻類はDMCか普通の縫絲を撚り合せなどして用ひる。

❺絲の掛け方　下圖のやうにする。



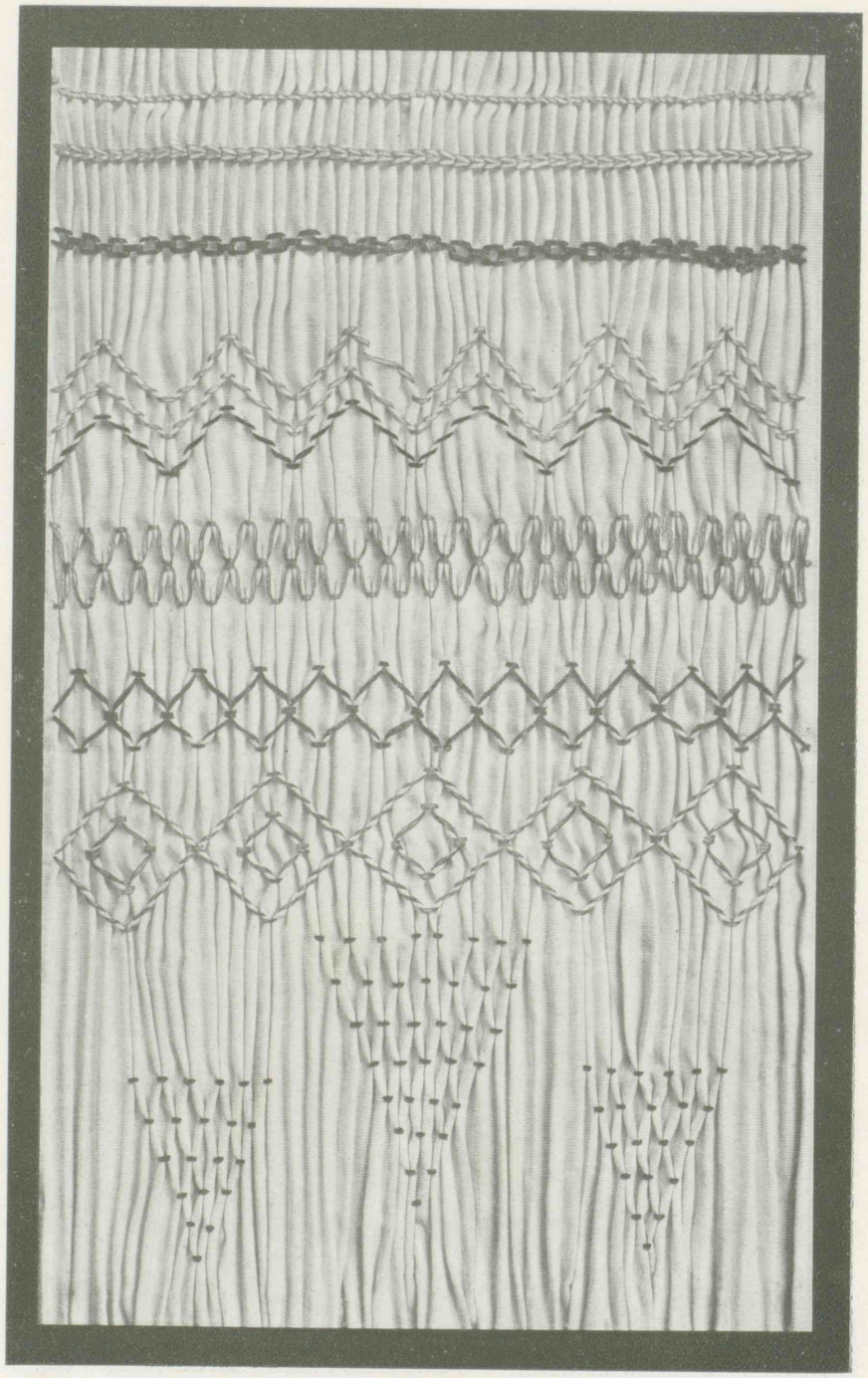
スモツキングの下縫



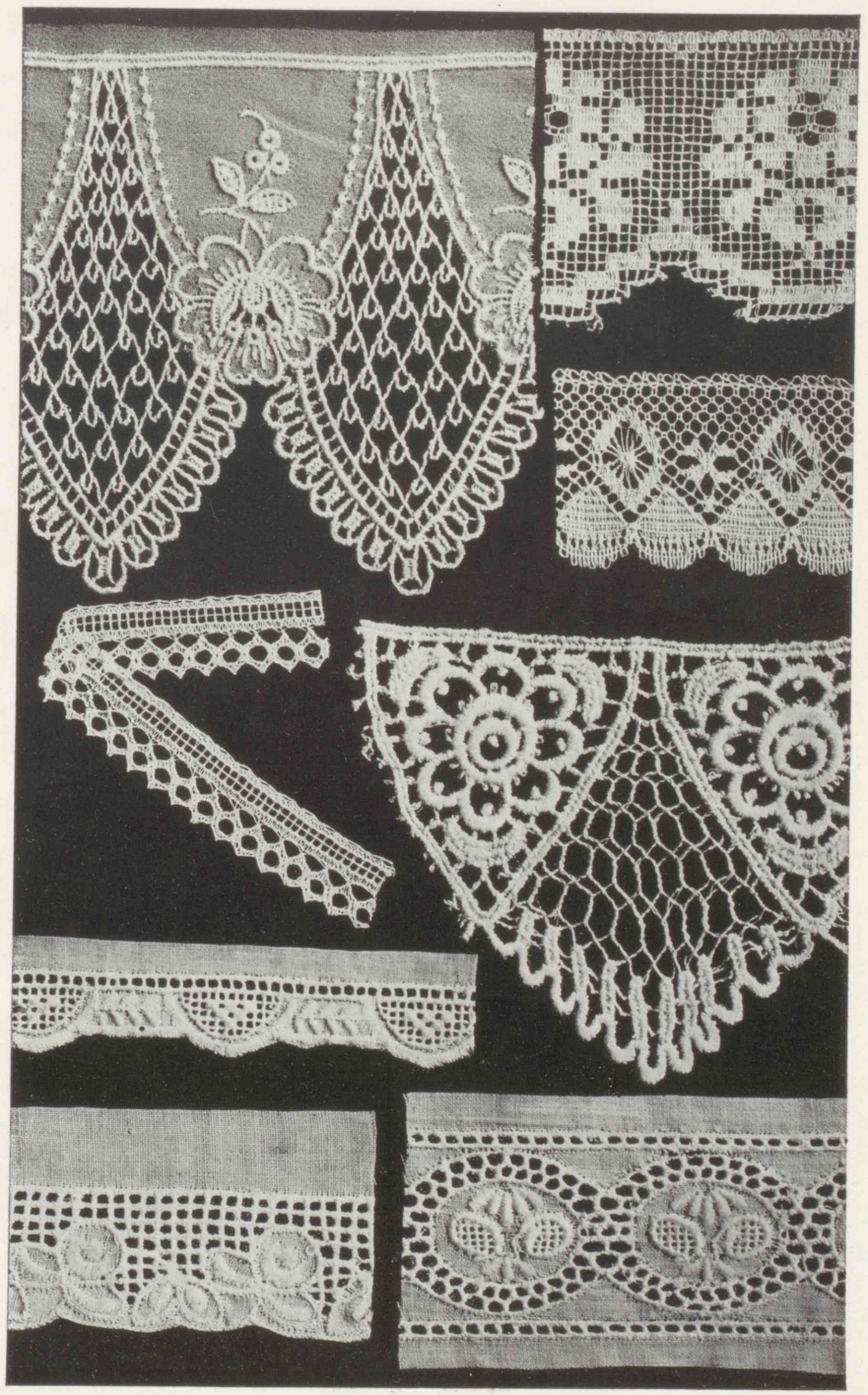
モスツキングの仕方

飾縫各種

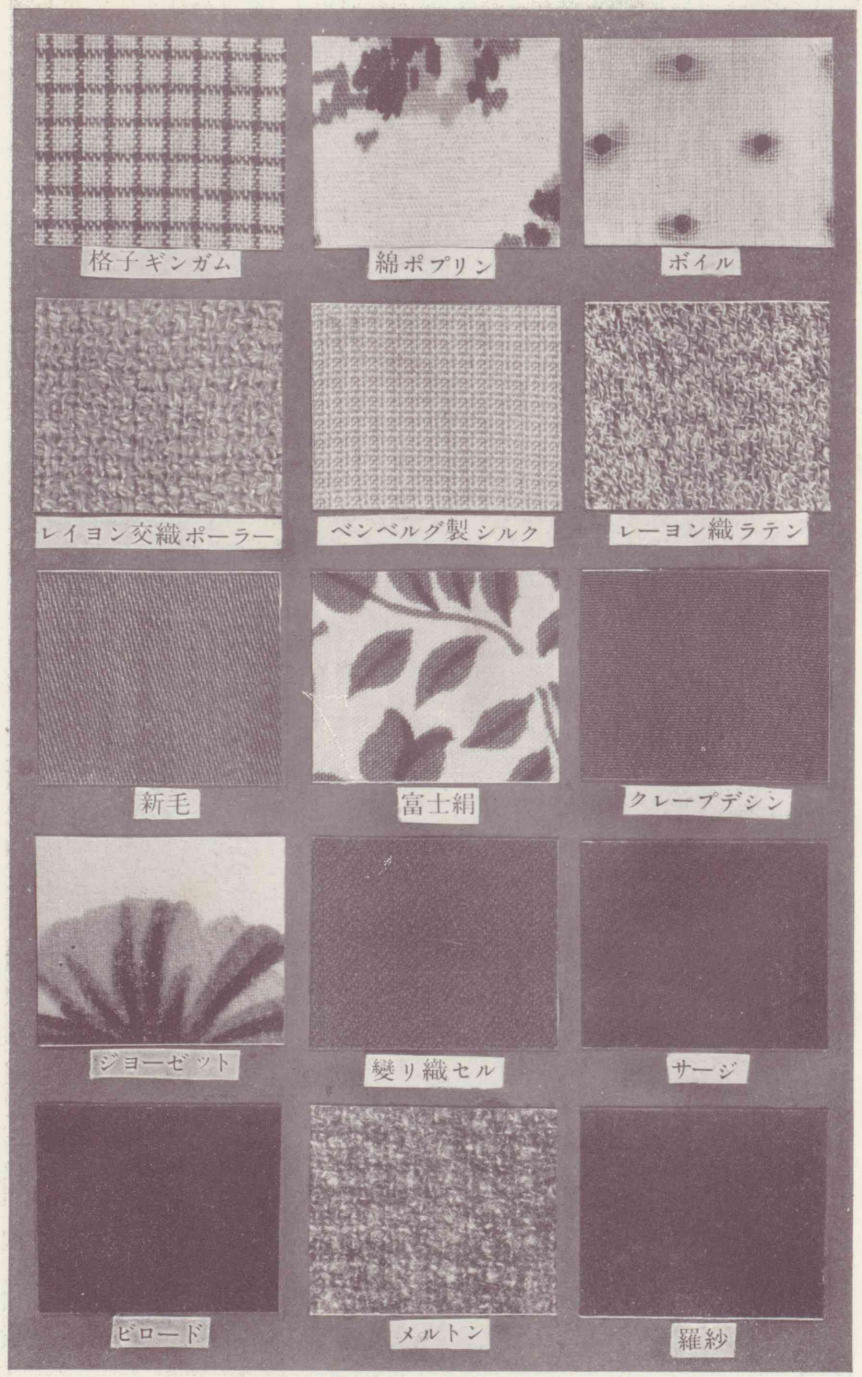
スモツキング應用のドレス各種



スモッキング各種



レースの種類

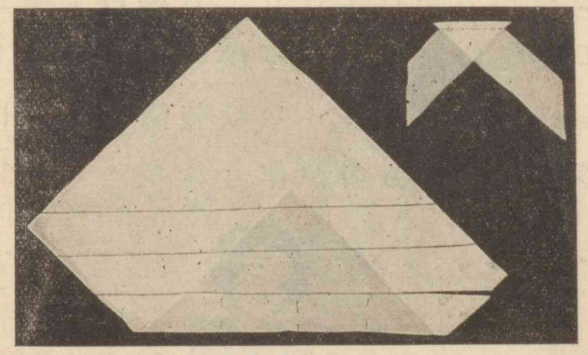


服地各種

注意　ドレスの飾縫は洗濯に堪へられるやう,用絲又は縫目の大少など,充分考へなければならない。

(2)　バイヤス

斜布であるため,丈が伸び,幅がつまるから,上り幅の四倍に 0.5 cm 程廣くして裁つ。



正バイヤスの裁ち方

標準寸法

名稱 / 年齡	身長	胸圍	脊丈	着丈	裄
二・三歳	84cm	48cm	21cm	48cm	36cm
四・五歳	97	52	24	53	39
六・七歳	107	56	27	58	43
八・九歳	116	60	29	68	47
十・十一歳	126	65	31	74	51
十二・十三歳	138	70	34	80	55
十四・十五歳	144	76	36	86	60

第三章　キモノスリーブ

その一　肩に縫目のないもの

キモノスリーブは,袖を和服の筒袖のやうに取り身頃と袖とを續けて仕立てる極めて簡單な服であつて,夏冬の區別なく,子供の平常着として廣く用ひられる服である。なほ裝飾の仕方によつて,種種の趣きあるものが作られる。

着用圖

注意　以下の仕立て方はミシン縫でなく,手縫にしてまつり縫を用ひても容易に仕立てられる。

一　型紙の取り方

❶**着丈**
❷**裄**　適當に定める。

❸**胸圍** $= \frac{胸圍}{4} + 5$ cm

❹**袖幅** $= \frac{胸圍}{4}$

❺**裾幅** $= \frac{胸圍}{2}$

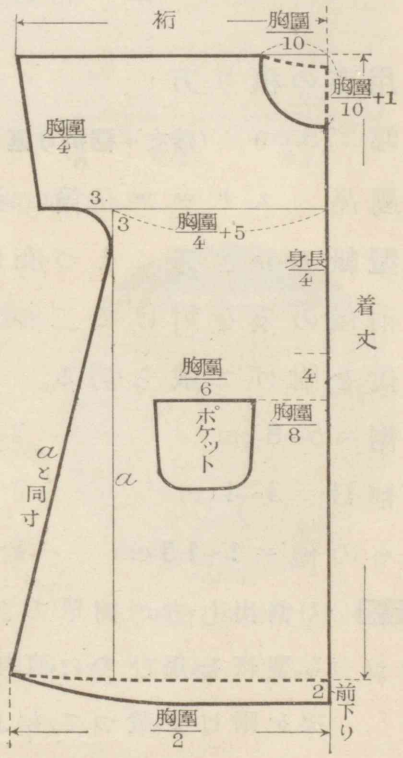
❻**袖下の丸み** $= 3$ cm

❼**脇丈** $= a$ を a に同じに取る。

❽**裾**　前下りの分を2 cm附け,脇線と結び裾の線を引く。

❾**衿ぐり**　横 $\frac{胸圍}{10}$

縱 後 1cm
縱 前 $\frac{胸圍}{10} + 1$ cm



型紙の取り方

❿**ポケット**
位置　脊丈より4 cm下り,前中央より $\frac{胸圍}{8}$ 入る
幅　$\frac{胸圍}{6}$　深さ $= \frac{胸圍}{6} + 2$ cm

袖口·裾に波形を附けてもよい。又ポケットは實用と裝飾とを兼ねてゐるから,その位置大きさな

どは服の形により恰好よく定める。

二　布の裁ち方

❶用布の積り方

幅　**75** cm　**(着丈＋裾折り返し)×2＋前下り＝總丈**
8

附屬品　スナップ三箇　斜布(バイヤス)

❷型紙のおき方　まづ布幅を二つに折り,次に丈も前後の差を附けて二つに折り,型紙を當て次の縫代を附けて裁ち切る。

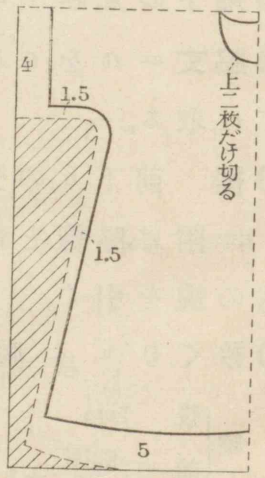
裾＝**5**~**8** cm

袖口＝**3**~**4** cm

その他＝**1**~**1.5** cm

注意　(1)割出し方が簡單であるから,型紙を用ひずに,直接布に標を附けて,裁つてもよい。

(2)前衿ぐりは,上二枚だけを裁ち落す。

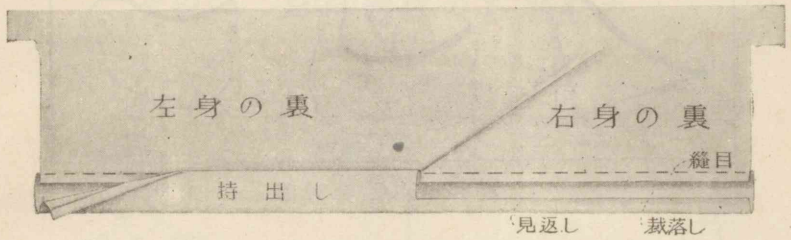


布の裁方

三　仕立て方

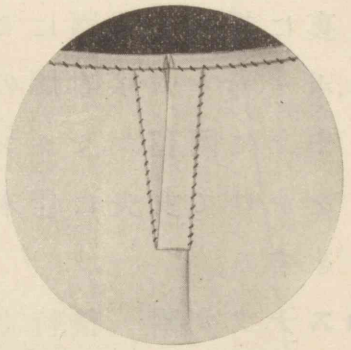
❶後明の持出し.見返し附　後の中央を上から約**15** cm　明けて,持出し.見返しを附ける。重ね方は

右上にする。(女兒と男兒は反對にする)



見返し內側の裁ち落し方

注意　地厚の布は,見返しの內側を上圖のやうに,裁落す方がよい。


見返しの附け方

❷脇縫　袖下から裾まで後身頃を **0.5** cm ずらして縫ふか,又は袋縫にして後の方に折る。

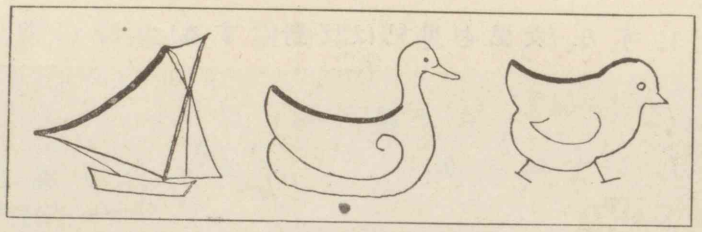
❸袖口　三つ折にしてまつる。(布幅の狹い時は見返しに,バイヤスを附けてもよい)

❹裾口　三つ折にしてまつつておく。

❺衿ぐり　バイヤスを附け,端を折つてまつり附ける。

❻ポケット

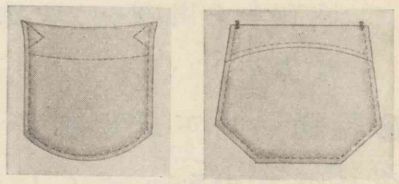
1.好みの型に裁ち,口を見返し分**2** cm 位表に折り返し,端を折りミシンをかける。



ポケット型參考圖

2.位置を定めて身頃に當て,殘りの三方の縫代を裏に折つて,周圍にミシンをかける。

3.ポケット口は右圖のやうに閂留か,ミシンをかけて丈夫に仕末をする。



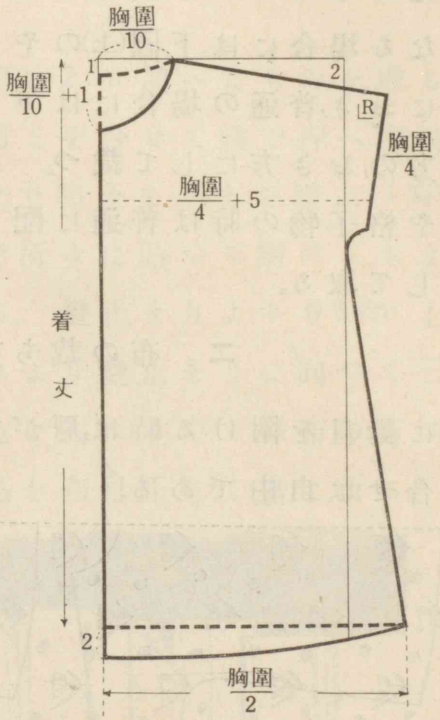
ポケットの仕末

❼**スナップ附** 後衿ぐりの上端より,0.5cm 下つて一箇,それより下後明を三等分して,二箇のスナップを二本絲(カタン絲50番)で固く附ける。スナップは凸の方を上側(見返し)に,凹の方を下側(持出し)に附ける。

❽**仕上げ** 木綿物は霧を吹いてアイロンをかけ毛織物は濡れ手拭の上から,アイロンをかけて仕上げをする。

その二 肩に縫目のあるもの

着用圖



型紙の取り方

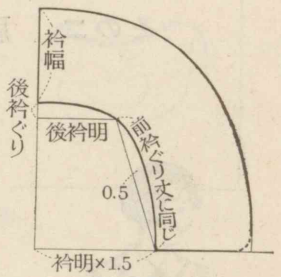
一 型紙の取り方

❶肩の下りを2cm に取つて,衿肩から斜線を引きその線を延長して袖口まで引く。(衿の分寸法は任意)

❷袖口で肩の線に直角にして,袖口の線を引く。

❸袖口を $\frac{胸圍}{4}$ に定める。$\left(\frac{胸圍}{4}+1\sim2\text{cm}\right)$ でもよい)

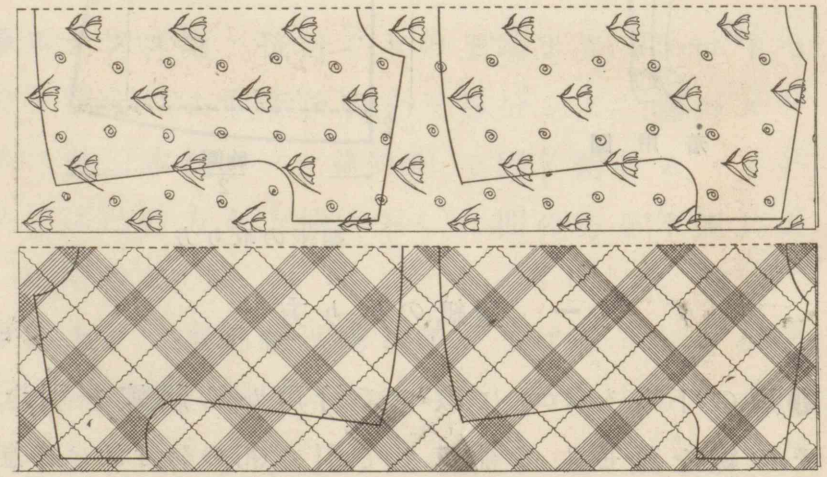
型紙をおくには,なるべく布の冗にならぬやう模様の逆になる場合には,下圖(上)のやうにおき,普通の場合には下の方のおき方にして裁つ。縞や格子物の時は普通に配置して取る。



衿の裁ち方

二　布の裁ち方

肩に縫目を附ける時は,肩が裁目になるため,布の裁合せは自由である。


布の取り方一例

注意　型紙の割合に,布幅の廣い場合は,布幅を眞二つに折らず片方を必要なだけにしてずらして折る。

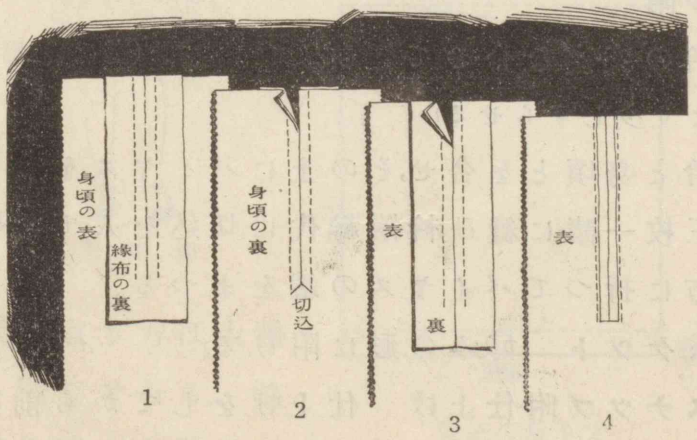
三　仕立て方

❶前明

縁布は幅4cm,丈前明に2cm加へたものを取る。

1.縁布の中央と前明とを合せて躾で押へ,中央より各0.5cmの縫代で明止まりまで縫ふ(1圖)躾の代りに薄い糊で所々に貼つて附けてもよい。

2.身頃の前明を切る。縫止まりより05cm上まで眞直に切り,それより縫止まりに向つて三角に身頃にだけ切込を入れる。(2)　縁布の方は眞直に切る。(3)　切込を布目正しく裏に折る。

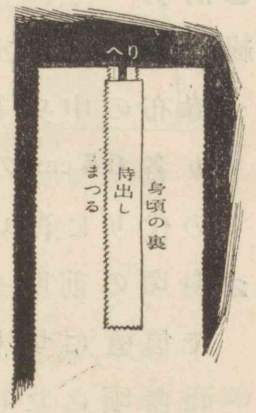


前明の仕末

3.次に縁布で縫代をくるんで裏に折り地厚のものは縫目を割り,割目に表より落しミシンをか

ける。(4)　縁布の端を折つてまつる。

4.持出しは幅5cm丈は前明より2cm長く裁切り幅を二つに折り,丈の上部と幅の裁目の方と縫ひ表に返し,輪の方を身頃に,そして下の輪は裁目のままにして縢つておく。



前明出來上り

❷肩及び脇縫　肩及び脇は袋縫にして,後身頃の方に折る。

❸裾　三つ折にしてまつる。

❹袖口　好みにより適宜でよい。

❺衿附

1.衿の表・裏を合せて縫ひ表に返す。(裏は丈・幅共表より少しずらせる)

2.衿と身頃とを合せ,その上にバイヤスをのせて三枚一諸に縫ひ,衿附縫代に切込を入て身頃の方に折つてバイヤスの端をまつる。

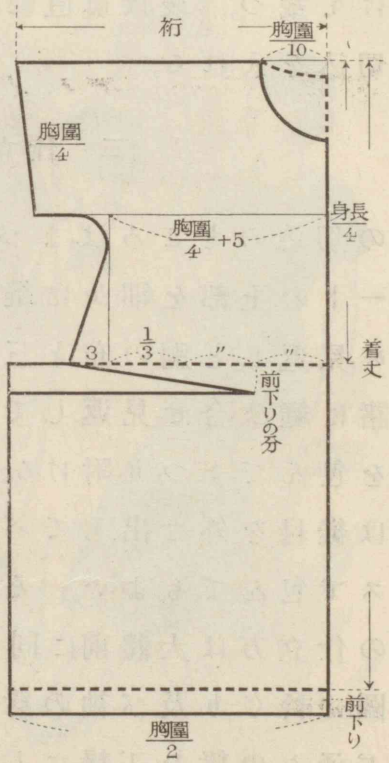
❻ポケット　好みの形に附ける。

❼スナップ附・仕上げ　仕上げをしてから,前明にスナップを附ける。

その三　脇に切込のあるもの

一　型紙の取り方

着用圖



型紙の取り方

型紙の取り方は大體前と同じである。脇の切込線を上圖のやうに引く。前下りは切込のところで附け,裾は眞直にする。切込の位置は年齢・服の形・流行などに

よつて適當に定めるがよい。

二　布の裁ち方

布は前と同じに折つて型紙を當て,廻りに縫代を附けて裁つ。後は眞直に,前は前下りだけ斜にして切込を入れる。

三　仕立て方

脇の切込のところは,まづスカートの上部を細かに縫ひ縮め,見返しと胴の布と三枚一諸に縫ひ合せ,見返しで縫代を包んでまつり附ける。又は縫目を外に出してバイヤスで包んでもよい。その他の仕立方は大體前に同じ。右圖は衿ぐり及び袖の縁バンド通しの縁を玉縁にしてバンドの位置を上下の接ぎ目を中心として附けたものである。

參考圖

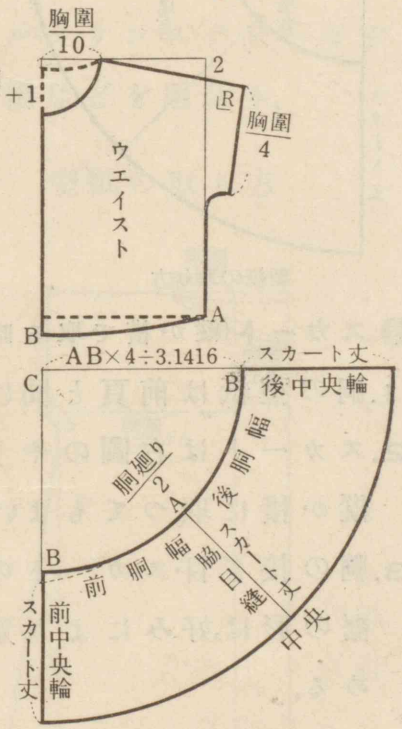
キモノスリーブ參考圖

その四　上下接ぎ合せたもの

この服はスカート(サキユラースカート)の部に波を出したものである。スカートは斜布で取る)

一　型紙の取り方

着用圖



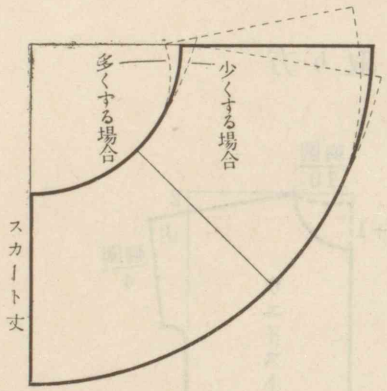
型紙の取り方

❶ **スカート**(斜布の時)

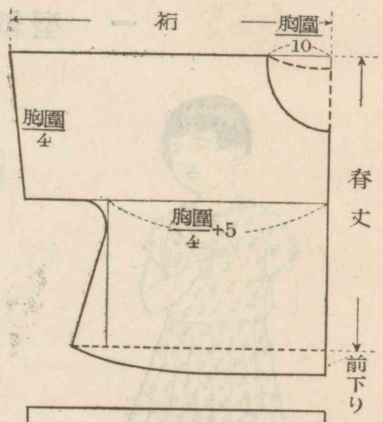
1. ウエイストは前に同じ。
2. スカート　丈＝**着丈－胴丈**
3. BC＝(AB × **4**)÷ **3.14** ＝ **直徑**

4. BCを半經とし,$\frac{1}{4}$圓を描き,その中央をA(脇線)とする。BA＝AB　Bよりスカート丈を取り,Cを中心として$\frac{1}{4}$圓を描き,裾線を描く。

5. 用布の都合で下圖(左)のやうにしてもよい。

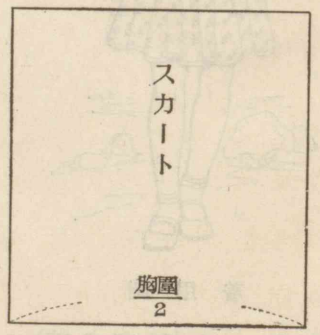


型紙の取り方



❷ スカート(縦か横で取る時)

1. 胴の型紙は前頁と同じ。
2. スカートは右圖のやう縦か横に取つてもよい。
3. 胴の接ぎ目・スカートの裾の形は,好みにより定める。



型紙の取り方

二　仕立て方

前述の縫ひ方を参考,工夫して縫へばよい。

その五　衿を縫ひ縮めたもの

この服は衿廻りにギヤザーを取つたもので,二・三歳から八・九歳位までに適する可愛らしい形である。

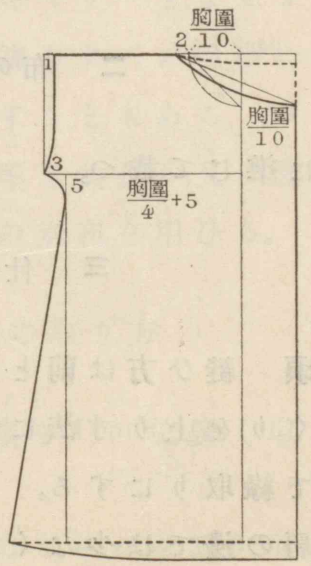
用布は軟かい地質のものがよくボイル・メリンス・ジョーセット・富士絹などを用ひる。

着用圖

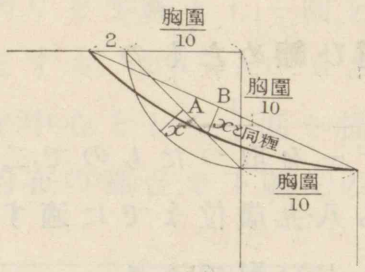
一　型紙の取り方

大體キモノスリーブの(その一)と同様であるが,その異つてゐるところは,次のやうである。

❶ 身幅をキヤザーの分として約$\frac{胸圍}{10}$前中央で廣く取る。



型紙の取り方



衿ぐりの型紙

❷衿　脇の假線から3cm入り,1cmくり落したところにする。(前頁圖)

❸衿ぐり　前は横を普通より2cm位廣くし縱は$\frac{胸圍}{10}$に取る。まづ上圖のやうにA線を引いてその中央で衿ぐりの寸法xを計る。次にB線を引いて,その中央で前と同糎に取り,自然にくる。後衿ぐりは横を前と同糎(2cm)に縱1cm(x)に引く。

二　布の裁ち方

前述に準じて裁つ。

三　仕立て方

❶身頃　縫ひ方は前と同樣である。

❷衿ぐりを上り寸法になるやうに縫ひ縮め,バイヤスで緣取りにする。この際ギヤザーは中央に多く,肩の邊では少なくする。

❸袖口·裾の飾　好みによつて適當にする。

その六　ヨークの附いたもの

(A)　丸型ヨーク

着用圖(丸型ヨーク)

この服は三·四歳から六·七歳までの女兒に多く用ひる。

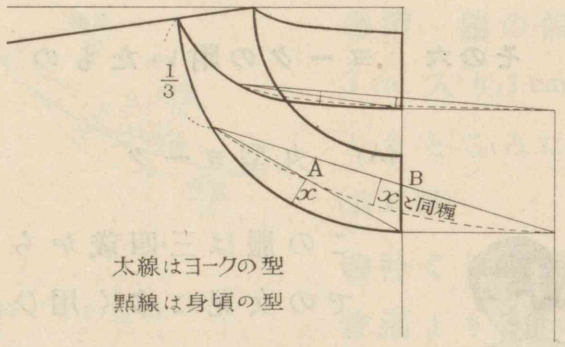
ヨークの型は色々あつて,大體丸みの多いものを丸型ヨークといふ。左圖のやうに身頃にギヤザーをよせたものや又身頃にギヤザーをよせずに,この間に飾のテープの細い線などを出すこともある。ヨーク布は身頃と共布か,又は配合のよい色の別布を用ひる。

一　型紙の取り方

❶衿ぐりは普通か又は,横を1cm位廣く取る。

❷肩下りを附ける。

❸衿ぐりに添うて,前後のヨークを幅6cm位に定めて,次頁圖のやうに描く。



太線はヨークの型
點線は身頃の型

❹衿の線で肩から約$\frac{1}{3}$のところから,キモノスリーブ(その五)のやうにABの線を引き,上圖のやうその線の中央でxと同糎にして自然にくる。後も同様にする。

二　布の裁ち方

ヨークは表·裏取る。その他は前述に準じて裁つ。袖口·裾に別布を附ける時は,その分だけ身頃を狹く裁つてもよい。或は普通に裁つて,別布をその上に縫ひ附けるやうにしてもよい。

三　仕立て方

❶身頃　肩を袋縫にして後に折る。

❷ヨーク　表·裏の肩を別々に縫つて割る。或は肩明にして持出し,見返しを附けてもよい。

キモノスリーブ參考

キモノスリーブ參考

❸身頃をヨークの丈に合せて縫ひ縮め(肩の邊はギャザーをよせない)表裏のヨークで挾んで縫ひ,表に返して押へミシンをかける。

❹衿廻りの縫代を中に折つて,ミシンをかける。

❺脇縫　袋縫にする。

❻袖口と袖口の別布とを外表にして縫ひ,その縫目を割り,別布を表に折り返し,端を折つて縫代の隠れるやうにして,ミシンで押へるか,或はまつり附けておく。

❼裾　これまでの仕方と同様に仕末をする。

❽仕上げ　前と同じく適當にする。

(B)　角型ヨーク

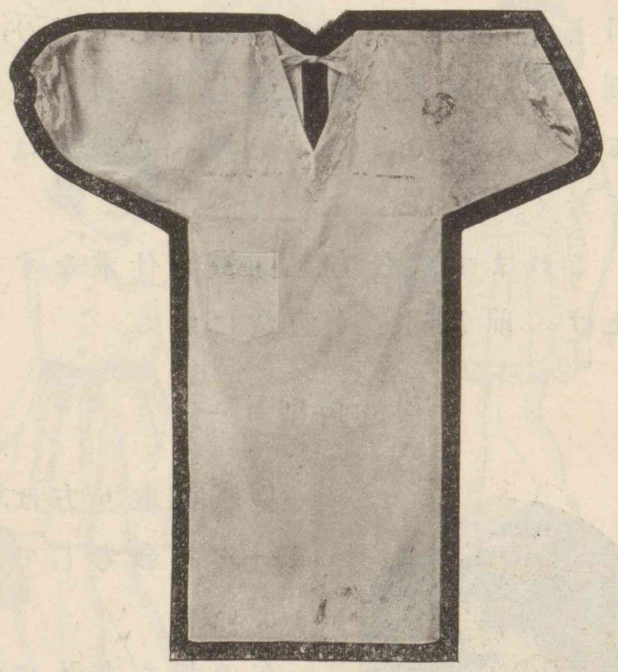
角型ヨーク

型紙の取り方は,丸型ヨークを參考してすればよい。

布の裁ち方及び仕立て方も前述の仕方に準じてする。

第四章　割烹服

割烹服は一つの作業服ではあるが,特に衞生上清潔を主とする點から,なるべく白無地のものを用ひる方がよい。洗濯に堪える地質を撰ぶ。



出來上り

一　地　質

キヤラコ·天竺·ギンガム·ポプリン·トブラルコ等。

二　採　寸

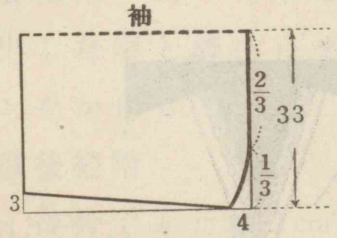
❶**胸圍**　着物の上から計つた寸法を用ひる。

❷**身丈·袖丈**　隨意に定めてよい。

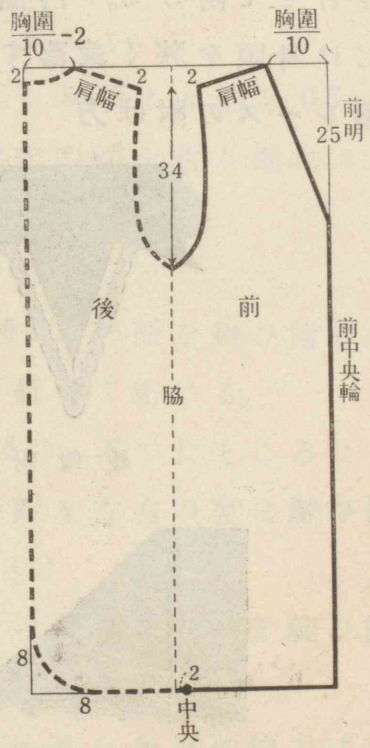
❸**袖ぐり**　着用者の着物の量(かさ)によつて加減する。

注意　前衿肩明が三角形のものは,$\frac{胸圍}{10}-2$cm (6cm 位)に裁切つた方が,衿肩の工合がよい。

三　型紙の取り方·布の裁ち方



袖の型紙(上)
身頃の型紙(右)



紐{幅 3cm / 丈 30cm}四本

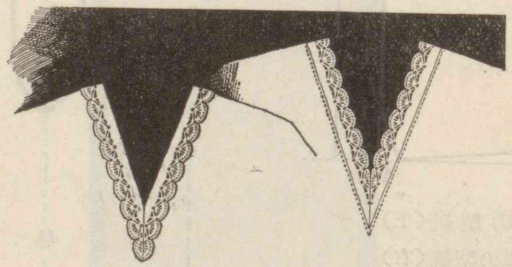
後衿ぐりを別布で附けた時は上部の紐丈は約20cm 位にしてよい。

四 仕立て方

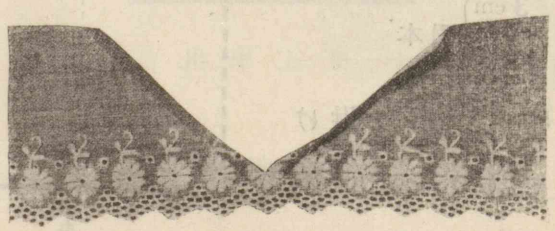
❶**袖** 袖下を袋縫にし,袖口を三つ折にする。

❷**前衿明の仕末** 前衿明にレースを附ける。前衿明の裏にレースを合せて縫ひ角は襞を取つて表に返し,レースの端にミシンをかける。レースを内側に附ける時は,レースの角を切り取つて接ぎ合せて附ける。内側に附ける時は,レースの幅だけ身頃を狹く裁落す。

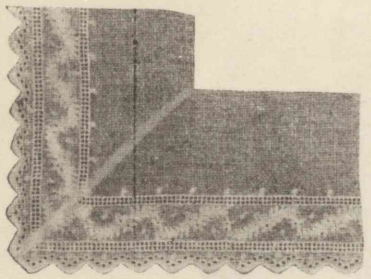
❸**レースの附け方**



外側附　　内側附



レース角の裁ち方



レースの接ぎ方

レースの接ぎ方は左圖の通りでよいが,衿の開く角度によつて,レースの角の裁ち方が異る。

❹**肩合せ** 前後の肩を合せ,後に折り伏せてミシンをかける。又は袋縫にしてもよい。

❺**裾** 三つ折紵にする。後裾の角は角立たぬやうにする。ミシンをかけてもよい。

❺**袖附** 肩の仕末と同様に身頃より袖を 0.5 cm 出し身頃と縫ひ合せ,袖縫代の端を折り端にミシンをかける。

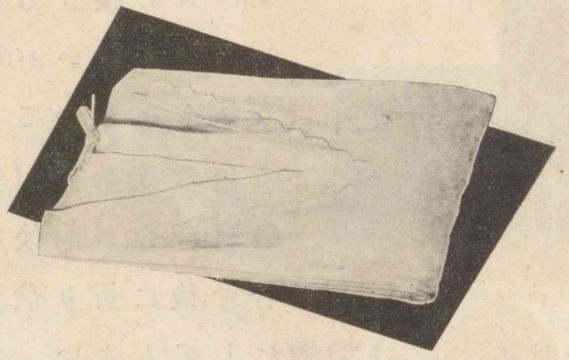
❻**後紐附**

1.後衿ぐりに幅 2 cm,丈 30 cm の紐を縫ひ附け,殘りは左右に出して,幅を折つて紵ける。

2.後衿ぐりの上端から 38 cm 下つたところに上り幅 1 cm,丈 30 cm 位の紐を左右の裏に縫ひ附ける。(力布を附けるとよい。)

❼**ポケツト附** ポケツトの口にレースを縫ひ附け,位置を定めて身頃に縫ひ附ける。

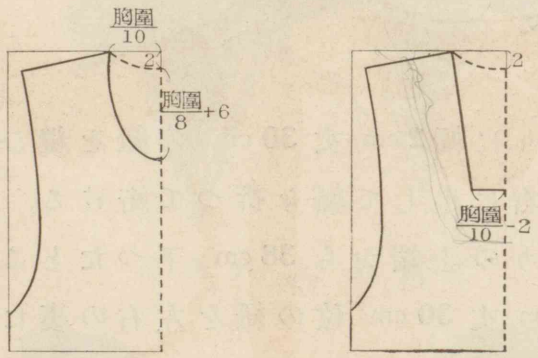
❽**仕上げ** 霧を吹いて,アイロンをかけ仕上げを



疊み上げ

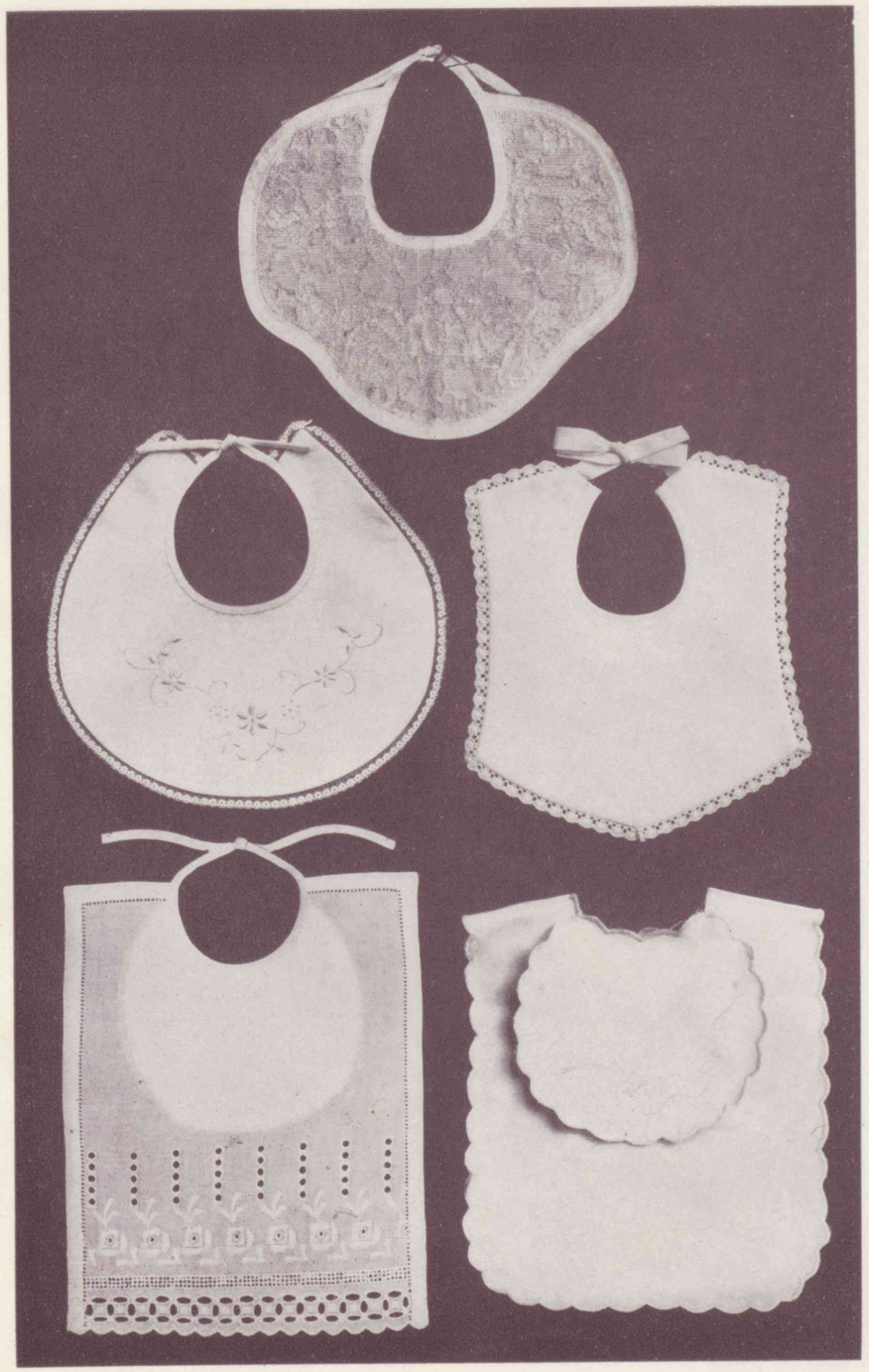
なし,袖口にゴムテープを通す。

❾疊み方　コート類と同じく上圖のやうに前明を上に出して疊んでおく。

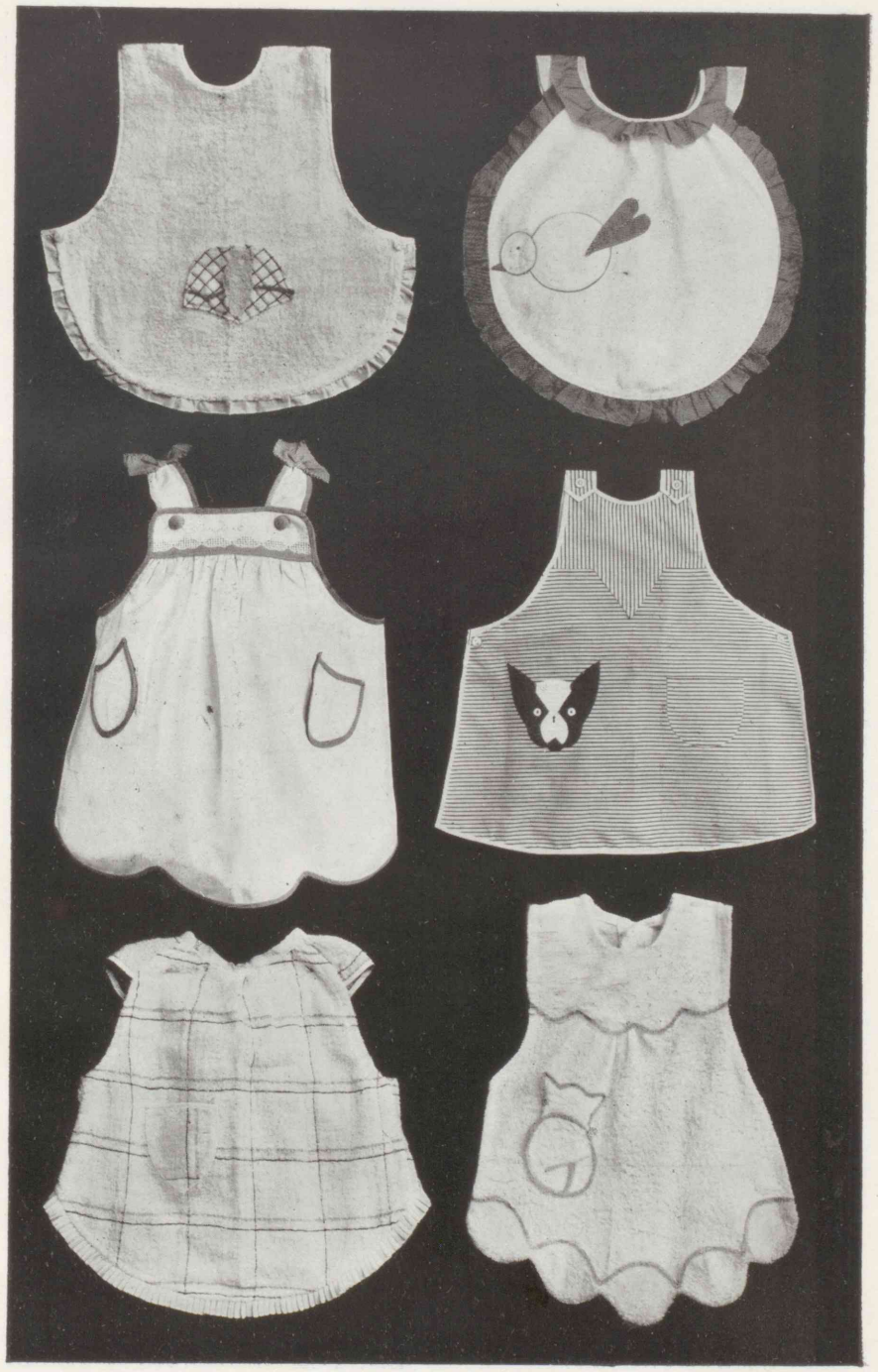


衿ぐりの型(參考)

衿ぐりの型を參考して各自の好みのものを作るのもよい。



涎掛の參考



エプロン各種

エプロンの參考

附　　錄

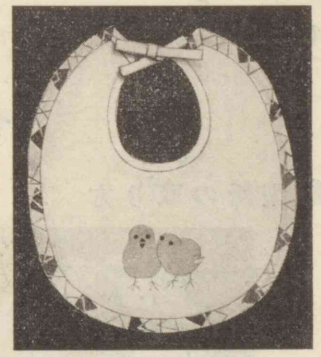
應用自作研究材料

(1)　涎　掛　その一

❶ 地質

1. 表　メリンス・羽二重・富士絹・ガーゼ・ポプリン・タオル地など。
2. 裏　キャラコ・新モス・フランネル輸出羽二重など。

飾　レース・テープ,刺繍など。



出來上り

❷ 型紙の取り方

幅二つに折り,下圖の寸法に裁つ。

❸ 布の裁ち方

用布の積り方

幅 21 cm　丈 23.5 cm

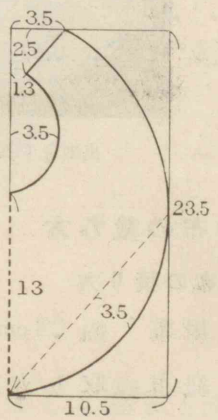
緣布(別布)斜に取る。(レースでもよい)

幅 3 cm　丈 60 cm(廻り丈＋餘裕)

紐布(共布)

幅 2.5 cm　丈 20 cm 位

表・裏共幅を二つに折つて,型紙を當てて裁ち切る。縫代は附けないでもよい。



型　紙

❹ 仕立て方

1. 飾縫　表布に好みに,よつて飾縫をする。

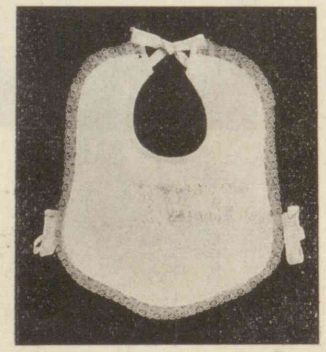
2. 表裏合せ 表・裏の周圍を綴ぢ合せ,緣布を裏の方に當てて三枚で縫ひ,緣布の幅を定めて端を折り,見返しの端に表よりミシンをかける。

3. 紐附 衿廻りを綴ぢ合せ,紐布を表の方に縫ひ附け,次に兩端を縫ひ,幅を定めて折り端から端まで紬ける。

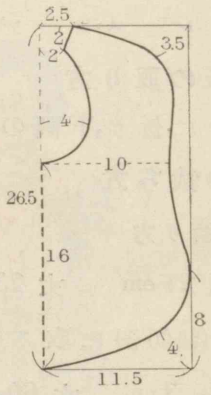
4. 仕上げ 地質によつて霧を吹き,アイロンをかける

その二

❶ 型紙の取り方



出來上り(裾丸型)



型 紙

❷ 布の裁ち方

用布の積り方

用布 幅 23 cm 丈 26.5 cm

紐布の取り方は,(その一)に同じ。

緣布はレースを用ひる。レースは幅 1 cm 位,丈身頃の周圍＋襞の分(約 20 cm)取る。

❸ 縫ひ方

1. 緣布附 レースは 2 cm おき位に襞(0.3 cm 位の)を取り,身頃と中表に合せて綴ぢ,見返し布をのせ三枚一諸に縫ひ,見返し布で縫代を包み,表よりミシンをかける。

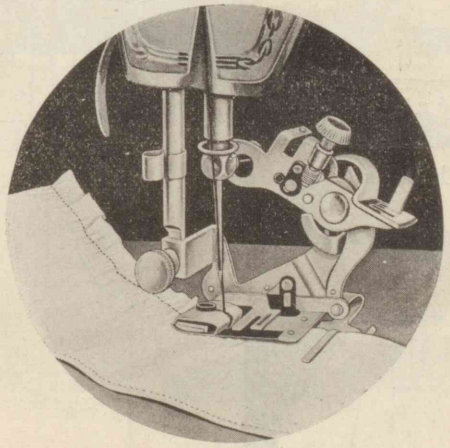
2. レースの兩端及び後中央は,細く三つ折にする。

3. 前衿ぐりに玉緣を取る。

4. 紐を作り身頃に附けることは(その一)に同じ。

5. 前と同じに仕上げをする。

ミシンの附屬機を用ひて襞を取つてもよい。



襞の取り方

問 題

(1) 本文の涎掛型の變つたもの二・三を工夫して型紙を作りなさい。

(2) 參考圖によつて二・三歳用のも,二枚作りなさい。

(2) 子供用エプロン　その一

エプロンは實用上ばかりでなく,一種の裝飾にもなつて子供の和服・洋服何れの場合にも用ひられる。度々洗濯するものであるから褪色の憂ひの少ないものを選ぶ。

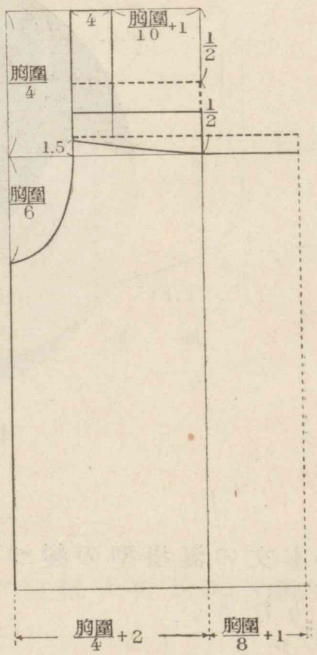
出來上り　前

後

❶地質　キャラコ・ギンガム・ピケ・ボイル・ネルなど。

飾　刺繍・レース斜布など。

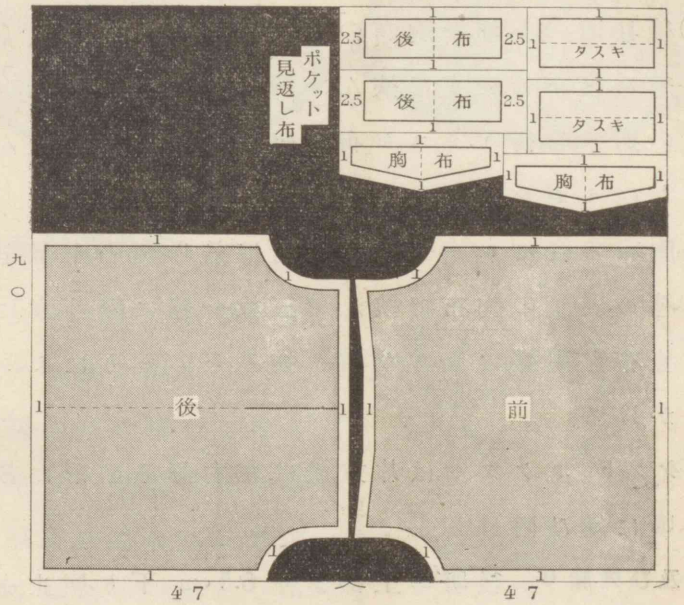
❷型紙の取り方



裾幅は胸圍の約 1.5 倍より 2 倍位まで,布幅によつて加減してよい。胸及び裾にはレースを附ける。この時裾はレース幅だけ丈をつめておく。

❸布の裁ち方

下圖のやう型紙を配置し,廻りに 1 cm の縫代を附けて裁つ。後布は持出しの分だけ廣く取る。



布の裁ち方

❹仕立て方

1. **後切込の仕末**　後中央を脇のくりまで切込を入れて,持出し・見返しを附ける。
2. **脇ぐりの仕末**　細く三つ折にして,ミシンをかける。

或は見返し布を附けてもよい。

3. 裾　レースと身頃とを中表に合せて縫ひ,レースで身頃の縫代を包み,表に返し折山より **0.2** cm 入つて廻りにミシンをかける。

4. タスキ及び前後の布附

(一)タスキの布幅を二つに折り,兩端にミシンをかける。

(二)後身頃の上部を胸布の半分より重りだけ廣く縫ひ縮め,後布の表裏で挾んで縫ひ表に返す。次に後布の廻りを折り,タスキ布を脇のくりの方に挾んで,廻りにミシンをかける。

(三)胸布の表にレースを綴ぢ附け前身頃の上部を縫ひ縮め,表・裏の胸布で挾んで三枚一緒に縫ひ,表に返し後布と同樣にタスキ布を挾み,その廻りにミシンをかける。

5. ポケツト　ポケツトは片方,或は左右好みの形に裁つて身頃に縫ひ附ける。

6. 釦及び穴縢り　後明の上部より **0.5** cm 下り,明止まりとの間を四等分し,端より **0.8** cm 入つて三箇の穴を明け穴縢りをする。持出しの方に穴に合せ釦を附ける。又はスナツプ留にしてもよい。

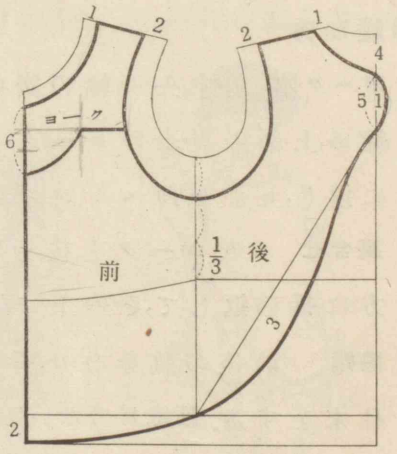
7. 仕上げ　霧を吹きアイロンをかける

その二

出來上り　前

後

❶型紙の取り方



1. ウエイストの原型によつて型紙を取る。肩幅・前後の衿ぐりなどは,形よく適宜に定める。

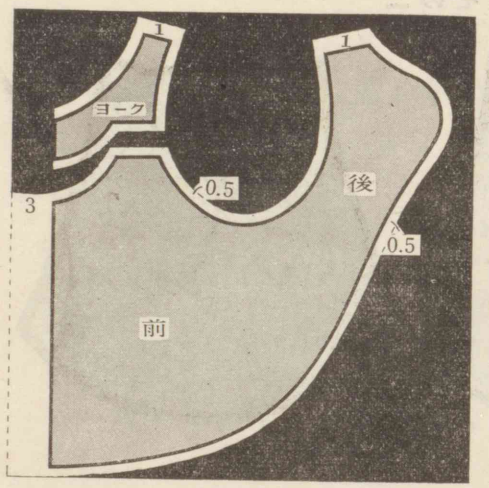
2. 和服用の場合には,袖ぐりを袖附の寸法により洋服用のものより,多くくればよいのである。

3. ヨークの型・ポケツトの型は任意である。

❷布の裁ち方

布の都合で脇に縫目を附けてもよい。

縫代の附け方



布の裁ち方

肩1cm,その他は0.5cm
前の中央では襞の分
4cm～6cmを出す。

紐 {幅　5cm(二枚)
　 {丈　45cm内外

ポケット布(二枚)

前ヨーク布(二枚)表裏

緣布 {幅…4cm
　 {丈　身頃・袖ぐり
　　周圍×1.5

❸縫ひ方

1. **ヨーク附**　前中央の幅の廣い分だけ,上部に合せて縫ひ縮め,上部の裏・表のヨークで挾み,三枚一緒に縫ふ。表に返し,上より押へミシンをかける。
2. **肩合せ**　表ヨークと後身頃の肩を縫ひ合せ,ヨークの方に折を返して,その上に裏ヨークをまつり附ける。
3. **脇縫**　前後の脇を合せ,肩と同じに後に返して縫代の仕末をする。(脇縫目のない時はそのまま)
4. **ギヤザー布附**　ギヤザー布を身頃の周圍に合せて縫ひ縮め,バイヤス布と身頃との間に挾んで三枚一緒に縫ひ,縫代をバイヤスで包んで仕末する。

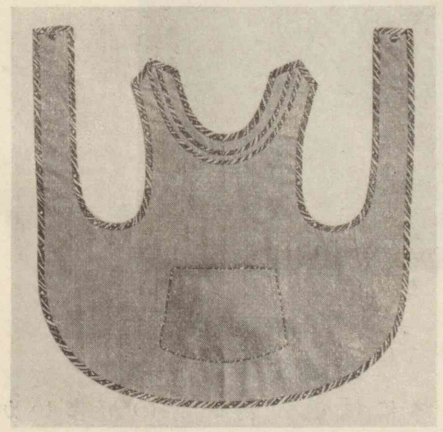
5. 袖ぐりの周圍も同樣にして,附ける。裾及び袖ぐりの終りはギヤザー布を形よく,狹く裁落す方がよい。
6. **前衿ぐり**　バイヤスを附け,裏の方に返してまつる。
7. **後明の仕末**

(一)左右に同じく力布を附け,各々持出しとなし,2cmの重なりに重ね(女兒は右上男兒は左上)て中央に端から0.6cm入り,釦穴の位置を定め穴を明る。

釦穴の大さ＝釦の直徑＋弛み(0.4cm)

穴に合せ釦を附ける。スナップ留にしてもよい。

(二)出來上り圖(7頁)のやうに釦掛にせず,共布で紐を附け後で大きく結ぶやうに作つてもよい。この場合は後衿ぐりを8cm～10cm位くり,左右の紐を作つて



エプロン參考 (1)

參　考 (2)

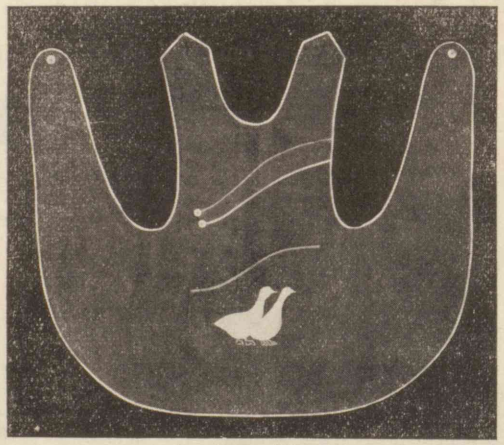
身頃に綴ぢ附ける。紐の兩端は細く三つ折にし,先は劔型にする。

8. ポケツト附　ポケツトの型は適宜に工夫して附ける。

9. 仕上げ　前に準じてすればよい。

參考(1)　身頃の周圍を玉緣となし,脇の縫目を附けずにエプロン(その二)のやうに裁つ。但後は十字にかけて前肩と釦で留めるため,後を圖のやうに長く取つおく。

參考(2)　前後の身頃の周圍は前頁圖(1)と同じく仕末をなし,肩及び脇を釦で留めたものである。但し左肩と左脇とを明けて,右の方は縫ひ附けてしまつてよい。



參考　(3)

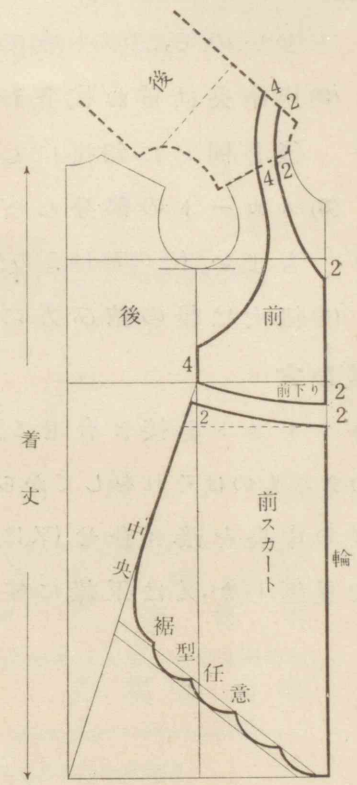
參考(3)　參考(2)と大體同じにすればよい。

注意　既製品のバイヤスには色の弱いものが多いから,使用前に水に濡らして,色をためす必要がある。

(3)　大人用エプロン

❶型紙の取り方

着用圖



型紙の取り方

1. ウエイストの原型から型紙を取る。

2. 前後の肩を突合せにして右圖のやうにおき,後を續けて裁つ。(用布の都合によつては肩に接ぎ目を附けてもよい)

3. 着丈＝ドレス丈－10 cm 位

4. ウエイスト線に接ぎ目を作り,スカートの型紙を取る。

❷布の裁ち方

布の裁ち方は,すべて子供エプロンに準じて裁てばよい。

注意 (1)後中央を接ぎ目にしてもよい。衿ぐりが大きいので,このままでも着用することが出來る。

(2)後中央は重ね代各1cm出して,子供用エプロンの後と同じに釦掛にしてもよい。

(3)スカートの部分にギャザー,又はタックを取つてもよい。(この時はその分だけ布を廣く裁つ)

(4)紐丈は後の結び方によつて,幅と長さを定める。

❸縫ひ方

1. ウエイストを接ぎ合せる。(スカートにタック又はギャザーのあるものはそれをしてから)
2. 後の中央を接ぎ合せ(又は釦掛)身頃の周圍をバイヤスで見返しか,又は玉縁にする。

大正十四年二月十六日印刷 大正十四年二月十九日發行
大正十四年九月十五日訂正再版印刷 大正十四年九月十八日訂正再版發行
昭和二年十二月二十日修正三版印刷 昭和二年十二月廿三日修正三版發行
昭和四年一月廿四日訂正四版印刷 昭和四年一月廿七日訂正四版發行
昭和六年九月十六日修正五版印刷 昭和六年九月二十日修正五版發行
昭和七年一月十六日訂正六版印刷 昭和七年一月二十日訂正六版發行
昭和十年十一月七日修正七版印刷 昭和十年十一月十一日修正七版發行
昭和十一年二月十一日訂正八版印刷 昭和十一年二月十五日訂正八版發行

現代裁縫教科書(巻一·二·三·四)各冊定價金七拾五錢

著作者 吉村千鶴

發行者 東京市小石川區小日向水道町八十四番地 株式會社 東京開成館 代表者 松本繁吉

印刷者 東京市神田區神保町三丁目十七番地 出雲寳太郎

東京市小石川區小日向水道町八十四番地
發行所 東京開成館
振替貯金口座(東京五三二二番)

東京市日本橋區吳服橋二丁目五 東部販賣所 林平書店
大阪市東區北久寳寺町心齋橋筋角 西部販賣所 三木佐助

東京開成館

金澤第一高女

第二學年　組

杉田千代子

教務
422
2000